

Bulgarian Folk Songs
from the Village of Davidkovo
Inhabited by Muslims and Christians

(1) Texts

Edited by Kenji Terajima

— イスラム教徒・キリスト教徒共住村 —

ダヴィドコヴォ村民衆歌謡集

(1) テクスト編

寺島憲治 編

**Bulgarian Folk Songs
from the Village of Davidkovo
Inhabited by Muslims and Christians**

(1) Texts

Edited by Kenji Terajima

— イスラム教徒・キリスト教徒共住村 —

ダヴィドコヴォ村民衆歌謡集

(1) テクスト編

寺島憲治 編

Research Institute for Languages
and Cultures of Asia and Africa (ILCAA)
Tokyo University of Foreign Studies

3-11-1 Asahi-cho
Fuchu-shi, Tokyo 183-8534
Japan

Printed by
Tokyo Press Co., Ltd.

まえがき

本書は、ブルガリア中南部、ロドピ山脈中央部に位置するダヴィドコヴォ Давидково 村で 2002 年から 2003 年にかけて採録した民衆歌謡集で、第 1 巻のテキスト編と第 2 巻の解説・註釈編からなる。

ダヴィドコヴォ村に編者がはじめて訪れたのは、1999 年のことである。社会主義時代、ロドピ地方のようにイスラム的伝統の強いトルコ人やブルガリア人の暮らす地域に調査に入ることは、外国人はもちろん、ブルガリア人の場合も制限されていた。しかし 1989 年から 1990 年に始まる社会主義体制の崩壊によってこの制限が撤廃され、ロドピ地方での調査が外国人にも可能になった。

それにともなって、これまで不十分な情報しかなかったこの地域についてさまざまな調査・研究が再開され、その成果が次々と刊行され始めた。そのような刊行物のなかに、ダヴィドコヴォ村の近くのスポヴォダ山（標高 1943 m、旧名イエニハン山）の山頂にイエニハン・ババと呼ばれるイスラム聖者の廟があり、この聖者をめぐって近隣のいくつかの村に伝わる興味ある説話が紹介されていた。聖者廟の北西にあるドリャノヴォ村では、イスラム聖者イエニハン・ババは廟のある山頂に暮らしているが、キリスト教の聖者ゲオルギはこの村の谷あいに住居していて、互いに義兄弟の契りを結んでいるという。また、ダヴィドコヴォ村には、イエニハン・ババは、キリスト教の聖人イリヤその人に他ならないという説話が語られているというのである。

これらの説話を村びとたちからじかに聞いてみたく思い、ドリャノヴォ村とダヴィドコヴォ村を訪問した。村びとに尋ねて回ったが、残念なことに、これらの説話を語る人はもう存命でなかったり、話しを聞いたことがあるが思い出せないという人たちがほとんどで、調査は文献が中心にならざるを得なかった。

しかし、調査の過程で、村では民衆歌謡が歌い継がれており、現在でも歌い手が少なくないことを知った。彼らの歌う歌にはキリスト教徒、イスラム教徒の宗教の違いをこえて共有されている歌も多くあり、これらの歌を通してキリスト教とイスラム教の共存を、イエニハン・ババ伝説とは別の側面から照らし出し、この 2 つの異なった宗教の下に横たわる地方の基層文化をうかがい知ることができるのではないかと考えて、ダヴィドコヴォ村

に拠点を定めた。その後、機会あるごとに何度か村に通い、2002年から2003年にかけて本格的な採録作業に取りかかって、集めた200曲以上の歌を整理してテキストにしたのが本書である。

本書の成立には多くの方々の協力を得た。数多くの歌を歌ってくださった、**Фатме Дервишева**さん、**Бистра Гаджева**さん、**Рамадан Койнарчев**さんには感謝している。皆さんは、いくつもの歌を歌詞をいっさい見ずに歌ってくださった。**Фатме Дервишева**さんは、いくつもの歌詞をつぎつぎと暗唱して、そのなかから選んで歌ってくださったので、この地方の方言に慣れていなかった最初の頃にはそれがとてもありがたかった。彼らの歌いぶりについては、いくつかの歌を選択しCDにして添付する予定なので、お聴きいただけたら幸いである。

前村長の**Стефан Кирилов**さんは、このような素晴らしい歌い手たちとの出会いの機会を作ってください、その後も村を訪問するたびに彼にお世話になった。この村の方言について最初の第一歩をご教示下さり、その後も聞き取りでのご協力や方言的語彙の説明などを厭わずしてくださった公民館職員の**Бинка Шаламанова**さん、定宿のように部屋を提供して下さった**Коста Каневски**さんなど、記して感謝すべき人は多いが、紙幅の都合もあり、お世話になった村の多くの人びとには、この本を見ていただくことで感謝の意を表したいと思う。

ブルガリア科学アカデミー会員で民族音楽学の権威**Николай Кауфман**氏は、私の質問に幾度か貴重な時間を割いてくださった。氏は、すでに1970年に『ロドピ地方民衆歌謡集』(Народни песни от родопски край)を**Тодор Тодоров**氏と共編で上梓されており、私の不十分な調査についてお話したところ、ロドピ地方の一つの村だけを取り上げて編纂された民衆歌謡集はこれまで出版されたことがなく、氏の編纂された上記の歌謡集も社会主義時代にあってイスラム教、ポマク、トルコなどに関する歌詞で意図的に改変された個所もあるので、きちんとしたテキストを作成しておく意味はあると勇気づけてくださった。

本書の出版については、アジア・アフリカ言語文化研究所元所長の上岡弘二先生にご尽力いただいた。先生とは、**ダヴィドコヴォ**村と**イエニハン・パバ**廟を何度か一緒に訪れている。実際の調査もさりながら、調査行の途次、イスラム文化のさまざまな側面について興味ある話をお聞かせ下さったが、そのいくつかは註釈や解説にも利用させていただいた。改めて謝意をここに記することにする。

佐島隆氏には、氏が研究代表者をつとめる科学研究費補助金による「アレヴィー・ベクタシ集落における伝統文化の変化と持続に関する調査研究 —トルコおよびブルガリア—」に声をかけていただき、その調査旅行の機会を一部利用してダヴィドコヴォでの民衆歌謡の調査も行った。記して感謝する。

本書の刊行準備のさいして、原稿整理で松前もゆるさんのお手をわずらわせた。ご協力がなかったなら本書も今のような形をとっていなかったかも知れない。紙上を借りてお礼申し上げたい。

2004年9月

寺島 憲治

テキスト表記の原則

- 1) 採録した民衆歌謡の文字化は、テキストとしての読みやすさを考慮しながら、発音の再現を旨とする。
- 2) 子音字 **щ** や母音字 **ю, я** については、これらを用いる。ブルガリアで刊行された一部のテキストに見られるように、音声表記のためにこれらの字母を複数の字母や記号に分解して表記することはしない。
- 3) 子音の同化はテキストの表記に反映させる。
- 4) 軟子音を表すために **ь** を用いる。この文字は、標準ブルガリア語では子音+**ьо** の結合でしか用いられないが、テキストではその他の場合にも用いて、先行する子音の軟音性を表す。ただし、歌い手や歌により、あるいは同一の歌い手、同一の語でも歌詞の場所により軟音化の現われる度合いがさまざまで、軟音化が弱かったり判断のつかない場合には、これを表記しない。
- 5) 民衆歌謡を採録した中部ロドピ地方の **Давидково** 村では、母音 /a/, /e/, /o/ は北東ブルガリア方言のように /ъ/, /и/, /у/ への規則的な変化が認められず、また個人差も大きい。表記は歌い手の発音に従うが、変化が明確でない場合、**Л. Андрейчин и др., Български тълковен речник, София, 1994⁴, Институт за български език при БАН, Речник на българския език, София, 1977-, Речник на съвременния български книжовен език, София, 1955-1959** など基本的な辞書の見出し語となっている表記を採用する。
- 6) 中部ロドピ地方の民衆歌謡集の一部のテキストで採用されている広い **o** や **e** を表す **ô** や **ê** などの文字は、これらのテキストを引用する場合以外は用いず、**o**, **e** で表記する。今回採録した民衆歌謡でも広い **o** や **e** が用いられている個所があるが、**Давидково** 村ではこれらの母音の使用が歌い手により異なり、また同一の歌い手でも一貫性が取れていない上に、**o** ~ **ô**、**e** ~ **ê** に体系的な有意味的差異が認められない。これは、**Давидково** 村以西の方言が、歌謡の伝承とともに入り込んだためと考えられる。
- 7) 母音で終わる行末に弱く **й** の音を添えたり、語末と語頭が唇音などで連続する場合に弱い **a** がつなぎの音として挿入される場合がある。これらの現象は歌い手個人の癖

によるもので音節の形成にも関与せず、この村の方言として共有されるものでもない
ので、テキストには表さなかった。

8) 旋律に合わせるために、歌われた語に二重アクセントが出現したり、本来はアクセ
ントのない前接辞にアクセントが現われる場合がある。そのような現象も考慮して歌
詞にアクセント記号はつけなかった。

9) 句読点は、閣僚会議の指令によりブルガリア科学アカデミー・ブルガリア語研究所
で作成された「ブルガリア語における正書法と句読法の原則」に依拠する。この規則
は *Институт за български език при БАН, Нов правописен речник на български
език, София, 2002* に掲載されている。但し、以下の点でこれまでの民衆歌謡のテク
ストで用いられている句読法に依拠し、かつ、それを一部変更して用いる。

- ・行頭の全角ダッシュ (—) は、会話など直接話法の被伝達部の始まりを表す。
- ・伝達動詞と直接話法の被伝達部は、コロンを置いて両者を区別する。伝達動
詞は、行末に来ることが多い。
- ・被伝達部の中で用いられた会話文の引用は、二重引用符でくくって区別する。
- ・その他、前掲の規則に依拠しない句読点の用法については、脚注で示した。

10) 同一語句の行が繰り返されるリフレインは、ブルガリアで刊行されたテキストで
はこの部分は 1 行しか記載されないか、あるいは行末に (2) あるいは (3) と記入
して反復される回数で示するのが一般的である。しかし、採録したテキストを検討す
ると、リフレインは原則として先頭行と最終行では行われぬ。歌詞 2 行に一つの曲が
つけられ、この曲が次ぎの 2 行、それ以降の 2 行と繰り返されて、歌が進行して行く。
リフレインを含む歌詞は、歌詞だけをみると A-B-B-C となるが、ここに曲がつけ
られると 2 行が一つの曲となっているためにリフレインされる B は、前半の B と後半
の B が異なったメロディーを持つことになる。また 2 行単位で歌われるために、A-
B と B-C のあいだに間が生まれる。さらに前半の B が A の歌詞を受けて歌われ、後
半の B が C につながる意味で歌われるために、A-B-B-C という歌詞も、リフレ
インされる B はまったく同じ字面ながら、意味の上では A-B-B'-C ということにな
る。そのため B と B' の意味は別々に解釈される必要があると考えられる。このよう
な構成を巧みに利用して、同じ前置詞でも場所と方向の意味で使い分けられている歌詞
も認められる。もちろん、リフレインを含むものが、全てこのような構成を厳格に守
っているわけではない。しかし、上記の理由から、今回採録したテキストではリフレ

イン部分を省略したり、その回数を付記して示すことはせずに文字化した。その際、リフレイン部の前半をピリオドでとめ、後半の最初の一文字を大文字で始めたものもあるが、これは編者の歌詞の解釈による。

- 1 1) すべてのテキストに、歌の内容を表す梗概を付した。歌を成立させている背景や、詳細な語義、言葉遊びなどについては第 2 巻で解説し註釈した。
- 1 2) 梗概部分の角かっこ内の語などは、編纂者の補足を表す。
- 1 3) 角かっこを用いて[ママ]と表したものは、テキスト部分がそのような内容で歌われていることを示す。

歌い手について

ブルガリアの民衆歌謡のテキストでは、採録地、採録日、歌い手の名前を明示するのが一般的であり、本書でもこれに従った。これらのデータはテキスト末尾の右下に記入してある。ただし、採録地はすべて **Давидково** 村であるので省いた。ブルガリア人の名前には父称と呼ばれるミドル・ネームがあるが、省略されることがしばしばであり、私たちがテキストの末尾の歌い手の名前では、これを省略した。

この村は、ブルガリア語を母語とするイスラム教徒、いわゆるポマクが村人口の約 90% を占め、残りの約 10% がキリスト教徒である。この村では、社会主義時代に強制的に創氏改名が行われた。そのため、社会主義体制崩壊後に旧来のイスラム的な名前に戻した住民もいるが、創氏改名によって選択させられたスラヴ的・キリスト教的な名前をそのまま使っている人びとも多くいる。テキストのデータに歌い手の名前を示す時、歌い手が使っている名前を用いた。そのため、名前から宗教的な帰属性が必ずしも分かるわけではない。

宗教上の点でポマクたちはしばしばイスラム教徒とされるが、この村では、5 回の祈りを欠かさず金曜日にはモスクに通うといった熱心なイスラム教徒はまれである。年中行事や結婚、埋葬といった節目の行事をイスラム教にのっとって行ってきたと言う意味でのイスラム教徒であり、その意味では、「イスラム的な家庭環境に育った人びと」という方が正しいであろう。この点では、キリスト教徒についても同様である。

歌の内容と歌い手が受け継いできた生活環境が直接、間接に関連しているのは論を待たない。そのためブルガリアで刊行された民衆歌謡集には歌い手の出自を巻末に詳細に記述したものもある。しかし、私たちは、創氏改名とその後の経過や、歌が人びとの集まりや共同作業を通して共同体のなかで伝承されてきたことを考慮して、歌い手一人一人の出自について明示することはしなかった。解説などで特にそのような環境に言及する時には、本人の同意を得た。

歌い手たちの名前と、生年は次の通りである。

Ташо Ап. Георгиев

男 1920 年

Фатме Дервишева

女 1929 年

Рамадан Ас. Койнарчев	男	1934 年
Милко Ст. Стефанов	男	1935 年
Костадин Каневски	男	1937 年
Шинка Каневска	女	1940 年
Небие Салихова Дервишева	女	1941 年
Бистра Кар. Гаджева	女	1942 年
Здравко Огн. Красимиров	男	1943 年
Салих Юм. Делисалихов	男	1945 年
Филип Ас. Кънчев	男	1946 年
Милен Шаламанов	男	1950 年

このリストからも分かるように私たちのために歌を歌ってくださった歌い手たちは、ほとんどが 60 歳以上の人たちであるが、彼らの多くはイスラム的家庭環境で育った人たちである。そのような環境を生み出していた宗教行事も、今では村であまり行われなくなったことを付記しておく。

目 次

	まえがき	iii
	テキスト表記の原則	vi
	歌い手について	ix
I	神話的歌謡	1
II	歴史・叙事	13
III	饗礼歌	23
IV	恋愛歌	33
	A 恋への憧れ	35
	B 出会い	41
	C 幼い娘の恋	52
	D 両親と恋する娘・息子たち	58
	E 恋の駆け引き	77
	F 恋の炎	92
	G 遠くにありて思う恋	111
	H 駆け落ち	120
	I 実らぬ恋・不幸な恋	131
	J 嫉妬	151
	K 浮気・道ならぬ恋	155
	L 恋の戯れ歌	166
V	家族	177
	A 母と娘	179
	B 父と娘	193
	C 母と息子	194
	D 母と息子と娘	210
	E 夫婦	211

VI	社会	217
A	世態	219
B	事件	227
C	戦争と兵役	237
VII	労働	247
VIII	病と死	261

I. 神話的歌謠

1. Каква съм мома загалил - I

息子が母親に言いました。母さん、分かるかい、俺が高い山でどんな娘を見初めたか。母親は息子に答えて言いました。ねえ息子、その娘さんはどこの誰だか聞いてごらん。すると息子は言いました。なあ母さん、聞いたけれど、朝には東から夕方には西からきたと、娘は意地悪な物言いをするんだ。

— Да знаеш, майчо, да знаеш
каква съм мома загалил,
каква съм мома загалил
на високана планина.

5 — Питай йе, синко, питай йе
как ми се казва момана.

— Питам йе, майчо, питам йе,
ама ми напук казува,
сутрин се кажи от изток,
10 вечер се каже от запат.

17 март 2002 г.

Ташо Георгиев

2. Каква съм мома загалил - II

息子が母親に言いました。母さん、分かるかい、平らな広い野で俺がどんな娘を見初めたか。母親は息子に答えて言いました。ねえ母さん[ママ]、その娘さんは誰だか聞いてごらん。そこで息子は言いました。聞いたよ、母さん、聞いたよ。でも、娘は何も言わずに、ただ目を見つめるだけなんだ。

— Да знаеш, майчо, да знаеш
какво съм любе загалил,
какво съм любе загалил
ф равноно поле широко.
5 В денем по дваши ми дохода,
по две ми китки донасе,
по две ми китки донасе
и три червени йебълки.
— Питай е, майчо, питай е
10 коя ли ше йе дъщере.
— Питах йе, майчо, питах йе,
ала се право не каза,
ала се право не каза,
само ме ф очи погледна.

11 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев

3. Бре Иване, чобане, сега станва три години

ねえイヴァン、羊飼いさん、あたしのこの山でこの牧場で放牧してから、今じゃ三年に、三年半になるわね。でも、地代は払おうとしないのね。

— Бре Иване, бре чобане,
сега станва три години,
сега станва три години,
три години и половина,
5 как ми паси планинана,
планинана, ширинана,
планинана, ширинана,
пък не мислиш да е плащаш.

3 септември 2003 г.

Костадин Каневски

4. Не иди, момле ле, на вода - I

若者は娘に言いました。娘さん、水場に行くんじゃないよ。水場は遠くて村の外。そこには深い淵があつて高い木々が生え、濃い影ができています。行って寝たら、起してくれる人は誰もいないよ。娘は答えて言いました。いるわよ。ねえ、笛を持った二人の羊飼いの兄弟がいて、一人は晩に、若者たちよ床につきなさい、年寄りたちはもう床についたぞと笛を吹いてくれ、もう一人は朝に、若者たちよ起きなさい、年寄りたちはもう起きたぞって笛を吹いてくれるわ。

— Не иди, момле ле, на вода,
чи ѝе водана далеко,
чи ѝе водана далеко,
далеко, извън селоно.

5 Там има вирве длебоки,
та растат дърве високи,
та растат дърве високи,
та правет сенка дебела,
та правет сенка дебела.

10 Оти щеш, момле ле, заспа щеш,
оти щеш, момле ле, заспа щеш,
нема кой да та разбуди.

— Имам ми, имам, юначе,
двамина брате офчере,

15 и дваминана с кавале,
адинен свери вичеро,
адинен свери вичеро:
“Легайте, млади, легайте,
и старине са легнали.”

20 Пък друген свири вутерно,
пък друген свири вутерно:
“Ставайте, млади, ставайте,
ставайте, млади, ставайте,
и старине са станали.”

19 март 2002 г.

Фатме Дервишева

5. Не иди, момле ле, на вода - II

若者は娘に言いました。娘さん、水場に行くんじゃないよ。水場は遠くて村の外。横になって眠ったら、起してくれる人は誰もいないよ。娘は答えて言いました。いるわよ。ねえ、笛を持った二人の兄弟がいて、一人は晩に笛を吹いて小さな娘たちを眠りにつかせ、もう一人は朝に笛を吹いて小さな娘たちを起してくれるの。

— Не иди, момле ле, на вода,
че йе водана далечко,
далечко, извън селоно.
Легна щеш, момле ле, заспа щеш,
5 нема кой да та разбуди.
— Имам ми, имам, юначе,
двамина брате с кавале,
единен свири вечеро,
малкине моми приспава,
10 пък друген свири вутерно,
пък друген свири вутерно,
малкине моми разбуда.

11 март 2003 г.

Бистра Гаджева

6. Тебе ще карам за годеш

羊飼いは雄羊に言いました。なあ、目の回りの黒い立派な雄羊よ、昨日、母さんが俺を村一番の娘に婚約させてくれたので、お前を結婚式の贈物に連れて行くぞ。そこで雄羊は若者に言いました。ご主人さま、あなたの許婚の娘さんが金髪なら、俺の弟の白毛がいますから、あいつを連れてってくださいな。若者は雄羊に答えて言いました。娘は金髪だけど、お前を連れて行くぞ。すると雄羊は答えて言いました。ご主人さま、私を屠った者は、手が干からびてしまいますぞ、私を食べた者は、その肉が喉を通らずに残りますぞと。

- Овньо льо, вакъл, каматан,
фчера ма майка главила
на баш момана ф селоно,
тебе ше карам за годеш.
- 5 — Сейбиьо, мои сейбиьо,
ку ти йе руса момана,
че имам брат ми беличес,
та нега карай за годеш.
- Овньо льо, вакъл, каматан,
10 те ми йе руса момана,
ама ща тебе да каркам.
- Сейбиьо, мое сейбиьо,
който ма мене заколи,
ръката да му иссъхне,
15 който от мене накуси,
на гърло да му остане.

11 март 2003 г.

Бистра Гаджева

7. Вградена невеста

三人の兄弟が城塞を建てていました。彼らは、城塞を建てながら約束しました。三人は、昼間は明るい日の下で建て、夜には月の光の下で城塞を建てていました。三人の兄弟は約束しました。明日、朝一番にやって来た者をこの城塞に埋めることにしようじゃないかと。やって来たのは、一番年下の一番綺麗で一番の見目麗しい[若嫁]でした。彼[若嫁の夫の末弟]は、目配せで手を振って「早く戻るんだ」と言いました。でも若嫁は「早く来るんだ」と言っていると思ひ込み、彼女がやってくると、三人の兄弟は彼女を[城塞に]埋めました。

- Троица брате града градили,
града градили и са здумвали.
Дене ѝе градят на ѝесно слънце,
вечере ѝе градет на месечинка.
- 5 Троица брате са са здумали:
— Който ни дойде утре най-рано,
който ни дойде утре най-рано,
нега щем в града, в града да вградим.
Че са зададе най-малкенона,
- 10 най-малкенона, най-хубавана,
най-хубавана, най-каматнана.
С очи хи маха: “Назад са върни !”
С ръки хи маха: “Назад са върни !”
Нехи са справи: “Хайде по-бърже”,
- 15 нехи са справи: “Хайде по-бърже”,
и те дошлала и е вградили.

19 март 2002 г.
Фатме Дервишева

8. Стани ми, любе Стояне

若嫁で若い寡婦のヴェリチカは、ストヤンの屋敷の庭で泣き出しました。ヴェリチカは泣いて、泣き言を言いました。ねえ、起きてよ、ストヤン。あんたの馬は柵のなかでいなないているわ、羊は囲いで鳴いてるわ、子供は揺りかごで泣いてるわ。するとストヤンは墓のなかから言いました。なあ、起きられないんだ。重い土が俺を押しつけ、蛇が俺の目を飲み、心臓に巣くっているんだと。

Заплакала ѝе Величка,
Величка млада невеста,
Величка млада дувичка
на стоянови дворове.
5 На стоянови дворове
Величка плаче, нарежда:
— Стани ми, любе Стуене,
конче ти цвили ф обори.
Конче ти цвили ф обори,
10 офчици бляят ф кошари,
дете ти плаче ф люлчица.
Стоян од гроба продума:
— Не мога, любе, да стана,
тешка ма земе притиска.
15 Тешка ма земе притиска,
змийка ми очи изпила.
Змийка ми очи изпила,
на сърце гнездо извила.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

9. Невеста от гроб продума

Давдево村的中央地区でどんなことがあったのか、聞きました。白いお屋敷の若妻が、九日間、病の床につき、十日目に亡くなったそう。彼女の義弟のメフメトが、墓のそばで二頭の騾馬を走らせていると、墓からその若嫁が話しかけました。あなたの兄さんは綺麗な後添を娶りましたか、父さんは長椅子に座っていますか、[後妻は]母さんに使えていますかと。メフメトはその声に答えて言いました。兄貴は結婚したけど、後妻はあんたに似ていないな。

- Ве чули ли сте, не ли сте,
кина ѝе ново станало
в Давудьво село големо
въф средничкана махала ?
- 5 На беличконо коначе
млада невеста легнала,
девет ѝе дене лежела,
на десетно ѝе умрела.
Мехмет низ гробе, въз гробе
- 10 чиф си мулета караше.
Невеста од гроб предума:
— Мижу льо, мижу Мехметьо,
ожени ли са аго ти,
найде ли инге хубава ?
- 15 Бобот му диван седи ли,
майци ти измет праве ли ?
— Аго са инге ожени,
ама ми тебе не меса.

11 март 2003 г.

Бистра Гаджева

II. 歴史・叙事

1. Хайдутите се молеха

Хайдутинたちが願うことには、この冬は終わって春と夏が来てくれ、森は葉を茂らせて、俺たちハイドутинを隠してくれ、キャラバンを抱えたハイドутинたちを、キャラバン頭のいるキャラヴァンを。

Хайдутене са молеха
да им са свърши зимана,
да дойде лето й пролето,
да са разлистне горана,
5 да са разлистне горана,
да ми прекрие хайдуте,
хайдуте със керванене,
керване з баш керванджие.

28 август 2002 г.

Бистра Гаджева

2. Горице ситна зелена

鬱蒼たる緑の森よ、俺はお前を信じていたが、お前は当てにならないやつだと分かった。奴らが[森に隠れていた]俺を捕まえて、後ろ手に縛り上げ、道を行けと言ったんだ。

— Горице ситна, зелена,
е съ на тебе веровал,
пък ти излезе неверна,
та си ма, горо, фатиха,
5 назат ми роки вързаха,
напреш ми потен казаха.

7 септември 2003 г.

Шинка Каневска

4. Сахида се е загубил - II

Сахийдаは姿を消してしまい、広場のどこにもいませんでした。父さんは息子を探し、店から店へ居酒屋から居酒屋へと回ってサхийダの消息を尋ねました。[そして事情を知った父親は言いました。] サхийダ、なあ息子、お前は利巧に立ち回ってたけど、やつはお前を巧みに騙し、やつらは騙してお前の首を取ったんだぞ。

Сахида са ѝе загубил,
нийде го нема на мейдан.
Нийде го нема на мейдан,
бубайко му го трасеше.
5 Бубайко му го трасеше,
од дюкян в дюкян ходеше.
Од дюкян в дюкян ходеше,
от кръчма ф кръчма ходеше.
От кръчма ф кръчма ходеше
10 и за Сахида питаше,
и за Сахида питаше.
— Сахида, синко Сахида,
Сахида, синко Сахида,
ти ми са хитър мъчеше.
15 Ти ми са хитър мъчеше,
ала ѝ та хитър измами.
Ала ѝ та хитър измами,
та ти главата зимаха.

11 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев
и Милен Шаламанов

6. Провикна се Дели Димо

荒くれディモは叫びました。森番で射撃の名手の荒くれディモは、ボヤンの林からボグダンの林から叫びました。おいお前ら羊飼いども、ボヤンの林から羊を追い出すんだと。誰もがその声を聞いて了解したのに、ただ一人一番小さな羊飼いだけは、荒くれディモの声も聞かず了解もせずに、銅の笛を取り出して、やさしくも物悲しげに吹き始めました。

Провикна се Дели Димо,
провикна се Дели Димо,
Дели Димо куруджие,
куруджие, куршумджие
5 от кория боянова,
от кория боянова,
боянова и богданова,
боянова и богданова:
— Ой ва вази шилетари,
10 искарвайте шилетата
от кория боянова,
искарвайте шилетата
от кория боянова.
Фсички чули и разбрали,
15 фсички чули и разбрали,
най-малкото шилетарче
нито чуло, ни разбрало,
най-малкото шилетарче
нито чуло, ни разбрало.
20 Че извадил меден кавал,
че извадил меден кавал,

па засвирил милно, жално,
па засвирил милно, жално.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

7. Турци са минали и за Рада кон довели

村よ、村よ、俺たちの村よ。人が住みついてこの方、トルコ人が立ち寄ったことはなかったけれど、昨日の晩、二人づつ三人づつトルコ人たちがやってきて、ラダの家に九人がやってきた。九人は、ラダにも一頭をと、十頭の馬を連れてきた。

Село, село, наше село,
откак са си заселило,
откак са си заселило,
турци не са минавали,
5 турци не са минавали,
минавали, кондисвали.
Снощи вечер са минали
де по двама, де по трима,
де по двама, де по трима,
10 у радини деветима,
у радини деветима,
деветима з десет коне,
деветима з десет коне
и за Рада кон довели.

9 септември 2003 г.

Бистра Гаджева

III. 儀礼歌

1. Да разшените байрама

(Пайрам 歌)

鉄砲を打ち鳴らせ、お若いの！ Пайрам祭を陽気にするためたとえ一発でも。代わり映えのないまる一年、十二ヶ月をかけてПайрам祭はゆっくりとやって来たのだから。

Пукайте, казъм, пукайте,
барем еннъшком пукнете,
барем еннъшком пукнете
да расшените байреман,
5 да расшените байреман,
че байрем лечка дохода,
че байрем лечка дохода
за цала равна годинка,
за цала равна година,
10 и за оники месеца.

30 август 2002 г.
Фатме Дервишева
и Бистра Гаджева

2. Байрам няма да има

(Пайрам 歌)

あたしたち、一年間、パイルム祭を待ったけど、パイルム祭はありそうもない。白い雪が降ったので、若者や娘たちは、どうして細い坂道をやってきて屋敷のお庭に集まれるかしら。

Година байрем чекахме,
пък байрем нема да има,
пък байрем нема да има.
Летнаха бели снегове,
5 каг да са зберат момине,
момине и юнацине
по летвичкине пътьове,
по равничкине дворове.

5 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

3. Да погиздим малката мома

(婚礼歌)

さあ、鍵を頂戴。綺麗な長持を開けましょう。綺麗な長持を開けましょう。あれやこれやみんな引き出しましょう、あれやこれやみんな、絹のものも銀のものもね。小さな娘を着飾らせて、踊りに連れてゆきましょう。手に手をつないで行きましょう。敵たちを悔しがらせてやりましょう。私の敵も、あなたの敵もね。

— Подай си ми, мари, ключковене,
да отключим, мари, шерен сандък,
да, мари да.

— Да отключим, мари, шерен сандък,
5 да извадим, мари, сичконо дребно,
да, мари да.

— Сичконо дребно, мари, копринено,
копринено, мари, гюмюшено,
да, мари да.

10 — Да погиздим, мари, малкана мома,
да е водим, мари, на хороно,
да, мари да.

— Да са фатим, мари, по за ръка,
да са пукат, мари, душманене,
15 да, мари да.

— Да са пукат, мари, душманене,
йем и мойне, мари, хем и твойне,
да, мари да.

5 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

* 下線部は、囃子詞として挿入されている。

4. И няма скоро да дойда

(婚礼歌)

ねえ母さん、あたしを叱ってくれたら良かったのに、あたしを遠くにお嫁に出してくれなかったら良かったのに。日が傾いて、傾くと戻って来ないあんな遠くに。母さん、あたしは行くけど、直ぐには来れないわ。冬には白い雪のため、夏には情け知らずの盗賊のため。

— Да ма бе, майчо, карала,
та да не ма бе давала,
та да не ма бе давала
солкова, майчо, далече,
5 дено слъцено превале,
превале, пък са не връща.
И е ща, майчо, да идам
и нема скоро да дойда
земе от бели снегове,
10 лете от върли хайдуте.

5 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

5. Ще ида далечко

(婚礼歌)

やめて母さん、あたしを叱らないで、あざけるのはやめて。後で悔やむことになるわ。あたしは高い山の向こうの遠くに行って、冬は白い雪のため夏は盗賊のすむ森のため、足しげくお客には来れなくなるのですから。

— Немой ма, майчо, ни карай,
ни карай, ни поддривай.

Сетне щеш пишман да станеш,
чи ща далечко да идам,

5 чи ща далечко да идам

зад високана барчина,

зад високана барчина.

Често ти госка ни ща до,

често ти госка ни ща до

10 зиме од бели снегове,

земе од бели снегове,

лете од гора с хайдуте.

8 септември 2003 г.

Фатме Дервишева

6. Сега те, китко, оставям

(婚礼歌)

緑や赤いお花さん、あたしはあなたに土の手入れして水をやり、露に濡れないように霜枯れしないようにと、夕方には絹の布をかけてたわね。でも今日、あたしはあなたを置いて行くのよ。敷物をかけた馬に乗って遠くへ行くの。日の傾いているあちらの方へ。

— Китко зелена, червена,
млочко та праших, поливах.
Млочко та праших, поливах
и вечеро та покривах.
5 И вечеро та покривах
със копринена кърпечка,
със копринена кърпечка
да та не роси росана,
да та не роси росана,
10 да та не пари сланана.
Сега та, китко, оставем,
йе ща далечко да идам.
Йе ща далечко да ида
на конче и на килимче,
15 на конче и нах килимче,
дено слъцено превале.

17 март 2002 г.
Фатме Дервишева
и Бистра Гаджева

7. Ела се свива, развива

(婚礼歌)

モミの木は風に揺れて伸びたり縮んだり、そして、娘も一族に別れを告げます。さようなら、大きな一族よ、あたしを生んでくれたお母さん、九ヶ月お腹のなかで、三年手のなかで私を育ててくれたお母さん。

Ела са свива, развива,
мома са с рода прощава.
— Прощавай, родо голема,
и ти, рожделна майчице,
5 дет ма си млочко кутила
девет месеца на сърце,
девет месеца на сърце
и три години във ръце.

30 август 2002 г.

Бистра Гаджева

8. Пукни се, тресни, момина майко

(婚礼歌)

娘さんのお母さん、怒り悲しみ思いのたけをぶちまけても良いですよ。私らはあんたの小さな娘さん
をもらったのですからね。この真昼の日中に、明るい日の下の真昼の日中に。

Пукни са, тресни, момина майко,
нали ти зехме малкана мома,
нали ти зехме малкана мома,
малкана мома на ден планнина,
5 малкана мома на ден планнина,
на ден планнина, на йесно слънце.

5 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

IV. 恋愛歌

А. 恋への憧れ

1. Овчар свири горе в планина

羊飼いが上の山で笛を吹くと、娘が下の野で歌います。ここには放牧してない手つかずの草がありますよ、ここには飲ませたことのない手つかずの水がありますよと。羊飼いは山から娘の歌を聴くと、群れを野に連れて行き、手つかずの草を食ませ、手つかずの水を飲ませ、そして恋を知らない娘を好きになりました。

Офчар свири горе у планина,
мома пее долу у пулето.
Мома пее долу у пулето:
— Тука има трева непасена,
5 тука има трева непасена,
тука има вода непуена.
Де ѝе зачу уфчар ут планина,
че заведе стадо у полето,
па заведе стадо у полето,
10 напасе го трева непасена.
Напасе го трева непасена,
напуи го вода непуена.
Напуи го вода непуена,
па залюби мома нелюбена.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

2. Другият байрам иде да дойде

Байрам祭が過ぎ去って、もう一つのバイラム祭がやってくる。お土産を、カシミアや絹の布地を遠くからもってきて[贈る]許婚の恋人がいないのに、そんなバイラム祭がやって来たとして、なんになる。

Ей да са байрем помина
и друген иде да дойде,
и друген иде да дойде.
Защо ми иде да дойде,
5 га нема любе главену
армаган да му преводем,
армаган да му преводем,
инено и копринено.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

3. За вас време няма ли да дойде

Акасияの木は[風に揺れて] 撓んだり伸びたり、まるでピラミッド祭から戻って晴れ着を脱いで飾り
はずす小さな娘のよう。頭から斜^{はた}にかぶったフェス帽を、肩から上着を、腰から飾り布を、身体から
シャルヴァリを脱ぐ娘のように。脱ぎながら娘は言います。ねえ、いまましいシャルヴァリったら、
あんたにはそんな時が来るかしら。この身体からあんたが脱がされて隅に放り投げられて、真中であ
たしが[身を]よじらせられる時なんて。

Люлекан са свива, развива,
като малко момиченце,
като малко момиченце,
га са върне от байреман,
5 га са върне от байреман,
от байреман, от селеман,
га засвале гиздилоно,
гиздилоно, кичилоно:
од главана — кривоно фесче,
10 от рамцана — салтицана,
от рамцана — салтицана,
от кърсчено — кошечено,
от кърсчено — кошечено,
от снашкана — шалварене.
15 Хем ги свале, хем им дума:
— Ой шалваре опустели,
ой шалваре опустели,
за вас време нема ли да дойде
да ва сваят от снашкаса,
20 да ва фърлят във кюшана,

да ва фърлят въф кюшана,
мен да згърчат въф срадана ?

30 август 2002 г.

Фатме Дервишева

и Бистра Гаджева

4. Там има три девойки хубавици

愛馬よ、さあ、昨日の晩に行ったところへまた行こう。あそこには三人の姉妹がいるんだ。行くと、長女は長椅子に座り、次女はコーヒーを沸かし、三女は馬を引きつれ草を食ませに出かけて馬に尋ねます。ねえお馬さん、あんたのご主人は結婚しているの、良い人がいるの。馬は答えて言います。結婚も婚約もしていませんよ、結婚したいって言ってるんです。

— Коньо, коньо, хранен коньо,
хайде, коньо, да идеме.
Хайде, коньо, да идеме,
дено бехме сноща вечер.
5 Тамо има три девойки,
три девойки хубавици.
Първана ми диван седи,
фторана ми кафе вари.
Фторана ми кафе вари,
10 третана ми кон разведа.
Кон разведа и распитва:
— Коньо, коньо, хранен коньо,
коньо, коньо, хранен коньо,
твой сайбие женен ли е?
15 Твой сайбие жинен ли е,
жинен ли йе, главен ли е?
— Не йе женен, не йе главен,
сига вика да са жени.

22 март 2002 г.
Фатме Дервишева
и Бистра Гаджева

5. Шинка без любе бива ли

Шинкаは、曲がりくねった小道を下って水を汲みに行きました。小道にはポプラが、ポプラには小鳥が、斑の小鳥の小夜鳴き鳥がシンカに言いました。ねえ、白いお肌に黒い瞳の綺麗なシンカさん、好きな恋人はいるんですか。シンカは答えて言いました。斑の小鳥の小夜鳴き鳥さん、羊飼いのいない羊の群なんているかしら、恋人のいないシンカなんているかしら。

Шинка на вода търнала
нис криво, лево сокаче.
На сокачено каваче,
на кавачено пиленце,
5 пиленце, пъстро славейче,
то си на Шинка думаше:
— Шинко льо, мари, хубава,
кано си бела, черночка,
като си бела, черночка,
10 имаш ли любе да любиш ?
— Пиленце, пъстро славейче,
стадо без офчар бива ли,
стадо без офчар бива ли,
Шинка без любе да бива ?

22 март 2002 г.
Фатме Дервишева,
Бистра Гаджева
и Здравко Красимиров

В. 出合い

1. Байрам се мина, помина

バイラム[大]祭が過ぎ、[バイラム]小祭がやってくる。晴れ着は脱がずに着たままで、[手に化粧して入れた]ヘンナ模様は落ちずに黒く炭のよう。ヘンナ模様が黒く炭のようになったのに、恋人とも会ってなかった。母さん、昨日、祭りで彼に会ったわ。あの人は祭りの広場の真中に座って、真向かいであたしを見つめ、白い手を振り、黒い目で目配せをして、綺麗な唇で言ったわ。綺麗な娘さん、僕の心に青い炎をつけたなら、近くにやって来てこれを消してくれって。それで答えて言ったの。心の炎は水では消せないわ、これを消すのは十八歳の娘さんよってね。

Байрем са мина, помина
и малък иде да дойде.
И малък иде да дойде,
мен са гиздило не свале.
5 Кана ми не йе паднала,
черън йе въгъл станала.
Черън йе въгъл станала,
с севде не са сме видвали.
Фчера го видех, майчинко,
10 ф сраде байреман седеше.
Карши на мене гледаше,
з бели ми ръки махаше.
З бели ми ръки махаше,
с черни ми очи мигаше,
15 с кипри ми уста викаше:
— Девойко мари хубава,

девойко мари хубава,
син пламен гориш на мене.
Син пламен гориш на мене,
20 суни са, та го огаси.
— Юначе лудо и младо,
сърце са с вода не гаси.
Сърце са с вода не гаси,
ам си го гаси момиче,
25 ам си го гаси момиче
на осемнайси години.

30 август 2002 г.
Фатме Дервишева
и Бистра Гаджева

2. Водице бистра, студена - I

若者は水場で水に尋ねました。ねえ澄んで冷たい水よ、ちょっと微妙なことを聞くけれど、お前のところに誰が来たのかい。水は答えて言いました。黒い瞳の白い娘がやって来て、去って行きましたよ。黒い瞳であたし[水]を見まわして、白い手であたしを注ぐと、すらりとした身体であたしを担いだんです。そして、曲がりくねった道を通して運んでいって、高い客間に運び上げると、白い顔を洗い黒い髪をくしけずるため、あたしを少し温めたのですよ。

— Водице бистра, студена,
хитричко ше та попитам.
Хитричко ше та попитам.
На тебе кой ми дохада ?
5 — Дохада си ми, йотхада
бело, черночко момиче.
С черни ма очи оглева,
з бели ма ръки налива.
3 бели ма ръки налива,
10 с уйгун ма снашка нараме.
Та ма и насе, принасе
прис криви, ливи сокаци.
Та ма искаче, покаче
на високине къошкъове.
15 Та си ма марна отмаре
белоно лице да мие,
белоно лице да мие,
морнана коса да реше.

22 март 2002 г.

Фатме Дервишева, Бистра Гаджева
и Здравко Красимиров

3. Водице бистра, студена - II

若者は水場で水に尋ねました。ねえ、澄んで冷たい水よ、ちょっと微妙なことを聞くけれど、お前のところに誰が来たのかい。水は答えて言いました。黒い瞳の白い娘がやって来て、去って行きましたよ。すらりとした身体であたしを担ぐと、曲がりくねった道を通して運んで行きました。そして、高い客間に運び上げると、白い顔を洗い黒い髪をくしけずるため、あたしを少し温めたのですよ。

- Водице бистра, студена,
хитричко ше та попитам.
Хитричко ше та попитам.
До тебе кина дохада ?
- 5 — Дохада си ми, отхада
било, черночко момиче.
С тенка ма снашка нараме,
та ма оннасе, принасе.
Та ма оннасе, принасе
- 10 прис криви, ливи сокаци.
Та ма искаче, покаче
навър високи кюшкюве.
Навър високи кюшкюве
та си ма марна одмаре.
- 15 Та си ма марна одмаре
белоно лице да мие,
белоно лице да мие,
морнана коса да чеше.

4 септември 2002 г.

Фатме Дервишева

4. Водице бистра, студена - III

若者は水場で水に尋ねました。ねえ、澄んで冷たい水よ、ちょっと微妙なことを聞くけれど、お前のところに誰が来たのかい。水は答えて言いました。黒い瞳の白い娘がやって来て、去って行きましたよ。黒い瞳であたし[水]を見まわして、白い手であたしを注ぐと、すらりとした腰であたしを担ぎました。そして、高い客間にあたしを運び上げると、色鮮やかなシャルヴァリを洗うため、あたしを少し温めたのですよ。

— Водице бистра, студена,
хитричко ше та попитам.

На тебе кина дохода ?

— Дохода си ми, отхода

5 бело, черночко момиче,
с черни ма очи оглева,
з бели ма ръки налива,
с тенко ма кърсче нараме.

Та ма искаче, покаче
10 навър високи къшкьове,
та си ма марна одмаре
исни шалваре да пере.

2 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

5. Водице бистра, студена - IV

若者は水場で水に尋ねました。ねえ、澄んで冷たい水よ、ちょっと微妙なことを聞くけれど、お前のところに誰が来たのかい。水は答えて言いました。黒い瞳の白い娘がやって来て、去って行きましたよ。黒い瞳であたし[水]を見まわして、白い手であたしを注ぐと、すらりとした身体であたしを運びました。そして、高い客間にあたしを運び上げると、色鮮やかなシャルヴァリを洗うため、あたしを少し温めたのですよ。

— Водице бистра, студена,
хитричко ше та попитам.
Нах тебе кой ми дохада ?
— Дохада си ми, отхада
5 бело, черночко момиче.
С черни ма очи оглева,
з бели ма ръки налива,
с уйгун ма снашка онниса.
Та ма искаче, покаче
10 навър високи къшкьове,
та си ма марна отмаре
йесни шалваре да пере.

13 март 2003 г.

Бистра Гаджева

6. Подай ми, моме, водица

一体、どこで聞いたことがある、見たことがある。黒い土に水がないなんて。あるところにそんな場所があって、娘が水を守っていたんだ。小さな杯で水を量って、その水一杯に金貨一枚さ。下手から旅人がやって来て娘に言ったんだ。娘さん、あんたの右手で水を下さいな。私は喉が乾いて水が欲しいし、娘さん、あんた焦がれているからね。

Де са ѝе чуло, видело, мари,
чернана земе без вода ?
На едно место имаше, мари,
и то ѝе мома чуваше,
5 със филдженчек ѝе мереше, мари,
филджен за алтѣн даваше.
Оддолу иде пътниче, мари,
то си на мома думаше:
— Подай ми, моме, водица, мари,
10 със твoйна десна рѣчица,
че съм за вода загорел, мари,
и за теп са съм заболел.

28 август 2002 г.

Бистра Гаджева

7. Ти да го носиш, аз да те гледам

若い仕立屋が腰を下ろして、布地を切ったり縫ったり、臙脂の晴れ着を仕立てていると、下から小さな娘のファトマちゃんがやって来て、尋ねて言いました。ねえ仕立屋さん、誰の晴れ着を仕立てているの、臙脂の晴れ着を。仕立屋は答えて言いました。お前にさ、ねえ小さな娘さん、お前が身につけ、俺がお前を見つめるためさ。

Седнал ми ѝе млат терзия,
млат терзия, абаджие,
та лу крои, та лу шије
момин фустан гевезиен.
5 Оддолу върви малка мома,
малка мома Фатминчица,
те лу върви, и лу пита:
— Ой терзия, млат терзие,
ой терзие, млад терзие,
10 кому шиеш фустанчено,
кому шиеш фустанчено,
фустанчено гевезиен ?
— Теп го шия, малка моме,
ти да го носиш, ѝе да та гледам.

5 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

8. Райковско бело момиче - I

昨日、下手のライコヴォ村を、市場街を通ったとき、母さん、そこでライコヴォの色白の娘に会ったんだ。その目で俺を見てくれと二百を出して、その唇で俺に言葉をかけてくれと三百出したけど、見てもくれず、言葉もかけてくれず、あっちへ行っってと手で追い払ったんだ。

— Фчера ми минах, мале ле,
приз долно село Райково,
приз долно село Райково,
приз чершискана махала.
5 Там си ми срезнах, мале ле,
райкофско бело момиче,
райкофско бело момиче,
двеста му дадох, мале ле,
двеста му дадох, мале ле,
10 с очинки да ма погледне,
триста му дадох, мале ле,
с устинки да ми продума.
Нито ма с очи погледна,
нито ми с уста продума,
15 нито ми с уста продума,
най си ми с ръки замахна,
най си ми с ръки замахна:
“Махни са, махни, юначе !”

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

9. Райковско бело момиче - II

母さん、スモリャン娘を好きになったんだ。好きだから、好きだから、あの娘を嫁にするぞ。昨日、上手のライコヴォ村を通ったとき、そこでライコヴォの色白の娘に会ったんだ。挨拶をしたけれど、娘はそっぽを向いて、その唇で俺に言ったのさ。お帰り、お若いの、あたしは許婚のいる身、指輪をかわした人がいるのよってさ。

— Залюбих, майчо, загах
една ми мома смоленка.
Галем ѝе, майчо, галем ѝе,
галем ѝе и ше ѝе взема.
5 Галем ѝе, майчо, галем ѝе,
галем ѝе и ше ѝе взема.
Фчера ми минах, мале ле,
приз горно село Райково.
Тамо си видех, мале ле,
10 райкофско бело момиче.
Селем му дадах, мале ле,
пък то са назат йобръща,
с уста му, майчо, продума,
пък то ми река, мале ле,
15 пък то ми река, мале ле:
“Върви си, върви, юначе,
върви си, върви, юначе,
ѝе съм си мома главена,
ѝе съм си мома главена,
20 главена с пърстен сменена.”

20 март 2002 г.

Салих Делисалихов

10. Сестра си имаме, първо си любе нямаме

Заринка е Смирлян村にお呼ばれに出かけました。どンドン歩いて行くうちに道に迷って、二人の羊飼いに会いました。ザフリンカは尋ねて言いました。ねえ羊飼いさんたち、ご兄弟なの。ねえ、道を教えてくださいな。羊飼いたちは答えて言いました。俺たち姉妹はいるけど、恋人がいないんだ。

Търнала ми е Захринка,
търнала ми е Захринка
на Смилян госка да иде,
на Смилян госка да иде.
5 Вървела, колко вървела,
вървела, колко вървела,
ала е пътен збъркала,
ала е пътен збъркала,
срещнала двама офчаре,
10 срещнала двама офчари.
— Офчари, брате да ми сте ?
Яла ми пътен кажите !
— Ние си сестра имаме,
ние си сестра имаме,
15 първо си любе нямаме,
първо си любе нямаме.

5 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

C. 幼い娘の恋

1. Друга гали, мене мами - I

ねえ小さな娘さん、小さくて初心うぶな娘さん、絹と木綿の二枚のスカーフを頭に巻いているのは、どうしてなんだい。娘は打ち明けて言いました。思いの若者が別の娘を愛してあたしを騙しているから、こうしてスカーフを巻いているのよ。昨日の晩、あたしは二人を水場で見てしまったの。彼は愛馬に水を飲ませ、あの娘は冷たい水を汲んでいたわ。あの娘が彼にバジルの花を渡すと、彼はあの娘に鏡をあげて、鏡であたしに言ったのよ。お前の背がもう少し高かったならな、目がもう少し黒かったならってね。

— Момиченце малакичко,
малакичко, глупавичко,
що си глава привързала
с една кърпа копринена,
5 с една кърпа копринена
и съз друга памучена ?
— Йе си йе съм привързала,
чи ми любе друга гали.
Чи ми либе друга гали,
10 друга гали, мене мами.
Сноща си хи сама видех
на водана, на чишмена.
Той си пуи хранено конче,
те си точи студна вода.
15 Те му даде ран босилек,

той хи даде огледало,
с огледало мене дума:
“Да бе малко по-височка,
да бе малко по-височка,
20 да бе малко по-черночка.”

19 март 2002 г.

Фатме Дервишева

2. Друга гали, мене мами - II

ねえ小さな娘さん、小さくて初心^{うぶ}な娘さん、絹と木綿の二枚のスカーフを頭に巻いているのは、どうしてなんだい。娘は打ち明けて言いました。思いの若者が別の娘を愛してあたしを騙しているから、こうしてスカーフを巻いているのよ。昨日の晩、あたしは二人を水場で見てしまったの。彼は愛馬に水を飲ませ、あの娘は冷たい水を汲んでいたわ。彼はあたしにこう言ったの。お前の背がもう少し高かったならな、目がもう少し黒かったならってね。だからあたしは彼に言ってやったわ。あたしは目が黒くて、あなたのお眼鏡にかなうはずだけど、あなたなんかのお嫁にならないわってね。

— Момиченце малакичко,
малакичко, глупавичко,
що си глава привързала
с йедна кърпа копринена,
5 с една кърпа копринена
и съз друга памучена ?
— Йе си йе съм привързала,
чи ми либе друга гали.
Чи ми либе друга гали,
10 друга гали, мене мами.
Друга гали, мене мами,
сноща си хи сама видех.
Сноща си хи сама видех
на водана, на чишмена.
15 На водана, на чишмена
той си пуи хранено конче.
Той си пуи хранено конче,
те си точи студна вода.
Те си точи студна вода,

20 той на мене си ми рече:
 “Да беше малко по-височка,
 да беше малко по-черночка,
 да беше малко по-черночка.”
 “Черночка съм, карар си съм,
25 черночка съм, карар си съм,
 кара си съм, не зимам та.”

17 март 2002 г.

Фатме Дервишева

3. Фесче не можеш да кривиш

娘は若者に言いました。あなたなんて、焼き尽きてしまうが良いわ、娘を思って身を焦がしてしまうが良いわ。あなたの探す娘さんなんてどこにも見つかりはしなから。あたしが、お嫁にしてって言ったとき、あなたは、たいそうぶってこう言ったわね。いやだね、俺には似つかわしくないな、お前はフェス帽子を斜にもできないし、スカートをふわりとさせることもできないのにつてね。

— Гори ми, гори, юначе,
дано за мома изгориш,
дано за мома изгориш,
дано си нийде не найдеш.
5 Зам га ти виках, юначе:
“Земи ма, джанъм, юначе !”
Пък ти ми челъм предаде:
“Не ща та, не ща, девойко,
ти не си мене йекрана,
10 йекрана, ни прилегана,
фесче не можеш да кривиш,
риска не можеш да кошкаш.”

17 март 2002 г.
Фатме Дервишева
и Бистра Гаджева

4. Аз съм мома за галене

羊飼いたちが、羊の囲いからパイラム祭の広場にやってきて、小さな娘を[嫁として]買おうと交渉しました。交渉し話しをまとめようとしていると、娘は言いました。ねえ、羊飼いさん、牛飼いさん、あたしは娘、あんたらが可愛がって手なずける娘だよ。

Излели са офчерене
от Ъгълън на байреман,
от Ъгълън на байреман.
Малка мома пазароват,
5 малка мома пазароват,
пазароват, пазар згадат.
— Брей офчеро, говедаро,
йе съм мома за галене,
йе съм мома за галене,
10 за галене, за мамене.

11 март 2003 г.

Бистра Гаджева

D. 両親と恋する娘・息子たち

1. Стигни го, майчо, питай го

娘は母親に言いました。母さん、昨日、緑の牧場を誰が通ったか知ってる。色白の黒い瞳の若者が、青い鞍に座り灰色の馬を駆っていたのよ。馬はまるで鳥のように飛び、服は火のように輝いていたわ。ねえ、母さん、追っかけてって聞いてよ、結婚してるのかって。結婚してたら、母さん、別れ薬の薬草を彼に摘んでよ、独り者だったら滋養壮健の薬草を摘んでよね。

— Да знаеш, майчо, да знаеш
фчера кина ѝе минало,
фчера кина ѝе минало
през зеленоно ливаде ?
5 Бело черноко копеле
на сиво конче яздеше,
на сиво конче яздеше,
на сино седло седеше.
Конче му пиле фъркаше,
10 руба му огън гореше.
Стигни го, майчо, питай го
женено ли ѝе или не.
Ако са каже женено,
бери му билка разделна,

15 пѣк ко са каже лефтеро,
 бери му билка за здраве.

17 март 2002 г.
Фатме Дервишева
и Бистра Гаджева

2. Дохадай, любе, дохадай

娘は恋人に言いました。ねえ、来てよね、一日に二度三度、日曜日には六度来てよね。父さんをうんざりさせて、母さんをあきれさせて。あたしたち二人が桜草の二本の茎のようにお似合いだと分かせてよ。父さん母さんが、あたしをあなたにお嫁に出してくれるようにね。

— Дохадай, любе, дохадай, любе,
въф денен по двац и по триш,
въф денен по двац и по триш, любе,
въф неделкана шест пъте.
5 Дано на тате дотегнеш, любе,
дано на майка омръзнеш
мене на тебе да дадат, любе,
че сме си лика прелика,
че сме си лика прелика, любе,
10 като два стръка иглика.

5 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

3. Дай си ме, майчо, на нашето комшийче

母さん、あたしを隣のあの人へお嫁にやって。昨日、あたしたち、逢って贈り物を交わしたの。あの人^はあたしに赤いスカーフを、あたしはあの人^に刺繍飾りの袖[の服]をね。あの人^はあたしにエナメル靴を、あたしはあの人^にハンカチをお返ししたわ。

— Дай си ма, майчо, дай си ма
на нашно близно комшийче.

Фчера са, майчо, видехме
и дарън са сме дарили:

5 то мене — валъ червена,
йе нему — тирви ръкаве,
то мене — кундри лескати,
йе нему — аглък развърнат.

11 март 2003 г.

Бистра Гаджева

4. Стара майка не се лъже

水汲みから戻ったファトメに母親が聞きました。ねえファトミシ、なんで遅くなったの。娘は答えて言いました。母さん、水が濁っていたので澄むまで待っていたからよ。そこで母親は娘に言いました。ねえファトミシ、母さんに嘘はつけないものよ、父さんは騙されないものよ。お前の目には涙、お前の頬にはキスの痕。

— Фатмиш, майчина дъщеро,
оти са, Фатмиш, забави ?

— Забавих ми са, майчинко,
водана беше мътничка,
5 водана беше мътничка,
та чеках да са одмъти.

— Фатмиш, майчна дъщеро,
стара са майка не лъже,
стара са майка не лъже,
10 стар са бубайко не мами:
очинки ти са плакали,
бускине ти са хапани.

22 март 2002 г.
Фатме Дервишева
и Бистра Гаджева

5. Стара майка, първа касканджийка - I

若者は娘に言いました。ねえ娘さん、小さくて初心^{うぶ}な娘さん、俺の前に立つのは止めてくれ、お前に焦がれてしまったんだ。娘は答えて言いました。焦がれるが良いわ。あたしも同じ、あなたがあたしを思っているように、あたしだってあなたのことを思っているのよ。でもね、あたしには母さんがいるの。継母で、大の焼餅焼き。水汲みに行くのも、仲間の娘たちと会うのも許してくれないし、手紙を書いてあなたに送るなどもってのほかなの。

— Момиче, момиче
малко и глупаво,
не стой кърши мене,
изгорех за тебе.

5 — Гори, лудо, гори,
ти кайно за мене,
ти кайно за мене,
е ей ней за тебе.
Е си имам, лудо,
10 енна стара майка,
енна стара майка,
първа касканджийка.
Енна стара майка,
и тя е машеха,
15 и тя е машеха,
първа касканджийка.
Те мене не дава
за вода да идам,
за вода да идам,

20 з друшки да са зберам,
 за вода да идам
 з друшки да са зберам,
 писмо да не пиша
 тебе да го пратем.

17 март 2002 г.
Фатме Дервишева
и Бистра Гаджева

6. Стара майка, първа касканджийка - II

若者は娘に言いました。ねえ娘さん、小さくて初心^{うぶ}な娘さん、俺の前に立つのは止めてくれ、お前に焦がれてしまったんだ。娘は答えて言いました。焦がれるが良いわ。あたしも同じ、あなたがあたしを思っているように、あたしだってあなたのことを思っているのよ。でもね、あたしには母さんがいるの。継母で、水汲みに行くのも、仲間の娘たちと会うことも、恋人がいるのも許してくれないの。だからあなたは身を焦がしてよ、焦がして、あたしたち身を焼き尽くして、灰になってしまいましょうよ。

— Момиченце мало,
мало хем глупаво,
не стой срещу мене,
изгорех за тебе.

5 — Гори, лудо, гори,
гори да изгориш,
какно ти за мене,
йе ей най за тебе.
Йе си имам, лудо,

10 една стара майка,
една стара майка,
и те йе мащеха.
Та ми мен не дава
за вода да идам,

15 з друшки да са збирам,
любе да си имам.
Гори, лудо, гори,
гори да изгорим

20 гори да изгорим,
сух пепел да станем.

6 септември 2002 г.

Салих Делисалихов

7. Къде е, севде, майка ти - I

若者は娘に聞きました。ねえ愛しい人、君の母さんはどこにいるの。娘は答えて言いました。いないわ。あたしの母さんは出かけたの。緑の乾草を乾すんだと、真っ赤な桜ん坊を摘むんだと。それで若者は娘に言いました。ねえ素敵な娘さん、枝がたわんで、君の母さんは[落ちて]身体を打ってしまえば良いね。僕らだけでいられるように、君と僕が結婚できるようにね。

— Къде ѝе, севде, майка ти ?

— Нема ѝе, нема, юначе,

мойна е майка отишла

зелено сено да суши,

5 зелено сено да суши,

черни череше да бере.

— Девойко мари хубава,

дано са вейка превие,

дано са вейка превие

10 майка ти да са пребие,

самички да останеме,

не с тебе да са земеме.

11 март 2003 г.

Бистра Гаджева

8. Къде е, севде, майка ти - II

若者は娘に聞きました、ねえ愛しい人、君の母さんはどこにいるの。娘は答えて言いました。いないわ。あたしの母さんは出かけたの。下手の小さな川辺へ真っ赤な桜ん坊を摘むんだと。それで若者は娘に言いました。枝がたわんで、君の母さんは[落ちて]身体を打ってしまえば良いね。君と僕が結婚できるようにね。

— Къде ѝе, севде, майка ти ?
— Нема ѝе, нема, юначе,
нема ѝе, нема, юначе,
мойна е майка отишла,
5 мойна е майка отишла
низ малка река надолу
черни череше да бере.
— Дано са вейка превие,
дано са вейка превие
10 майка ти да са пребие,
майка ти да са пребие,
не с тебе да са земеме.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

9. Пък мене не е питала

若者はファトメに言いました。ねえファトメ、昨日から今日の晩まで探したけど、君はどこにも見つからなくて、やっと君んちの屋敷で見つけたよ。でも、君は悲しげで心配そうだね。ファトメは答えて言いました。ねえあなた、悲しくて心配なの。母さんはあたしを婚約させたけど、あたしがその人を好きかどうか聞きもしなかったのよ。

— Фатмину, кузум, Фатмино,
от фчера вардих до сноща,
тебе та нийде не видех,
че та най-сетне овардих,
5 че та най-сетне овардих
на вашне равни дворове,
на вашне равни дворове,
ам беше кимна, кахарна,
ам беше кимна, кахарна.
10 — Кахарна ми съм, юначе,
кахарна ми съм, юначе,
чи ма йе майка главила,
чи ма йе майка главила,
пък мене не йе питала,
15 пък мене не йе питала
[дали го галем или не.]*

30 август 2002 г.

Фатме Дервишева

* そばで聴いていた Бистра Гаждева さんが、この一行が歌い残されていると口頭で指摘し、歌い手の Фатме Дервишева さんも同意して歌いたす。

10. Майка те люто кълнеше - I

ねえハッサン、素敵あなた、あなたは菜園に入ってお花を摘んだの。兄さんたちがあなたを見て、母さんに言ったのよ。母さんはあなたをひどく呪っていたので、母さんの呪いがハッサンに向わずに通りすぎますようにって、あたしは静かにお願いしたわ。悪いのはあたしで、ハッサンには罪はないのよ。あたしは、夜遅くに水汲みに行き、朝早く菜園で露の降りた花を摘んで、綺麗な花束にしてハッサンに渡したんですから。

— Хасане, бело копеле,
ти ли ми флизе в бахчена ?
Ти ли ми флизе в бахчена,
ти ли ми убра киткине ?
5 Братене та са видели,
та та са майци казали.
Майка та люто кълнеше,
пък ѝе са мирно помолих,
клетва дано са размине
10 ф Хасана да са не свива.
Хасан ми нема кабахат,
кабахатен ѝе от мене,
вечеро гечко на вода,
вутерно ранко в бахчена,
15 вутерно ранко в бахчена
роснине китки да берам,
роснине китки да берам,
кесимли да и увивам,

20 кесимли да и увивам,
Хасанму да и привадам.

30 август 2002 г.
Фатме Дервишева
и Бистра Гаджева

11. Майка те люто кълнеше - II

ねえハッサン、素敵あなた、あなたは菜園に入ってお花を摘んだの。兄さんたちがあなたを見て、母さんに言ったのよ。母さんはあなたをひどく呪っていたので、母さんの呪いがハッサンに向わずに通りますようにって、あたしは静かにお願いしたわ。悪いのはあたしで、ハッサンには罪はないのよ。あたしは、朝早く水汲みに行って、すらりとした身体にゆったりとしたシャリヴァリをはいて、うるんだ目で[水を汲んで]いたし、夜遅く菜園で露の降りた花を摘んで、綺麗な花束にしてハッサンに渡したんですから。

— Хасане, било копеле,
ти ли ми флизе в бахчена ?
Ти ли ми флизе в бахчена,
ти ли ми убра киткине ?
5 Братене та са видели,
та та са майци казали.
Та та са майци казали,
майка та люто кълнеше.
Майка та люто кълнеше,
10 пък ѝе са мирно помолих.
Пък ѝе са мирно помолих,
клетва дано са размине
ф Хасана да са не свива.
Хасан ми нема кабахат,
15 кабахатен ѝе у мене,
вутерно ранко на вода,
вутерно ранко на вода,
шалваре ми са широки,
шалваре ми са широки,

20 учине ми са мреноки,
учине ми са мреноки,
снaшкaнa ми ѝe тeнъчкa,
вeчeрнo гeчкo ф киткинe,
рoснинe китки дa бeрaм,
25 кeсимли дa и увивaм,
Хасанму дa и привaдaм.

22 март 2002 г.
Фатме Дервишева
и Бистра Гаджева

12. Майка те люто кълнеше - III

ねえハッサン、素敵なあなた、あなたは菜園に入ってお花を摘んだの、早咲きのバジルのお花を。兄さんたちがあなたを見て、母さんに言ったのよ。母さんは、あなたなんか一年も持たずに、半年も持たずにくたばってしまえって、ひどく呪っていたわ。

— Асане, бело копеле,
ти ли ми флезе в бахчена,
ти ли ми флезе в бахчена,
та си ми юбрал киткине,
5 та ми си юбрал киткине,
киткине, ранен босилек,
киткине, ранен босилек ?
Та са та братене видели,
та са та братене видели,
10 та са на майка казали.
Та са на майка казали,
люто та майка кълнеше.
Люто та майка кълнеше,
дано годинка не стигнеш,
15 дано годинка не стигнеш,
годинка, йоще полвинка.

11 март 2003 г.

Фильо Кънчев

13. Мене си дава, а пръстен не дава

若者はすらりとした娘のヤレンカに言いました。ねえ、昨日の晩、君んちへ行ったけど、君んちの犬が吠え出して、銀の指輪を落としちゃったんだ。ねえ、指輪を見つけなかったかい。娘は若者に答えて言いました。ねえ、あたしは見つけなかったけど、母さんが見つけたわ。見つけたけれど、渡してくれないの。それで若者は言いました。ねえ、行って、指輪を渡してくれって頼んでよ。[戻ってくる]娘は言いました。[母さんは]あたしは渡すけど、指輪は渡せないって。それで若者は娘に言いました。母さんは君を[僕に]くれたんだね。じゃあ、さあ、僕と一緒にいこうよ。

— Снощи бех търнал, тенко Яленко,
ю вас да дойда,
снощи бех търнал, тенко Яленко,
ю вас да дойда,
5 та си ма зала, тенко Яленко,
вашено куче,
та си ма зала, тенко Яленко,
вашено куче,
та си испустих, тенко Яленко,
10 сребъран пръстен,
та си испустих, тенко Яленко,
сребъран пръстен.
Дел го не найде, тенко Яленко,
сребъран пръстен,
15 дел го не найде, тенко Яленко,
сребъран пръстен ?
— Йе го не найдах, лудо и младо,
майка го нашла,
йе го не найдах, лудо и младо,

20 майка го нашла,
майка го нашла, лудо и младо,
ям го не дава,
майка го нашла, лудо и младо,
ям го не дава.

25 — Поди и речи, тенко Яленко,
да си го даде,
поди и речи, тенко Яленко,
да си го даде.

— Мене си дава, лудо и младо,
30 пърстен не дава,
мене си дава, лудо и младо,
пърстен не дава.

— Ага та дава, тенко Яленко,
хайде със мене,
35 ага та дава, тенко Яленко,
хайде със мене.

13 септември 2003 г.

Небие Дервишева

Е. 恋の駆け引き

1. Галям, галям, как да не галям

娘は若者に言いました。斜にかぶったフェス帽子を見ているの。斜にかぶっても、可愛がってくれるかしら。若者は答えて言いました。可愛がるさ、可愛がるから、好きなだけ斜にかぶったらいいさ。それで娘は言いました。縦縞模様のスカートを見ているの。スカートをふわりとさせても、可愛がってくれるかしら。若者は答えて言いました。可愛がるさ、可愛がるから、好きなだけふわりとさせたらいさ。娘はまた言いました。ぴかぴかの靴を見ているの。靴音を鳴らしても可愛がってくれるかしら。若者は答えて言いました。可愛がるさ、可愛がるから、好きなだけ靴音を鳴らしたらいいさ。

— Крифконо фесче видиш ли,
ага го крифкам, галиш ли ?

— Галям, галям, как да не галям,
колконо можеш, крифкай го.

5 Галям, галям, как да не галям,
колконо можеш, крифкай го.

— Летвана риска видиш ли,
ага е кошкам, галиш ли ?

10 — Галям, галям, как да не галям,
колконо можеш, кошкай е.

Галям, галям, как да не галям,
колконо можеш, кошкай е.

— Лескати кундри видиш ли,
ага ги тропкам, галиш ли ?

15 — Галям, галям, как да не галям,

колконо можеш, тропкай ги.
Галям, галям, как да не галям,
колконо можеш, тропкай ги.

5 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

2. Пукна ли ти се сърцето

娘は若者に言いました。ねえあなた、昨日の晩のポブレルキで心臓がはちきれそうになったでしょう。あなたの真向かいに腰を下ろしてスカーフを脱ぎ捨てて、あなたに顔を見せ、あなたに向かって髪をほどいたあの時に。若者は娘に答えて言いました。君の顔は、ねえ娘さん、カルラック山の雪のようだったね、君のお下げはアルダ川の魚のようだったね。

— Юначе лудо и младо,
пукна ли ти са сърцено,
пукна ли ти са сърцено
за сношничкана попрелка,
5 га ти бех кърши седнала,
ага бех кърпа фърлела,
ага бех кърпа фърлела,
и ти бех лице открила,
и ти бех плитки ройнала.
10 — Лицено ти бе, девойко,
лицено ти бе, девойко,
кайно на Карлък снегове,
плиткине беха, девойко,
кайно във Арда рипкине.

28 август 2002 г.

Бистра Гаджева

3. Не съм винце да ме пийнеш

ねえあなた、なんで気のありそうなそんな目であたしを見るの。あたしは、あなたが飲むようなワインじゃないわよ。あなたが摘むような葡萄じゃなくてよ。あたしは結婚向きの娘よ。結納を準備して、あたしにつかわしてよ、年老いた母さんと父さんにあたしを欲しいんだって言ってね。

— Брей юначе лудо-младо,
що ма назлѣн тѣй поглеваш,
що ма назлѣн тѣй поглеваш ?
Не съм винце да ма пийнеш,
5 не съм винце да ма пийнеш,
нито грозде да ма къснеш,
ам съм мома за женене.
Збери лишен, преводи ми,
збери лишен, преводи ми,
10 поищи ма от стара майка,
поищи ма от стара майка,
от стара майка й стар бубайко.

11 март 2003 г.

Бистра Гаджева

4. От севди да ме отбраниш

憶えているかしら、ねえあなた、知っているかしら。あなたとあたしが愛し合ったとき、どんな春や夏だったかを。あたしがあなたを迎えに出て行ったとき、綺麗な門に向かって出て行ったとき、あなたへの思いで何てあたしの胸が一杯だったんだろうってね。ねえあなた、引きうけてくれるの。マダンを通してあたしを連れてゆくよ、ぞっこんの男たちからあたしを守ってマダンとルドゼムを通って行くよ。マダンの鉱夫もルドゼムの鉱山技師もダヴィドコヴォの運転手も、みんなあたしにぞっこんなのよ。

— Повниш ли, севдем, знаеш ли,
не с тебе га са галехме,
какво бе лето-пролето,
какво ти карши излезях,
5 карши шерени капии,
как можех мерак да метам ?
Наимаш ли са, юначе,
през Мадан да ма преведеш,
през Мадан и през Рудозем
10 от севде да ма одбраниш,
че ми са млочко севдене,
врит маданскине миньоре,
рудоземскине сондьоре,
давудьоскине шофьоре.

9 септември 2003 г.

Бистра Гаджева

5. Не се ли сещаш какво на момиче приляга

ああ母さん、あたしに似合いのあの彼のため、なんてあたしは辛い思いをするんだろう。いつも外に出かけるたびに、赤い林檎の木の下で彼に逢うの。[このあいだも彼に逢ったとき] 夏の林檎をもいで投げってくれ、素敵なバーラマを爪弾いて、バーラマでこう言ったのよ。ねえ素敵な娘さん、僕はあした旅立つから、君に何を持ってきたら良いのか言ってくれ。あたしは答えてこう言ったわ。ねえ、あなたはそんなにもお馬鹿さんかしら。女の子には何が似合うの分からないような人かしら。黒い瞳の額には金の飾り、色白の首にはビーズの首飾り、細い腰には飾り帯よ。

— Аман ми, майчо, аман ми,
аман, кина съм патила,
аман, кина съм патила
от сова уйгун копеле,
5 от сова уйгун копеле.
Илчиш навънка излезам,
илчиш навънка излезам,
та са със нега видъвам,
та са със нега видъвам
10 пот червен калем йебълка.
Пот червен калем йебълка,
летни йебълки къцаше.
Летни йебълки къцаше,
та хи нах мене меташе.
15 Та хи нах мене меташе,
ситна байлама цънкаше.
Ситна байлама цънкаше,
з байлама дума думаше.
З байлама дума думаше:

20 “Девојко майери хубава,
девојко майери хубава,
утре са збирам, търновам.
Утре са збирам, търновам,
наръчай, севдем, поръчей.
25 Наръчай, севдем, поръчей
кина ли да ти донесам.
Кина ли да ти донесам ?”
“Юначе лудо и младо,
до толко ли си будала,
30 до толко ли са не сеташ,
до толко ли са не сеташ
момиче кина прилега,
момиче кина прилега ?
На вакло чело — алтъне,
35 на вакло чело — алтъне,
на бела шие — инджие,
на бела шие — инджие,
на тенко кърсче — кошече.”

4 септември 2002 г.

Фатме Дервишева

6. Момата под бук не седи, иска бял конак

娘は若者に言いました。ねえ、なんでここにやって来たの。冷たい水が欲しいからなの。冷たい水なら、たっぷり飲ませてあげましょう。赤い花束が欲しいなら、花束であなたを飾ってあげましょう。綺麗な娘が欲しいなら、あなたについて行ってあげましょう。でも、どこへあたしを連れてくの。この娘さんは、ぶなの木の下には座らないわよ。この娘さんは、白いお屋敷が欲しいのよ。

— Защо си дошъл, юначе,
защо си дошъл, юначе,
дали за вода, дали за вода студена ?
Ко ѝе за вода студена,
5 ко ѝе за вода студена,
да станам да та, да станам да та напоем.
Ко ѝе за китка червена,
ко ѝе за китка червена,
да станам да та, да станам да та закичем.
10 Ку ѝе за мома хубава,
ку ѝе за мома хубава,
да станам да та, да станам да та заследем.
Ам къде ше ма одведеш,
ам къде ше ма одведеш ?
15 Момана под бук, момана под бук не седи.
Момана под бук не седи,
момана под бук не седи,
момана иска, момана иска бел конак.

13 март 2003 г.

Бистра Гаджева

7. Мене майка на тебе не дава - I

ねえ、母さんはあたしをあんたのお嫁に出さないの。あんたの家は村はずれだからって。母さんは、あたしをアイシエの息子のメフメトに嫁がせるつもりなの。刺繍のついた色鮮やかなチョッキの服が似合う人よ。三人で裁断して、五人で縫って、一包の針をだめにして、一オカの組紐を飾りにつけたチョッキなのよ。

— Юначе лудо и младо,
мен майка тебе не дава,
мен майка тебе не дава,
чи ти йе на край къщана.
5 Мене ще майка да деде
на Айшинек ми Мехмете,
дено го руба прилега,
списан, кендосан джамадан.
Юч киши го са кроили,
10 беш киши го са ушили,
тесте са игли строшили,
ука са гайтан турили.

2 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

8. Мене майка на тебе не дава - II

ねえメフメト、黒い瞳のあなた。ねえ、その、あのね、母さんはあたしをあんたのお嫁に出さないのよ。母さんは、あたしを大きなイリジェ村のアイシエの息子のメフメトに嫁がせるつもりなの。はだけたチョッキに膝まで脚絆をつけた服が似合う人よ。五人で裁断して、十人で縫って、一包の針をだめにして、一巻きの組紐を飾りにつけたチョッキなのよ。

— Мехмет, черноко копеле,
та гледай, та са нагледай,
та гледай, та са нагледай,
мен майка тебе не дава,
5 мен майка тебе не дава,
мене ще майка да даде,
мене ще майка да даде
ф Илиже, село големо,
ф Илиже, село големо,
10 на Айшинек ми Мехмете,
на Айшинек ми Мехмете,
дено го рубя прилега,
дено го рубя прилега,
навуе до коленана,
15 навуе до коленана,
съз разметешен джамадан,
съз разметешен джамадан.
Беш киши гу са круили,
беш киши гу са круили,
20 он киши гу са ушили,

он киши гу са ушили,
тесте са игли струшили,
тесте са игли струшили,
маца са гайтан турили.

14 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев

9. Стани, моме, отвори ми

若者が外で娘を呼びました。小さな娘さん、起きて開けてくれ。粉糠雨がそぼ降って馬は濡れ、風が吹いて、俺は凍えているんだ。娘は答えて言いました。家畜小屋はそこだから、馬を入れてよ、ガラス窓はここだから、あたしを見てごらん。目を見開いて指をくわえて見てごらん。若者は娘に答えて言いました。小さな娘さん、腹立ち紛れに言うのはお止め。刀とナイフを取出して窓ガラスを割って、この指でつかんでやるからな。

- Моме, моме, малка моме,
стани, моме, отвори ми,
роса роси, кон ми кваси,
ветер дуе, мене мрази.
- 5 — Брей юначе лудо-младо,
ей ти хливан, фкарай конен,
ей ти хливан, фкарай конен,
ей ти джимве, гледай мене,
ей ти джимве, гледай мене
- 10 с пълни очи, с празни ръки,
с пълни очи, с празни ръки.
- Моме, моме, малка моме,
моме, моме, малка моме,
немой думай на ядове,
- 15 немой думай на ядове,
на ядове, на пукове.
Извади ща сабя, ножве,
растроши ща джимовене,
растроши ща джимовене,
- 20 напълни ща празни ръки,

напълни ща празни ръки,
испразни ща пълни очи.

19 март 2002 г.

Фатме Дервишева

10. Оти не рачеш да станеш звеноводка

ねえハッサン、なんであたしを忘れちゃったの。あたしを好きじゃないの、それともあたしはあなたの似合いの人じゃないのかしら。ねえファトマ、君が好きだよ、君は僕には似合いの人さ。でも君が班長になって青年作業班をリードしようとしなくて寂しいね。僕らが広い畑を回って、彼らが緑のタバコを摘んで黄金の穂を刈り取るように、君が作業班をリードしないなんてね。

— Хасане, любе Хасане,
оти ма, любе, забури,
дали не съм ти на сърце,
или не съм ти прилика ?
5 — Ти ми си, Фатмо, на сърце,
и ми си, Фатмо, прилика,
ам ми е бално, Фатминко.
Оти не рачиш да станеш,
оти не рачиш да станеш
10 звеноводка да си водиш,
звеноводка да си водиш
младешко звено да ходим
по широкине блокове,
зеленен тютюн да берет,
15 зеленен тютюн да берет,
жълтана жътва да жънат.

30 август 2002 г.

Бистра Гаджева

11. Трактористът любя зеноводка млада

うちの村のトラクター運転手が若い女性作業班長に惚れたけど、彼女は別の村の住人で、運転手の若者は思い悩んでいるんです。若者は娘に言いました。なあかわいこちゃん、俺について来いよ。新しい機械[トラクター]があるし、村ではもう三年も俺は功労労働者なんだ。娘は若者に答えて言いました。どうしたらあなたのところへいけるかしら、ねえトラクター運転手さん。農場長が出してくれないのよ。お前は一番の働き者だ、出すなんて論外だってね。

Наше село тракториста
любя зеноводка млада,
тя живее в друго село
и момчето страда.

5 Хей брей, тя живее в друго село
и момчето страда.

— Престани ми, хубавице,
имама новичка машина,
ударник съм ф наше село

10 вече три години.

Хей брей, ударник съм ф наше село
вече три години.

— Как да дойда, трактористе,
председателя не дава:

15 “Ти си — казва — най-работна,
дума да не става.

Хей брей, ти си — казва — най-работна,
дума да не става.”

9 септември 2003 г.

Бистра Гаджева

Г. 恋の炎

1. Само моята севда не дойде

みんなの彼氏はやってきたのに、あたしのあの人だけはやってこなかったわ。いったいどうしたのかしら。あんまり遠いから、それとも外からやって来て、中に入れと言われなかったのかしら。刻みタバコに、早咲きバジルの香りもユナツキ・ベイトランの香りもかすかにしたわ。

Врит си севдине дойдаха,
лу мойна севде не дойде.
Чем оти ут кина ли е,
чем оти ут какво ли е ?
5 Дели йе ице деличе,
или йе извън дошлоло,
та са нахвътре не казва ?
Бийна ми тютюн кадаиф
и на ран зелен босилек,
10 и на юнацки бейтуран.

5 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

2. Кадъна седи в бахчена - I

菜園に座って花束を手に持つ娘。向こうからやってくる恋人に白い手を振って、黒い瞳で目配せをして、綺麗な唇で呼んで言いました。ねえ、こっちを通過して。この菜園にいるのはあなたのため、この花束をつくるのはあなたのため、この身体を手入れしてるのはあなたのためなのだから。

Кадъна седи в бахчена,
кичица държи ф ръкана,
прис срещу върви севдена,
з бели му ръки махаше,
5 с черни му очи мигаше,
с кипри му уста викаше:
— Прес тува мини, севдице,
за тебе седем в бахчеса,
за тебе вием киткаса,
10 за тебе кутем снашкаса.

13 март 2003 г.

Бистра Гаджева

3. Кадъна седи в бахчена - II

菜園に座って花束を手に持つ娘。向こうからやってくる恋人に、白い手を振って綺麗な唇で呼んで言いました。ねえ、寄って行ってね。この菜園にいるのはあなたのため、この花を摘んでいるのはあなたのためなのだから。

Кадъна седи в бахчена,
китчица държи ф рокана,
насрещу върви севдана,
з бели му ръки махеше,
5 з бели му ръки махеше,
с кипри му уста викаше:
— Махни са, махни, юначе,
за тебе седем в бахчена,
за тебе седем в бахчена,
10 за тебе берам киткана.

11 септември 2002 г.

Рамадан Койнарчев
и Милен Шаламанов

4. Съжули ми лицето, изгори ми сърцето

ねえ小さな娘さん、僕がここを通過して君のうちの庭を横切ると、いつも君はバジルを植え替えているね。ねえ、バジルの枝を一本摘んでくれ。顔の前で振って[香りをかいで]、胸元に隠しておくからさ。[娘が枝を渡すと若者は言いました。] ねえ、綺麗な娘さん、これはバジルじゃなくてイラクサだ。僕の顔をちくちくさせて、僕の心に火をつける。

— Момиченце маличко,
колчиш минам, заминам,
колчиш минам, заминам
приз вашине дворове,
5 ти босилек расадаш.
Отчепи ми щълбица,
отчепи ми щълбица
да е махна през лице,
да ѝе махна през лице,
10 да ѝе скрийнам ф пазушка !
Момле ле мари хубава,
той не е било босилек,
той не е било босилек,
ам е било коприва,
15 съжули ми лицено,
изгори ми сърцено.

11 март 2003 г.
Бистра Гаджева

5. Слънчице е превалило, месечинка изгрела - I

Маршичца е,部屋履きと靴下のまんまで緑の牧場を横切って、冷たい泉に冷たい澄んだ水を汲みに行きました。後から若者がついてきて、彼女を呼びとめて言いました。ねえ、待ってくれ、マルシチツァ。座って話をしようよ。二人が座って話をしていると、日は傾いて、月が輝き出しました。

Търнала ѝе Марушчица
по терлици, по чорапи
през зеленоно ливаде,
през зеленоно ливаде
5 на студенине врисьове
за студена бистра вода.
А след нее лудо-младо,
то Марушки проговаре:
— Стой, почакай, Марушчице,
10 стой, почакай, Марушчице,
да поседим, да погълчим !
Поседели, погълчели,
слънчице ѝе превалило,
месечинка ѝе изгрела,
15 месечинка ѝе изгрела.

13 март 2003 г.

Бистра Гаджева

6. Слънчице е превалило, месечинка изгрела - II

娘は若者に呼びかけました。ねえ、馬を止めて待ってちょうだい。ちょっと座って話をしましょうよ。若者らしい話や娘らしい話をね、あなたのことや私のことをね。座って話をしていると、日が傾いて月も輝き出しました。時の過ぎたのに気がついて娘は若者に言いました。ねえ、もう行くわ、いいでしょう。年老いた父さん母さん待っているから。

— Брей юначе лудо-младо,
запрей конче, дочекай ма,
запрей конче, дочекай ма
да поседим, да погълчим,
5 да поседим, да погълчим,
ким юнацко, ким девойцко,
ким юнацко, ким девойцко,
ким за мине и за тебе.
Поседили, погълчели,
10 слънчицено привалило,
слънчицено привалило,
месечинкана изгрела,
месечинкана изгрела.
— Пусни си ма, брей юначе,
15 пусни си ма, брей юначе,
чи ма чика стара майка,
чи ма чика стара майка,
стара майка, стар бубайко.

4 септември 2002 г.

Фатме Дервишева

7. Елате, когато самичка остана

若者は娘に言いました。ねえ綺麗な娘さん、中に入って角に腰を下ろし、コーヒーを沸かそうと思いついたんだ。娘は答えて言いました。ねえあなた、今晚はだめよ。木曜日の夕方頃に来てちょうだい。白いラキヤを一本と赤いワインをもう一本、揃えて一人でいるから。ヘンナで化粧した手で、銀の指輪をした指でお酌をしてあげるから。

— Девойко мари хубава,
мен ми ѝе на им дошлоло
да си ми флезам навътре,
да си ми седнам ф кюшена,
5 да си ми седнам ф кюшена,
да си ми сварем кавена.
— Юначе лудо и младо,
немой са вечер доходай,
ам си ми яла, юначе,
10 ф четвъртък вечер одвечер,
ага самичка останам
със шише бела ракие,
със шише бела ракие
и з друга вино червено,
15 и да ги сипвам, рассыпвам
със каносанки ръчинки,
със каносанки ръчинки,
съз бормосанки пърскове.

13 март 2003 г.

Бистра Гаджева

8. Сафие Сюлмана рукала

Сафиеはシュルマンを呼んで彼を[家に]招きました。木曜日の夕方どこにいても、シュルマンにやって来るようにと。木曜日の夕方は一人でいますから。父さん母さんも留守にして、一人で家になりますから、白いラキヤを一本と赤いワインをもう一本を用意して、ヘンナで化粧した手でお酌をしますからと。

Сафье Сюлмана рукала,
рукала й го е зовала.
Рукала й го е зовала:
— Де да ѝе Сюлман да дойде,
5 де да ѝе Сюдман да дойде
четвъртък вечер одвечер,
четвъртък вечер одвечер
ага самичка останама,
ага самичка останама,
10 нема ни майка, ни боба,
нема ни майка, ни боба,
със шише бела ракия,
със шише бела ракие
и з друга вино червено,
15 и з друга вино червено,
ѝе ше ѝе сипвам, пресипвам,
ѝе ше ѝе сипвам, пресипвам
със каносани ръчинки.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

и Милен Шаламанов

9. Довечера съм сама самичка

夕方まであたしは一人、シュルマンさん、さあ来てね。かぼちゃを皮つきで煮てくれるなら、ねえジャムリツァ、行くよ。煮ましたよ、あなたのためにまた煮ますから、さあ、来てね。黒いコーヒーをいれてくれるなら、ねえ、行くよ。いれましたよ、あなたのためにまたいれますから、さあ、来てね。縦縞のスカートを脱ぎ捨ててくれるなら、ねえ、行くよ。脱ぎ捨てましたよ、また脱ぎ捨てますから、さあ、来てね。僕の右手に横になってくれるなら、ねえ、行くよ。横になりましたよ、あなたのためにまた横になりますから、さあ、来てね。

— Довечера съм сама самичка,
ти, ела, аго Сюлмане, да дойдеш, дойдеш.

— Свари ли ми щеш тиква на кори,
да дойдам, бела Жамлице, да дойдам, дойдам ?

5 — Сваряла съм ти, пак ще ти сварям,
ти, ела, аго Сюлмане, ти ела, ела.

— Свари ли ми щеш морна кафица,
да дойдам, бела Жамлице, да дойдам, дойдам ?

10 — Сваряла съм ти, пак ще ти сварям,
ти, ела, аго Сюлмане, ти ела, ела.

— Ройна ли ми щеш летвана риска,
да дойдам, бела Жемлице, да дойдам, дойдам ?

— Ройкала съм йе, пак ще е ройнам,
ти, ела, аго Сюлмане, ти ела, ела.

15 — Легна ли ми щеш на десна ръка,
да дойдам, бела Жемлице, да дойдам, дойдам ?

— Легала съм ти, пак ще ти легнам,
ти, ела, аго Сюлмане, ти ела, ела.

5 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

10. Погледни, девойко, дали не се е съвнало

若者が娘に言いました。朝が明けたかどうか見てくれないか。娘は答えて言いました。待つてよ、あなた、ねえ、ここにいて。まだ早いわ。ポプラの[ようにすらりとした]身体を可愛がってよ、あたしの黒い目を見てよ、西瓜のような赤い頬を愛してよ。

— Стани, девойко, погледни
дали не са ѝе съвнало.

— Посто́й, почакай, юначе,
ранко е още за тебе.

5 Покути снашка топола,
поглядай очи черночки,
погледай очи черночки,
полюби буски карпуски.

20 март 2002 г.

Ташо Георгиев

11. Засапало е челебийче

若旦那は娘の右手で眠りにつきました。起こすにも娘には若旦那が愛^{いと}しく、見つめても慕わしくて、彼を揺すって言いました。起きてよ、起きて、若旦那。朝日が輝き出して、お日さまが顔を出しましたよ。

Заспало ѝе челебийче
на момина десна ръка,
мило ѝ ѝе да го буди,
драчко ѝ ѝе да го гледа.
5 Че кайдиса, та му рече:
— Стани, стани, челебийче,
стани, стани, челебийче,
зора са ѝе зазорила,
зора са ѝе зазорила,
10 слънчицену ѝе угрело.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

12. Моето сърце гори, не гаси

どんな森でも燃えたら消えるけど、俺の心は燃えたまま消えることもない。さあ、俺をあそこに葬ってくれ、下手の二つの川の間、小さな娘が若妻と集まるあの場所に。

Фсичкине гори, джанъм,
горат и гаснат,
моето сорце, джанъм,
гори, не гасне.
5 Я си ма мене, джанъм,
там заровете,
там доло, доло, джанъм,
до двене реки,
там доло, доло, джанъм,
10 до двене реки,
дено са збират, джанъм,
малкине моми,
малкине моми, джанъм,
с млади невести,
15 малкине моми, джанъм,
с млади невести.

11 септември 2003 г.

Шинка Каневска

13. Изсуши ме, изгори ме

ねえ娘さん、ねえフェイミンカ、[恋の炎で]俺を干からびさせてくれ、燃え尽きさせてくれ。俺を乾いた木にしたら、斧を取って俺を細かくしておくれ。俺を二つに三つに割って火にくべて、細かな灰にしておくれ。

— Иссуши ма, изгори ма,
Фейминко ле, моме,
та ма стори сухо дърво, севде мое.
Земни брадва, рассечи ма,
5 Фейминко ле моме,
та ма стори на две, на три, севде мое,
та ма метни фъф йогънен,
Фейминко ле, моме,
та ма стори ситан пепел, севде мое.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев
и Милен Шаламанов

14. От любов да се умира - I

ねえベキール、愛しくて死にそうになるなんて聞いたことがあるかしら、見たことがあるかしら。あたしは、死んでしまいそうだったわ。枯れてしおれて枯枝に、[枯れた]バジルの小枝に、[しおれた]薔薇の花束みたいになったのよ。

— Бекиро, любе Бекиро,
ди са ѝе чуло ѝ видело,
ди са ѝе чуло ѝ видело
от севде да са умира,
5 от севде да са умира ?
И ѝе ше да бех умрела,
и ѝе ше да бех умрела,
ам са лу съхне и вехне,
ам са лу съхне и вехне,
10 суха съм вейка станала,
суха съм вейка станала,
босилекова вейчица,
босилекова вейчица,
трандрафельова кичица.

30 август 2002 г.

Фатме Дервишева

15. От любов да се умира - II

ねえベキール、愛しくて死にそうになるなんて聞いたことがあるかしら、見たことがあるかしら。あたしは死にそうで、死んでしまうかも知れないわ。何もしないのに、枯れてしおれて、枯れ木になってしまったわ、まるで折れた薔薇の小枝みたいに。

— Бекиру, любе Бекиро,
де са йе чуло, видело,
де са йе чуло, видело
от севде да са умира,
5 от севде да са умира ?
Да са умира, умре ща,
да са умира, умре ща,
ам са лу нищо не прави,
ам са лу нищо не прави,
10 та са лу съхне и вейне,
та са лу съхне и вехне,
суху съм дърво станала,
суху съм дърво станала,
трендрафелова пречица.

14 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев

16. От севда легнеш, не станваш - I

若者は娘に言いました。お前は下手の[集落の]娘、でも俺は上手の[集落の]若者。だから俺がお前をお嫁にしないからって辛いのかい、悔しいのかい。娘は答えて言いました。ねえ、自分の心は自分で分かるわ。恋人を思う心がどんなものなのか。病で床についたなら、起きられましょう、でも恋で床についたら、起き上がれないものよ。

— Бално ли ти йе, момле ле,
жално ли ти йе, девойко,
от нема тебе да земам,
оти си долна девойка,
5 оти си долна девойка,
пък йе съм горно копеле ?
— Юначе лудо и младо,
сама си знаем сърцено,
сама си знаем сърцено,
10 сърце за севде какво йе.
Од болес легнеш и станеш,
от севде легнеш, не станваш.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

17. От севда легнеш, не станваш - II

娘は若者に言いました。ねえあなた、つらいの。若者は娘に答えて言いました。俺がお前をお嫁にしないからって、ねえ、悔しいのかい。それで娘は言いました。自分の心は自分で分かるわ。恋人を思う心がどんなものなのか。病で床についたなら、起きられましょう、でも恋で床についたら、起き上がれないものよ。

— Бално ли ти йе, юначе ?

— Жално ли ти йе, девойко,
от нема тебе да земам ?

— Сама си знаем сърцено,
5 сама си знаем сърцено,
сърце за севде какво йе.
Од болест легнеш и станеш,
от севде легнеш, не станваш.

11 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев

18. Ако се с любе вземем

Салифは、いつもより早く起き、スミリヤン村に暮らす病の床の恋人を尋ねようとて、愛馬を連れて下手の川へ向かって行きました。スミリヤン村が近づくと、骨の櫛を取出して長い髪をくしけずり、髪に言いました。ふさふさの長い綺麗な髪よ、俺が愛しい人と一緒になったなら腰まで伸びろ、一緒になれなかったら最後の一本まで抜けてしまえ。

Салих ѝе рано подранил
с неговоно конче хранено,
с неговоно конче хранено
низ бела река надолу,
5 низ бела река надолу,
нах Смилян мисли да иде.
Там има любе болничко,
ше иде да го обида.
И га е Смилян наближил,
10 извади гребен кокален,
та си перченен разреса
и си на перчен думаше:
— Перченьо роен, каматан,
ако са с любе земеме,
15 ако са с любе земеме,
дано до пояс нарастеш,
пък ко са с любе не земем,
дано до косъм окапеш.

30 август 2002 г.

Бистра Гаджева

19. Карат ме не за кражба, а за мома

Канефの水場で娘が水を汲んでいると、若者が、縛られ鎖に繋がれて、引っ立てられて行きました。娘は若者に言いました。かわいそうなこと、縛られて引っ立てられて行くなんて。若者は娘に答えて言いました。俺が引っ立てられるのは盗みのせいじゃない、娘のせいなんだ、カネフの水場で娘を好きになったからなんだ。

Момица точи водица
на каньофскана чешмица.
Юначе карат ворзано,
ворзано, синджиросано.
5 — Язык ти, язык юначе,
га си та карат ворзано !
— Мене ма не карат за кражба,
ам си ма карат за мома,
ам са ма карат за мома,
10 че съм момица полюбил,
че съм момица полюбил
на каньофскана чешмица.

7 септември 2003 г.

Шинка и Костадин Каневски

G. 遠くにありて思う恋

1. Орехо зелен и кравен - I

娘は胡桃の木に願いをかけました。ねえ太い緑の胡桃の木、あたしの願いを聞いてくれる。カッサムから聖ゲオルギの日まで、愛しい人が、羊の大群を、目の回りの黒い大きな雄羊たちや小さな子羊たちを、ギュムルジナの町から連れて戻ってくるまで、葉を落さずにいる。戻ってきたら、胡桃の木よ、あなたの下で、あなたの濃い木陰のなかで羊たちに昼休みをさせるから。

— Орехо зелен и кравен,
наимаш ли са, орехо,
наимаш ли са, орехо,
листено да ми удържиш,
5 листено да ми удържиш
от Касъм та до Гергьовден,
от Касъм та до Гергьовден,
дорде са върне любено,
дорде са върне любено
10 од Гюмюржюне касаба,
од Гюмюржюне касаба
с негвана тешка сюрне,
с негвана тешка сюрне,
з дребнине вакли агнета,
15 з дребнине вакли агнета,
с йедрине вакли овньове,
с йедрине вакли овньове ?

Пот тебе ше и потпладне,
пот тебе ше и потпладне,
20 пот твойна сенка дебела.

17 март 2002 г.
Фатме Дервишева
и Бистра Гаджева

2. Орехо, зелен и кравен - II

娘は胡桃の木に願いをかけました。ねえ太い緑の胡桃の木、あたしの願いを聞いてくれる。カッサムから聖ゲオルギの日まで、愛しい人が贈物をもって戻ってくるまで葉を落さずにいてくれる。

— Йорешко зелена и кравен,
наимаш ли са, йорешко,
наимаш ли са, йорешко,
листено да ми юдържиш,
5 листено да ми юдържиш
от Касум та до Гергьофден,
от Касум та до Гергьофден,
дорде са върне любено,
дорде са върне любено,
10 ярмаган да ми донеси ?

11 март 2003 г.

Фильо Кънчев

3. Къде да те търся, юначе

娘は赤い花束に託して若者に伝えました。ねえ赤い花束さん、どんなふうに夏が過ぎたのか、私にはちっとも分からない。ねえあなた、若者よ、あなたのつらさを身をもって思うと、いつ夏が過ぎたのか、私にはちっとも分からない。小雨が降ると、マントをお持ちしようと、あたしのお手製タオルやふかふかしたお祈り座布団をお持ちしようと思うけど、あなたはどこなの。若者は答えて言いました。娘さん、俺を探すなら、高い山の冷たい水場の近くのすらりと高い樅の木のそば。

— Китко льо, китко червена,
хич край не ми съм фатила,
хич край не ми съм фатила,
как са ѝе лету минало,
5 как са ѝе лето минало,
летоно и пролетоно,
летоно и пролетоно,
иначе лудо и младо,
с твоюно бално теглещик.
10 Ага ми росне росица,
ага ми росне росица,
де да та тръсем, юначе,
де да та тръсем, юначе,
качулка да ти донесам,
15 качулка да ти донесам,
моена тенка махрама,
моена тенка махрама
и киченана намазла ?
— Тръси ма, тръси, девойко,

20 на високана планина,
на високана планина
близо до вода студена,
блиско до вода студена
до тенка йела висока.

4 септември 2002 г.

Фатме Дервишева

4. Пусни ме, майчо, да ида

小鳥の声を耳にした娘は母親に言いました。母さん、出てきて聴いてみて。なんという小鳥が歌っているんでしょう。あたしには彼のように思えるわ。近くで聴いてみたいから行かせてね。それで、もしあたしの彼だったら、春が来て夏が来るまで、森の木が葉をつけて花がひらくまで、ねえ母さん、あたしたちを待たなくてもいいからね。

— Излезе, майчо, послушей,
какво ми пиле засвирва,
засвирва, майчо, запева,
той ми са мойно любеле.
5 Пусни ма, майчо, да ида
од блиско да го послушем.
Пък ко ѝе моено любеле,
тогаф ма немой ни чекай,
дор ми не дойде летуно,
10 летуно и пролетуно,
дур са не лисне горана,
дур са не цвети цветено.

14 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев

5. Имам любе в тъмница

ねえ南風、吹いて緑の森を揺るがせて、白い雪を溶かして、ドラマへの道を開けてください。牢獄にとらわれの恋人の身を贖いに行こうと思うから。金貨一樽、銀貨一樽で。金貨が足りなかったら娘のあたしの晴れ着を売って、すらりとしたこの身を形にしても、あの人を贖いに行くのだから。

Дуйни ми, вейни, бел ветер,
люлей ми гора зелена,
топи ми бели снегове,
отвори пъте на Драма,
5 мислем на Драма да идам.
Там имам любе ф тъмница,
ше идам да го йоткупим
със шиник желти алтъне,
със шиник бели грошове.
10 Че ко ми алтъне не стигнат,
алтъне, бели грошове,
ше продам момско гиздело,
продавам момско гиздело,
залагам тенкаса снашка
15 и пък ше да го откупим.

6 септември 2002 г.

Салих Делисалихов

6. Обичам войниче

母さん、あたしは第一中隊第二小隊の兵隊さんを好きになったの。ブルガスに行って兵舎を見たら、明りはみんな消えているのに、一つ明りのついている兵舎があったわ。恋人がそこにいて、恋文を読んで、神さまにお祈りしてました。神さま、慈悲深い天主さま、俺を飛行機に変えてください。村に飛んで行って、恋人に会いたいから。恋人が大きくなって娘仲間に入ったか、知りたいから。[彼の母親は答えて言いました。] ねえ息子、母さんの子、お前の恋人は大きくなって娘仲間に入って、嫁入り道具も準備したんだよ。

— Обичем, мамо, обичем
войниче либе да либем,
войниче либе да либем
от първа рота фтори звот,
5 от първа рота фтори звот.
Ас ходих, мамо, фъв Бургас,
ас ходих, мамо, фъв Бургас.
Фъв бургаските казарми,
фъв бургаските казарми
10 фсички казарми тъмниха,
фсички казарми тъмниха,
една казарма светеше,
една казарма светеше
и мойто либе там беше,
15 и мойто либе там беше.
Либовни писма читеше,
либовни писма читеше
и са на Бога молеше,
и са на Бога молеше:

20 “Боже ле, мили Господи,
Боже ле, мили Господи,
стори ма мене самолет,
стори ма мене самолет
да си ми фъркнам ф селоно,
25 да си ми фъркнам ф селоно
да си ми видим либено,
да си ми видим либено
либено нарасло ли ѝе,
либено нарасло ли ѝе,
30 друшкине стигнало ли ѝе.”
“Сино ле, мои майчини,
либено ти ѝе нарасло,
либено ти ѝе нарасло
и друшкине ѝе стигнало,
35 и друшкине ѝе стигнало
и рубана ѝе сторило.”

13 септември 2003 г.

Небие Дервишева

Н. 駆け落ち

1. Не щеш ли да ме приследиш

日よ、暗くなれ。おまえが暗くなりそうになれば、アイシエが水汲みに、二つの冷たい泉に、三つの綺麗な水汲み場にやってくるだろう。[アイシエが出てくると]ハサンは後から彼女について行き、アイシエに言いました。ねえアイシエ、黒い瞳の綺麗な娘さん、俺と駆け落ちしないかい。アイシエは答えて言いました。いやよ、ハサン、あんたは黒い木偶の坊。あたしはメフメトと結婚したいの、すらりとした杉の木のようなメフメトとね。

Мъркни са, мъркни, деньо льо,
ку мериш да са мъркноваш,
Айше на вода ше иде
на двана врисе студени,
5 на двана врисе студени,
на трине чешми шерени.
Одзат йе Хасан заследи
и си на Айше думаше:
— Айшо чернока, каматна,
10 дали не щеш ма приследи ?
— Не ща та, не ща, Хасане,
оти си черна панчуга,
оти си черна панчуга.
Йе ща Мехмете да земам,

йе ша Мехмете да земам,
Мехмете, тенка селвие.

5 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

2. Хайде с мена да идеш

Фатмаはバジルの枝箒で庭を掃いてると、羊飼いの若者がやってきて言いました。ねえファトマ、箒なんか放り出して、さあ、俺と一緒に緑の深い森に行こうよ。緑の深い森で濃い日陰を見つけようよ。日陰を見つけて、大きな群れを放牧し、日陰のなかで群れに昼休みをさせようよ。

Фатма си двори метеше
съз босилкова метлица,
съз босилкова метлица.
— Фърни си, Фатмо, метлана,
5 фърни си, Фатмо, метлана,
хайде със мене да идеш.
Хайде със мене да идеш
ф честана гора зелена.
Ф честана гора зелена
10 на щеме сенка дебела.
На щеме сенка дебела,
напас щем стадо големо.
Напас щем стадо големо,
та гу щем пот те потплани.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

3. Ще те приследя, ако нямаш друго любе

Келу-Шикаが庭を掃いていると、ストヤンは羊の群れに呼び声をかけていました。ケル-シカの家
敷地を通過して群れに声をかけながら、彼女に言いました。ねえケル-シカ、美しい娘さん。俺と駆け
落ちしないかい。彼女は答えて言いました。ねえストヤン、他に恋人がいなかったなら、あなたにつ
いて行くわ。

Керушка двори метеше,
Стоян си стадо мамеше.
Стоян си стадо мамеше
прес керушкини дворове
5 и на Керушка думаше:
— Керушко, моме хубава,
не щеш ли си ма приследи ?
— Приследи ща та, Стояне,
приследи ща та, Стояне,
10 ко немаш любе и друго.

7 септември 2003 г.

Костадин Каневски

4. Загорка овце да кара ли

ザゴルカが庭を掃いていると、ストヤンが羊の群れを追ってザゴルカの屋敷の庭を通り、彼女に言いました。ねえ、ザゴルカ、羊を追ってくれ、ねえ、羊を追って頭数を数えようよ。数えて、[羊を売って]稼ぎを分けようよ。ザゴルカはストヤンに答えて言いました。ねえストヤン、聞いたことがあるかしら、見たことがあるかしら、ザゴルカが羊を追うなんて、ザゴルカが稼ぎを分けるなんて。

Загорка двори метеше, мари,
Стоян си стадо караше,
Стоян си стадо караше, мари,
през Загоркини дворове
5 и на Загорка думаше, мари:
— Карай, Загорке, офцене,
Карай, Загорке, офцене, мари,
карай ги да ги бройме,
карай ги да ги бройме, мари,
10 бирликен да им делиме.
— Стояне лудо и младо, мари,
де са ѝе чуло и видело
Загорка офце да кара, мари,
Загорка бирлик да дели ?

5 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

5. Ще ти престана, твоя ще стана

若者は娘に言いました。ねえ綺麗な娘さん、駆け落ちしないかい。駆け落ちして俺のものにならないかい。娘は答えて言いました。もう少し待って。冬が来て夜が長くなり、父さん母さん、うとうと眠りにつかせたら、あなたのもとに行き、あなたのものになりましょう。

— Девойко мари хубава,
дали не щеш ми престана,
дали не щеш ми престана,
престана мойе да станеш ?

5 — Престана ти ща, юначе,
ако ма малко почекаш
да дойде зима-подзима,
да станат нощи големи,
да станат нощи големи,
10 да приспем майка и боба,
да приспем майка и боба,
тугава ше ти престанам,
тогава ше ти престанам,
престанам, твоя ше станам.

30 август 2002 г.

Бистра Гаджева

6. Вземи ме, вземи момле ле - I

若者は娘に言いました。好きだから俺と結婚してくれ。娘は答えて言いました。ねえ、家もないのにどうしてあなたと結婚できましょう。あたしたち、どこで夏をどこで冬を過ごしたら良いの。すると若者は言いました。娘さん、夏は深い森で夏を越し、冬は広い野原で冬を越そうよ。村のはずれに深い海がある。そこにバジルの根で僕たちは家を建てようよ。

— Земни ма, земни, момле ле,
че имам мерак на тебе.
— Каг да та земам, юначе,
га немаш къща градена ?
5 Къде щем да летуваме,
къде щем да зимуваме ?
— Момле ле, мари, хубава,
лете щем да летуваме,
лете щем да летуваме
10 ф честана гора зелена,
зиме щем да зимуваме
ф равноно поле широко.
Ф равноно поле широко
край село море длекоко,
15 и там щем къща огради
од босилкови корене.

28 август 2002 г.

Бистра Гаджева

7. Вземи ме, вземи момле ле - II

若者は娘に言いました。ねえ娘さん、きみが好きで愛してるから、俺と結婚してくれ。娘は答えて言いました。ねえ、家もないのにどうしてあなたと結婚できましょう。あたしたち、どこで夏をどこで冬を過ごしたら良いの。すると若者は答えて言いました。ねえ綺麗な娘さん、君はそんなことも分からない人なのかい。夏は緑の森で夏を越し、冬は広く平らな野原で冬を越すんだよ。

— Земни ма, земни, момне ле,
йе имам мерак на тебе
и севде имам за тебе.

— Каг да та земам, юначе,
5 га немаш къща градена ?
Къде щем да летуваме,
къде щем да зимуваме ?

— Момле ле, мари, хубава,
до й толкоф ли са не сеташ ?
10 Не щеме лето летува
ф летнана гора зелена.
Не щеме лето летува
ф летнана гора зелена.
Зима щем да зимуваме
15 ф равноно поле широко.

11 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев,

Милен Шаламанов и Бистра Гаджева

8. Търнала си съм, на дома няма да ида

ねえあなた、今晚、出かけてきてね。あたしはもう来ちゃったの。あたし家には戻らないわ、あなたの家に行きますから。あなたの母さんに知らせてね。お屋敷[の部屋]を空けとくように、晩ご飯を余分に作っとくようにってね。人が来ますからってね。でも、あなたのおうちの人たちが、あたしたちを気に入らなかつたら、あなたと二人で旅に出て、たっぷり稼いで、十二の煙突と四十八の窓のある白いお屋敷を建てましょうよ。

- Са вечер, любе, търновай,
търновай, търнала си съм,
на дома нема да идам,
на дома ти ща да дойда.
- 5 Майци ти хабер попусни,
зеде конакан да празни,
зеде конакан да празни,
зеде вечере да прави,
зеде ще чилек да иде.
- 10 Пък ко на, любе, не рачет,
збра са щем с тебе двамина,
казандиса щем стотина,
огради щеме бел конак
с он ики бели кумине,
- 15 с он ики бели кумине
и със кърк секис пенджури.

28 август 2002 г.

Бистра Гаджева

9. На мене ли си, Русо, сърдита и гнева

若者はルサに聞きました。ねえルサ、俺に腹を立てているのかい、それとも村にかい。ルサは答えて言いました。村じゃなくて、あなたによ。世間知らずの幼いあたしを騙して村の外に連れ出して、深い森に連れ込んで、あたしの白い顔を愛撫して、細いしなやかなこの身体をくねらせるなんて。

— На мене ли си, Русо,
сърна и гневна,
на мене ли си, Русо,
или на село ?

5 — Не съм на село, лудо,
най съм на тебе,
че ма измами, лудо,
малка и глупава,
та ма изведе, лудо,
10 извън селоно,
та ма фъведе, лудо,
ф честана гора,
та ми облюби, лудо,
белосо лице,
15 та ми окърши, лудо,
тянкаса снашка.

22 март 2002 г.

Фатме Дервишева,

Бистра Гаджева и Здравко Красимиров

10. Фатма с Тахир избяга

ねえあんたたち、聞いた。大きなダヴデヴォ村のイエニハン丘のイリヤズ作業班で何があったかさ。ファトマとタヒールと一緒に逃げたんだよ。彼女の母親は、父さんがあたしらを打つから、ねえファトマ、帰って来い、帰って来いって言ったんだけどね。ファトマは母親に答えて言ったんだ。母さん戻れないの、あたしはもう娘じゃないのよ、若妻よってね。

Ве чули ли сте, не ли сте
кина ѝе ново станало
в Давудиво село големо
въф Ениханска бърчина
5 ф Илязована бригада ?
Фатма с Тахире избяга.
Майка ѝ си ѝ викаше:
— Върни са, Фатмо, върни са,
върни са, Фатмо, върни са !
10 Боба ти ше на прибие.
— Не мога, майчо, не мога,
ѝе не съм вече момиче,
ѝе не съм вече момиче,
ам си съм млада невеста.

28 август 2002 г.

Бистра Гаджева

I. 実らぬ恋・不幸な恋

1. Ти галиш друга да земеш - I

ねえあなた、行って、後は振り向かないで。あたしのことは思い出さないで。あなたは別の金髪の娘をお嫁にしようと可愛がっているのね。ねえ、あたしがどんな彼氏を連れてきているのか、ご覧になることになるわよ。道や家の上手で、あなたにすれ違うわよ。そしたら、あなたを怒らせて言ってあげるわ、可愛がるだけでお嫁にしてくれなかったのね、あたしとは冗談でおふざけだったのねってね。

— Иди ми, севдим, върви ми,

назат ми немой поглевай.

Назат ми немой поглевай,

сърце ма немой споминай.

5 Ти галиш друга да земеш

и друга руса девойка.

Ти ма щеш виде, юначе,

какво ща любе да водем,

какво ща любе да водем,

10 прис пътен ше ти минавам.

Прис пътен ше ти минавам,

прис пътен, приз вър къщана,

та ше ти пукам сърцено,

зам да ти кажем галене,

15 зам да ти кажем галене,

галене, пък не зимане,

галене, пък не зимане,

със мене подиграване,
със мене подиграване,
20 със мене джумбиш правене.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

2. Ти галиш друга да земеш - II

ねえあなた、行って、後は振り向かないで、あたしのことは思い出さないで。あなたは別の集落の他の娘をお嫁にしようと可愛がっているのね。ねえ、あたしがどんな彼氏を連れているのか、ご覧になるわよ。道で、家の上手であなたにすれ違うわよ。そしたら、あなたを怒らせて言ってあげるわ、可愛がるだけで、お嫁にしてくれなかったのねってね。

— Иди ми, севдим, върви ми,
назат ми немой поглевай.
Назат ми немой поглевай,
сърце ма немой споминай.
5 Сърце ма немой споминай,
ти галиш друга да земеш.
Ти галиш друга да земеш,
друга од дручка махала.
Ти ма щеш виде, юначе,
10 какво ща любе да водем,
какво ща любе да водем,
прис пътен ше ти минавам.
Прис пътен ше ти минавам,
прис пътен, приз вър къщана,
15 прис пътен, приз вър къщана,
та ше ти пукам сърцено,
та ше ти пукам сърцено,
зам да ти кажем галене,
зам да ти кажем галене,
20 галене, пък не зимане.

14 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев

3. Душмани какво не правят - I

ねえ来てよ、あたしの屋敷の庭を通ってよ。薔薇の花束ともう一つバジルの花束を投げてあげるから。あなたが花束をかぐたびに、あたしがどんなに似合いの娘だったかと思い出すようにね。身体はすらりと高く、顔は色白で、目が黒いあたしのことを。昔あたしたちがどんなに愛し合っていたのか、あなたが自分の恋人を思い出すようにね。でも、あの忌々しい敵どものせいで、結ばれないのね。敵どもがしないことは何一つないのだから。決まった結婚式をぶち壊し、若い二人を引き裂くのだから。

— Ялай ми, мини, юначе,
приз мойне равни дворове,
зам ше ти метнам кичица,
кичица карамфилова,
5 кичица карамфилова
и дручка ран-босилкова !
Илчиш мериснеш киткана,
и мине да си споминаш,
и мене да си споминаш
10 какво бех уйгун момиче,
какво бех уйгун момиче
на снашка тенко, високо,
на снашка тенко, високо,
на лице бело, черноко,
15 зам да си любе споминаш
как са сме другош галили,
как са сме другош галили.
Пък нема да са земеме,
пък нема да са земеме

20 от сие пусти душмане.
Душмане какво не правят —
сторена свадба развалет,
сторена свадба развалят,
двамина млади разделет.

4 септември 2002 г.

Фатме Дервишева

4. Душмани какво не правят - II

あたしの細い指で花束を作って、花束であなたにお知らせします。日曜日はあたしの結婚式。でもあなたは木曜日に来てね。あなたの下さった結納を私たちで分けましょう。あたしのは、あなたにさし上げますわ、あなたのは、あなたが受け取って。なぜって、あの忌々しい敵どものせいで、あたしたちは結婚できないのですもの。敵どもがしないことは何一つないのだから。決まった結婚式をぶち壊し、若い二人を引き裂くのだから。

— Китка ти вием, юначе,
с моине тянки пърскове,
с китка ти хабер провадам.
Ф неделе ми йе свадбана,
5 пък ти ф четвартък да дойдеш,
лишенан да си разделим.
Моено алал да ти е,
твоено твою да си е,
от нема да са земеме
10 от сия пусти душмане.
Душмане какво не правят —
сторена свадба развалят,
сторена свадба развалят
и нас с теп ше на разделят.

28 август 2002 г.

Бистра Гаджева

5. Душмани какво не правят - III

娘は若者に言いました。出かけた先で[別の娘を]愛しても良いわよ。愛しているなら、結婚しても良いわよ。でも、あたしのことも忘れないでね。あたしたちとっても愛し合っていたわね。愛し合っていたけれど、あの忌々しい敵たちのせいで結ばれないのね。敵どもがしないことは何一つないのよ。決まった結婚式をぶち壊し、結ばれた人たちを引き裂くのだから。

— Изин ти давам, юначе,
къдено ходиш, да гледаш,
къдено ходиш, да гледаш,
когдано галиш, да земеш.
5 Когдано галиш, да земеш,
и мене да не забравеш,
и мене да не забравеш,
чи са сме мночко галили.
Чи са сме мночко галили,
10 галили и драговали,
галили и драговали,
пък нема да са земеме.
Пък нема да са земеме
от сие пусти душмане,
15 от сие пусти душмане.
Душмане какво не правет,
душмане какво не правят —
сторена свадба развалет,

сторена свадба развалят,
20 женени люде разделет.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

и Милен Шаламанов

6. Душмани какво не правят - IV

娘は若者に言いました。あたしから許しをあげるわ。[別の娘に]会ったら、愛してもいいわよ。愛しているなら、結婚してもいいわよ。でも、あたしのことも忘れないでね。あたしたちとっても愛し合っていたわね。愛し合っていたけれど、愛し合って好き合っていたけれど、結ばれることはないのね。

— Од мен ти изин, юначе,
когано видиш, да галиш,
когано видиш, да галиш,
когано галиш, да земеш.
5 И мене да не забравеш,
че са сме мночко галили.
Чи са сме мночко галили,
галили и драговали,
галили и драговали,
10 пък нема да са земеме.

28 август 2002 г.

Бистра Гаджева

7. Тя е на мен душманка

若者はネトカに言いました。なあネトカ、お前を病気のままにして、俺はイスタンブールに行ったけど、帰ってみればお前はまだ病人だ。俺はお前が死んだものだと思っていたから、司祭の娘のラトカと結婚しようやってきたんだ。ネトカは若者に答えて言いました。ねえあなた、婚約して結婚しなさいよ。でもラトカはお嫁にしないで。あの娘は小さい頃からのあやし敵。子供の世話はしないし、家事もしないわよ。お嫁にするなら孤児^{みなしこ}のマリイカがいいわ。家事も子供の世話もしてくれるから。

— Ас ходих, Нетке, ф Цариграт,
тебе та болна оставих
и пак та болна заварих.
Яс мислех, чи си умрела,
5 та дойдаха да са ожения,
да зема Ратка попова.
— Жени са, любе, глави са,
ама ми Ратка не земай.
Ратка е на мен душманка,
10 душманка още от малка.
Нема да ми гледа децана,
нема да ми реди къщана.
Ам си ми земи, любе ле,
Марийка кръгло сираче,
15 то ше ми реди къщана
и ше ми гледа децана.

13 март 2003 г.

Бистра Гаджева

8. Аз ще стана калугерка

小さな娘が、小さな菜園で花を摘み、花のなかで眠ってしまいました。下から若者がきて、娘に言いました。さあ娘さん、起きなさい、もう眠るのはいい加減にして。お前の摘んだ花はしぼんじったよ。お前の好きな恋人は結婚したよ。娘は若者に言いました。婚約して結婚するがいいわ、あたしは彼を九回許してあげる。でも神さまのお許しはないですよ。あたしは修道院で尼僧になって、黒い土に行くまで黒い服を着るわ。

Мала мома цветя брала
ф мала градинка,
дето брала, там заспала
между цветята.

5 Оддол иде лудо-младо
и ѝ говори:
— Стани, стани, хей девойко,
стани, стига спа.

Цветя ти са овехнали,
10 ден си брала ти,
любе ти са оженило,
ден го любиш ти.
— Да са жени, да са глави,
од мен прошка му,

15 од мен прошка девет пъти,
а од Бога не.

Ас ще стана калугерка
въф манастира,

20 черни дрехи ще облека
 до черна земя.

11 март 2003 г.

Бистра Гаджева

9. Росица роси, девойко - I

旅人は娘に尋ねました。なあ娘さん、小雨がそぼ降っているぞ。どうしてお前は目に涙をためて、そんなにひどく泣いているんだい。娘は答えて言いました。ねえ旅のお方、愛する人がいなくなってからまる九年、私は泣いているんです。あの人はお腹に子供を残して行ったけど、あたしは大きな娘に育てあげました。それで、この子をお嫁に欲しいと使いが来たけれど、使いを待ち迎える人も見送る人もいないんです。旅人はまた尋ねて言いました。なあ娘さん、愛する人に会ったなら、分かるかい。娘は答えて言いました。分かりますとも、ねえ旅のお方、愛する人は素敵な人で、左の眉に印があって、右手に指が六本あるんです。

— Росица роси, девойко,
що ти преливат очинки,
що ти преливат очинки,
преливат и прекипеват ?

5 — Преливат си ми, пътниче,
как ми ѝе либе липсало,
как ми ѝе либе липсало
цалички девет години,
цалички девет годинки,
10 ф курем ми дете остави,
ф курем ми дете остави,
куже го мома искутих.
Куже го мома искутих,
та му мумаре дойдаха.
15 Та му мумаре дойдаха,
нема кой да хи дочека,
нема кой да хи дочека,

нема кой да хи испрати.
— Девойко мари хубава,
20 да си ти дойде либено,
да си ти дойде либено,
пузна ли гу щеш, девойко,
пузна ли гу щеш, девойко ?
— Пузнавам си гу, пътниче,
25 пузнавам си гу, пътниче,
мойно ѝе либе личничко,
мойно ѝе либе личничко,
на лева вешка белешка,
на лева вешка белешка,
30 на десна ръка шест пръста.

30 август 2002 г.
Фатме Дервишева

10. Росица роси, девойко - II

旅人は娘に尋ねました。なあ娘さん、小雨がそぼ降っているぞ。どうしてお前は目に涙をためて、そんなにひどく泣いているんだい。娘は答えて言いました。ねえ旅のお方、愛する人がいなくなってから、私は泣いているんです。あの人はお腹に子供を残して行ったけど、あたしは大きな娘に育てあげました。それで、この子をお嫁に欲しいと使いが来たんです。旅人はまた尋ねて言いました。なあ娘さん、愛する人に会ったなら、分かるかい。娘は答えて言いました。分かりますとも、ねえ旅のお方、愛する人は素敵な人で、左の眉に印があって、右手に指が六本あるんです。

— Росица роси, девойко,
що ти преливат очинки,
що ти преливат очинки,
преливат и прекипиват ?

5 — Преливат си ми, пътниче,
как ми е либе липсало,
как ми е либе липсало,
ф корем ми дете остави,
ф корем ми дете остави,
10 коже го мома искутих,
коже го мома искутих,
та му момаре дойдаха.

— Девойко майри хубава,
да си ти дойде любено,
15 да си ти дойде любено,
позна ли гу щеш, девойко ?
— Познавам си гу, пътниче,
мойно ѝе любе личничко,

20 мойно ѝе любе личничко,
 на лева вешка белешка,
 на лева вешка белешка,
 на десна ръка шест пѝрста.

22 март 2002 г.
Фатме Дервишева

11. О жени ми се гальовничката

若者は母親に言いました。母さん、俺の好きな娘が結婚したぞ。他所の村に嫁に行ったらよかったのに、村に残って村のまんなかの俺の家の上に嫁いできたんだ。あの娘は屋敷を歩きまわり、坂道を行き来することになる。これでは俺は村じゅうに災いを、なかでもあの娘に災いをしでかしてしまいそうだ。

— Мале ле, мале, стара майчице,
ожени ми са гальовничкана,
ожени ми са гальовничкана,
гальовничкана, първоно любе.

5 То да отиде на друго село,
ам си остана фсраде селоно,
ам си остана фсраде селоно,
фсраде селоно вър мойна къша,
фсраде селоно вър мойна къша,
10 да са расхада, да са растипа
по равни дворе, по летви пъте.
Пък ме налита беля да сторем,
беле да сторем на цало село,
на цало село, нехи най-млочко.

22 март 2002 г.

Фатме Дервишева
и Бистра Гаджева

12. И мене да рукаш на твоята сватба - I

若者は別の若者と結婚する娘に言いました。婚約しなよ、結婚しなよ。なあ最愛のお前、お前が婚約して結婚したら、式に招いてくれよな。お前が乗るまで馬をおさえて、その馬をお前の家まで引いて行こう。そこで三年、お前に初子が生れるまで、お前の下働きをしよう。もしお前に子供が生まれなかったら、出戻りでいろよ、俺は金もない下僕でいるから。

— Жени са, глави, ой първо liebe,
ага са жениш, жениш и главиш,
и мен да рукаш на твойна свадба
и йе ше дойдам на твойна свадба.
5 Кон ше ти държем, дор го вѣсседнеш,
кон ше ти водем до вѣр дома ти,
кон ше ти водем до вѣр дома ти.
Ратай ше ти сѣм до три години,
ратай ше ти сѣм до три години,
10 дорде си родиш първана рожба,
пѣк ко не родиш първана рожба,
дано останеш млада довичка,
дано останеш млада довичка,
и йе аргаче бес паричка.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

13. И мене да рукаш на твоята сватба - II

若者は別の若者と結婚する娘に言いました。婚約しなよ、結婚しなよ。なあ最愛のお前、お前が結婚したら、式に招いてくれよな。お前が乗るまで馬をおさえ、その馬をお前の家まで引いて行こう。そこで三年、お前に男の子が生れるまで、お前の下働きをしよう。

— Жени са, глави, ой първо любе,
ага са жениш, и мен да рукаш,
и мен да рукаш на твойна свадба,
кон ше ти държам, дор го въсседнеш,
5 кон ше ти държам, дор го въсседнеш,
кон ше ти водем до вър дома ти,
кон ше ти водем до вър дома ти,
ратай ше ти съм до три годинки,
ратай ше ти съм до три годинки,
10 дорде ми родиш мъшкана рожба.

4 септември 2002 г.

Фатме Дервишева

14. Любето ти се ожени

まる九年ストヤンは旅に出て、十年目に村に戻ってきました。彼は、馬から下りもせず母親に挨拶もせず真っ先に、恋人のことを聞きました。母さん、俺の恋人は大きくなったかい、嫁入り道具の準備はしたかい、娘仲間に入ったかい。母親は答えて言いました。お前の恋人は嫁に行き、男の子を産んだよ。あたしはお前に、ねえストヤン、手紙で知らせただけだね。

Ходил бе Стоян, ходил бе
цалички девет години,
на десетана година
Стоян са ф село завърна.
5 Още от конен не бе слел,
майци му селем не бе дал,
пък за либено питаше:
— Мале ле, стара майчице,
нарасло ли йе любено,
10 рубана вдигнало ли е,
друшкине стигнало ли е ?
— Синко Стояне, Стояне,
любено ти са ужени,
мъшка йе рожба родила,
15 на тебе го йе писала
на тебе, синко Стуюне.

22 март 2002 г.

Бистра Гаджева

J. 嫉妬

1. Девојка отравя невестата на любето си

若者のハッサンは娘のアイシェに尋ねました。ねえ黒い瞳の綺麗なアイシェ、捺染木綿で誰に服を仕立てているんだい。娘は答えて言いました。ハッサン、あなたのためよ、あなたのために着飾るの。そこでハッサンは言いました。僕のためなら止めとくれ。昨日の晩、家のものが嫁さんを連れてきたんだ。まだ目で見てないし、手で触れてもいないけど。この言葉を聞くと、アイシェは捺染木綿の生地を投げ出して、仕立て終らぬ服を着ると、白銅の鍋をかついで、ハッサンの屋敷を通過して水汲みに行きました。[水を汲んでハッサンの屋敷に来ると、]ねえお嫁さん、水を飲んでと呼びかけました。[ハッサンの若嫁は]水を飲むと、ああと声を立て死んでしまいました。

— Айшо чернока, каматна,
кому си вършиш басмана ?

— Тебе е вършем, Асане,
тебе ше да са погиздем.

5 — Ку йе за мене, та немой,
мен йе са снощи довеле,
с очи не йе съм поглевал,
с ръки не йе съм допирал.

Айше си тръсна басмана,
10 недовършенка е надена,
нарами бели бакъре
през Асанвине дворове
за бистра вода студена.

— Пйни, невесто, водица !

15 Лу кайно пйна и охна,
 олеле любе, отида.

2 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

2. С какво ще те закича

昨日の晩、メджеに行ったんです。メджеから戻ってくるとアフメトが花の中において、こちらの花をナイフで切り刻み、あちらの花を靴で踏みつけていたんです。あたしは彼に言いました。ねえあなた、アフメト、何でお花を切ってしまうの、早咲きのバジルの花を。これじゃあなたを何の花で飾ってあげたらいいのって。

Снощи ми ходих на меже,
ага са върнах од меже,
ага са върнах од меже,
Ахмете найдах ф киткине,
5 Ахмете найдах ф киткине,
анни хи с ножен дробеше,
анни хи с ножен дробеше,
другине с кундри таптеше,
другине с кундри таптеше.
10 — Ахметьо, севде голема,
Ахметьо, севде голяма,
защо ми режеше киткине,
защо ми режеше киткине,
киткине ранен босилек,
15 киткине ранен босилек,
със кина ше та закичем ?

8 септември 2003 г.

Фатме Дервишева

3. С кундри китките тъпчеше

娘は若者に言いました。ねえ、菜園に入ったのはあなたなの。花を摘んだのはあなたなの、バジルの花を摘んだのは。小さな子供があなたを見て、母さんに言ったのよ。それで、母さんは高い部屋からあなたを見たの。あなたがその手で花を摘み、ナイフでタバコのように切り刻み、靴で踏み潰しているのをね。

— Юначе лудо и младо,
ти ли ми флезе в бахчена ?
Ти ли ми флезе в бахчена,
ти ли ми убра киткине ?
5 Ти ли ми убра киткине,
киткине ранъен босилек ?
Кутро та дете гледало,
та йе на майка казало.
Та та йе майка гледала
10 од високине одае,
од високине одае,
га и с ръкине береше,
га и с ръкине береше,
с ножен и тютюн дробеше,
15 с ножен и тютюн дробеше
и с кундрине и тъптеше.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

К. 浮気・道ならぬ恋

1. Расти ми, расти черешко - I

ねえサクランボの木、窓と同じ高さまで大きく育ってあたしの窓を隠してよ。あたしの恋人がやってきたら中を見ないようにね。恥ずかしいから、罪だから、あたしは恋人を代えたので、別の恋人にお仕えするだろうから。

Расти ми, расти, черешко,
големка да ми нарастеш
барабар със пенжуркине,
пенжурки да ми запушиш,
5 зам га ми върви любено,
нахвътре да ми не гледа.
Срам ма йе, йоще грех ма е,
любено съм го сменила,
любено съм го сменила,
10 на друго любе измет ше правем.

6 септември 2002 г.

Салих Делисалиев

2. Расти ми, расти, черешко - II

ねえサクランボの木、窓と同じ高さまで高く育ってあたしの窓を隠してよ。旦那さんたちが、木橋を渡って緑の牧場を通り綺麗なモスクに行くときに、中を見ないようにね。

Расти ми, расти, черешко,
височка да ми нарастеш,
височка да ми нарастеш
сас пенджуркине барабар,
5 сас пенджуркине барабар,
пенджурки да ми прикриеш,
пенджурки да ми прикриеш,
нахсрещу да ми не вардем,
нахсрещу да ми не вардем,
10 ага ми вървет агине,
ага ми вървет агине
приз дървенана кюприе,
приз дървенана кюприе
въз зеленана ливада,
15 въз зеленана ливада
нах шеренана джемие.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

3. Още ми мерак остана

若者は母親に話しました。母さん、昨日、下手の部落へ行って戻ってくる時に、やっとすれ違えるような細い長い坂道できれいな娘に会ったんだ。まだあの娘に未練があるけど、もう約束を交わした相手のいる身。彼女が婚約して指輪を交わしているなんて、思いたくないよ。気をつけなさいよ、ねえお兄さん、手には手鎖が、足には足枷がかけられるわよって、あの娘は言っていたけれど。

— Фчера ми ходих, майчинко,
на долничкана махала.
Ага са върнах нагоре,
та срещнах мома хубава,
5 та срещнах мома хубава
ф тесноно длего сукаче,
ф тесноно длего сукаче
сюлюмка да са разминем.
Още ми мерак остана,
10 пък те е била главена.
Нема да гледам главена,
главена, с пръстен сменена:
“Гледа щеш, гледа, юначе,
чи ти щат тури, юначе,
15 на ръки ситни синжире,
на ноги тешки букае.”

2 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

4. Малките моми да галиш, големите да мамиш

若者は娘に言いました。ねえ綺麗な娘さん、俺ををはねつけて結納を戻すなんて、一体、俺にどんな過ちがあるんだい。娘は答えて言いました。ねえあなた、メジェやポプレルカのある場所にあなたは毎晩出かけて行って、小さな娘を可愛がり、大きな娘を騙しているからよ。

— Девойко мари хубава,
кина ми найде махана,
та са от мене отказа,
та са от мене отказа,
5 та са от мене отказа,
та ми лишена развърна,
та ми лишена развърна ?
— Махана ти бе, юначе,
махана ти бе, юначе,
10 де има меже, попрелка,
ти фсека вечер там да си,
ти фсека вечер там да си,
ти фсека вечер там да си,
малкине моми да галиш,
15 пък големине да мамиш.

2 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

5. Как да разшenea сърцето ти

ねえ、陽気な心の娘さん、君はみんなの心を陽気にしたけれど、俺の心は暗くしたね。さあ、俺たちこいつ[俺の暗い心]を変えようよ、ねえ娘さん、俺の心も陽気にしてくれよ。娘は答えて言いました。ねえあなた、どうして陽気にしてあげられましょう。あんたの嫁さん若いのに、あんたの子供らちっちゃいのに。すると男は娘に答えて言いました。ねえ綺麗な娘さん、俺の女房なんか気にするな、俺の子供なんか気にするな、俺の心は陽気なんだ。

— Девойко, сърце шенлифко,
секемо сърце расшени,
секемо сърце расшени,
ам мойсо сърце почерни.
5 Ха да го сторим, девойко,
и мойсо да го расшениш.
— Как да го, лудо, расшенем,
га ти йе млада женана,
га ти йе млада женана
10 и ти са дребни децана ?
— Девойко, мари, хубава,
немой ми гледай женана,
немой ми гледай децана,
сърцесо ми е шенлифко.

5 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

6. Ако си търнал за моми

Фатмаг верандата на зле, степенята на зле бела кона на нандо мотте сруто, мфметг тонтре сруто етте етте. Фатме е мфметг етте. нене мфмет, ткче етте. мфмет е тте етте. суретан тла етте етте, тта етте етте етте. сурто Фатме е тте етте. нене мфмет, сатте етте. тта етте етте етте етте, тте етте етте. тте етте етте етте етте.

Фатма нте одер, вте одер,
Фатма нте скалте, вте скалте
бела копрота етепреда.
Мехмет ете тетен втевеше,
5 Фатме Мехметг тте дуташе:
— Кте сите тте тте, Мехметг ?
— Ете сите сте тте тте, Фатте, тте
на Сметен тте да галет.
— Ете те, вте, Мехметг,
10 ако сите тте тте за тте,
дано сите тте не вте тте,
дано сите тте не вте тте,
дано те дтедат дтепте,
после дтепте хатерен.

11 тте 2003 г.

Раатан Коте тте

7. Ще те приследя, ако се вярно прекълнеш

Фатмагベランダの下で上で白い絹をなんども紡いで、軽やかな徹る声で笑っていると、メフメトが彼女に気づいて言いました。ファトマちゃん、あだな娘さん、俺について来ないかい。彼女は答えて言いました。ねえメフメト、ついて行くわよ、ちゃんと誓ってくれるならね。他に恋人もいないって、ちっちゃな子供もいないってね。

Фатма низ одер, въз одер,
Фатма низ одер, въз одер
бела коприна преприда,
бела коприна преприда
5 и крехко си са отсмива,
одде йе Мехметъ уварди.
— Фатминко, чапкън девойко,
Фатминко, чапкън девойко,
дали не щеш ма преследи ?
10 — Преследи та ща, Мехметъо,
преследи та ща, Мехметъо,
ако са верно прекълнеш,
че немаш севде и друга,
че немаш севде и друга,
15 че немаш дребни дечинки.

5 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

8. Моето любе виждаш ли - I

娘は月に尋ねました。ねえ明るく輝くお月さん、世界中を照らすお月さん。ドラマやカヴァラの町も照らしていますか、あたしの彼も照らしていますか。娘たちはセデンカををしていますか、好きあった二人は並んで座っていますか。あたしの彼のそばには、誰が座っていますか。月は答えて言いました。ねえ娘さん、[あなたの彼のそばには]黒い瞳の白い娘が座って、彼にワインの杯を渡しながらさぐるように聞いていたわ。ねえ結婚しているの、約束の人はいるのってね。

— Месечинко льо, грейлифка,
грейлифка и светалифка,
ти грееш по целия свет,
грееш ли Драма, Кавала ?
5 Грееш ли Драма, Кавала
и мойно любе грееш ли ?
Збират ли моми седенки,
либе до любе седет ли ?
Любе до любе седет ли,
10 до мойно любе кой седи ?
— Седи ми, седи, девойко,
бело, черноко момиче,
чашка му вино даваше
и хитро си го питаше.
15 И хитро си го питаше:
“Юначе, жинено ли си,
юнече, женено ли си,
юнече, главено ли си ?”

8 септември 2003 г.

Фатме Дервишева

9. Моето любе виждаш ли - II

若者は月に尋ねました。なあ明るく輝くお月さん、お前はとつても広く輝いて、とつても高いところにいなさるね。俺たちの村は照らしているかい。俺の思いの娘を見たかい。娘たちはセデンカやポブレルカをしているかい。好きあった二人は並んで座っているかい。俺の思いの娘のそばには、誰が座っているのかい。月は答えて言いました。[あなたの思いの]黒い瞳の白い娘は、[若者のそばに]座って彼にワインを渡しながら、小声で聞いていたわ。ねえ結婚しているの、約束の人はいるのってね。

— Месечинко льо, грейлифка,
грейлифка и светкалифка,
ти грееш еце широчко
и седиш еце височко,
5 нашено село грееш ли ?
Моено любе виждаш ли,
збират ли моми попрелки,
попрелки и поседелки ?
Любе до любе седят ли,
10 до мойно любе кой седи ?
— Седи ми седи, юначе,
бело черноко момиче,
чашка му вино даваше
и тихичко го питаше:
15 “Юначе, женено ли си,
юначе, главено ли си ?”

17 март 2002 г.

Фатме Дервишева
и Бистра Гаджева

10. Ой кукувичке, не виждаш ли моето любе

娘は郭公に聞きました。ねえ郭公や、夏の小鳥さん、あなたは高く飛んで、広くを見てるわね。あたしの恋人を見かけなかったかしら。郭公は娘に答えて言いました。見ましたよ、小さな娘さん、あの人は、イスタンブールの居酒屋でテーブルについてワインを飲みながら、別の愛人と約束をしていましたよ。

— Ой, кукувичке, ти летно пиле,
височко фъркаш, широчко гледаш.
Не виждаш ли ми моено любе ?

— Виждам го, виждам, ой млака моме,
5 въф Цариграда въф механана
на стол седедше, вино пиеше,
на стол седедше, вино пиеше
и з друго любе каул правеше.

13 март 2003 г.

Бистра Гаджева

11. С борница я доведи

なあ義姉さん、あんたの妹のフィンカのいないポブレルキ、メジェなんてまったくだ。彼女に声をかけなかったのかい、それとも[両親が]出してくれなかったのかい。さあ、義姉さん、呼びに行つて、松明をもって彼女を連れて来てくれ。

Пуста ти, ингьо, межена,
межена и попрелкана,
га нема сестра ти Финка.
Дали не ѝе си рукала,
5 дали не ѝе си рукала,
или не ѝе са пуснали ?
Иди ѝе, ингьо, порукай,
съз борница ѝе доведи.

2 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

L. 恋の戯れ歌

1. Да не те галят момите - I

あたしはあなたに花束をあげたけど、それは、娘たちや若嫁たちがあなたに惚れないようにって戯れであげたのよ。あたしもあなたのように[人を]呼んだなら、女部屋を[娘たちや若嫁たちで]一杯にして、あなたを門に取りつけてあげるわ。娘たちや若嫁たちが、ヘンナで化粧した手や指輪した指で、あなたを開けたり閉めたりするようにね。

Ку ти съм китка давала,
ку ти съм китка давала,
та ти е съм енкас давала
да та не галят момине,
5 да та не галят момине,
момине и невестине.
Йе кайно тебе да зберам,
йе кайно тебе да зберам,
пълан ша харем напълни,
10 тебе ща порта нагоди,
тебе ща порта нагоди
да та отварет, затварет,
да та отварет, затварет,
да та отварет, затварет
15 със каносанки ръчинки
момине и невестине,
момине и невестине,

20 със каносанки ръчинки,
 със каносанки ръчинки,
 със каносанки ръчинки,
 със бормосанки пърскове.

30 август 2002 г.
Фатме Дервишева
и Бистра Гаджев

2. Да не те гаят момите - II

あたしはあなたに花束をあげたけど、それは、娘たちや若嫁たちがあなたに惚れないようにって戯れ
であげたのよ。あたしもあなたのように娘たちや若嫁たちを呼ぶことがあったなら、女部屋を一杯に
して、あなたを門に取りつけてあげるわ。娘たちや若嫁たちが、あなたを開けたり閉めたりするよう
にね。

Ку ти съм китка давала,
ку ти съм китка давала,
та ти е съм енкас давала
да та не гаят момине,
5 момине хем невестине,
момине хем невестине
йе кайно тебе да зберах,
йе кайно тебе да зберах,
пълан ща харем напълни,
10 тебе ща порти нагоди
да та утварят, затварет
момине и невестине.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

3. На шега го е любила

トドルカはトルコ人を好きになりました。戯れに彼を好きになりました。トルコ人は戯れとは分からずに、トドルカの屋敷に仲人を遣わしました。

Тудорка турчин любила, мари,
те го ѝе шека любила,
те го ѝе шека любила, мари,
турчин си шека не знае,
5 той си мумаре испраца, мари,
на тодоркине дворове.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

4. Не съм от каматните, нито от работните

娘は若者に言いました。あなたに自慢できることじゃないけれど、ねえ、あたしは美人とは言えないし、働き者でもないわ。糸車やつむは知らないし、機にも入ったことがない。母さんは、あたしをこう教えたの。胡桃の木の下の日陰に座って、白い顔を洗い、黒髪をくしけずるんだよって。

— Не фалем ти са, юначе,
йе не съм от каматнине,
е не съм от каматнине,
не съм ни от работнине —
5 фурка, вретено не знаем,
въф станан не съм флизала.
Мен ма йе майка учила
под орех сенка да седнем,
под орех сенка да седнем,
10 белосо лице да мием,
белосо лице да мием,
чернаса коса да чешем.

5 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

5. Ако си търнал, любе ле

若者に娘は言いました。稼ぎに出かけるんなら、稼いできてよ。元気に出かけて、もっと元気になって戻ってきてね。でも、娘を可愛がりに出かけるんなら、元気に出かけても、戻って来ないでよ。

— Ако си търнал, любе ле,
кер да кероваш,
кер да кероваш, любе ле,
и да печелиш,
5 здрав да ми идеш, любе ле,
по-здрав да дойдеш.
Пък ку си търнал, любе ле,
моми да галиш,
пък ко си търнал, любе ле,
10 моми да галиш,
здрав да ми идеш, любе ле,
да са не върнеш.

11 март 2003 г.

Бистра Гаджева

6. Море, имаш ли първо любе

ねえ娘さん、赤いスカーフは持ってるかい。でなければ、買ってきてあげようか。ねえあなた、買ってきて、スカーフをかぶろうにも持っていないから。ねえ娘さん、紅の首飾りは持ってるかい。でなければ、買ってきてあげようか。ねえあなた、買ってきて、首飾りをしようにも持っていないから。ねえ娘さん、錦の帯は持っているかい。でなければ、買ってきてあげようか。ねえあなた、買ってきて、帯を締めようにも持っていないから。ねえ娘さん、最愛の人はいるのかい。でなければ、僕がなろうか。ねえあなた、いるわよ、最愛の人が、それに男の子もね。

— Море, имаш ли си, моме, червена кърпа,
море, имаш ли си, моме, червена кърпа,
или да ти купя, моме, или да ти купя ?

— Море, купи, купи, море, ой лудо-младо,
5 немам що да носям, лудо, немам що да носем.

— Море, имаш ли си, моме, алено герданче,
море, имаш ли си, моме, алено герданче,
или да ти купя, моме, или да ти купя ?

— Море, купи, купи, море, ой лудо-младо,
10 немам що да носям, лудо, немам що да носем.

— Море, имаш ли си, моме, сърмено коланче,
море, имаш ли си, моме, сърмено коланче,
или да ти купя, моме, или да ти купя ?

— Море, купи, купи, море, ой лудо-младо,
15 немам що да носям, лудо, немам що да носям.

— Море, имаш ли си, моме, до първо любе,
море, имаш ли си, моме, до първо любе,
или да ти станам, моме, или да ти станам ?

— Море, имам, имам, море, до първо любе,
20 и мъшко дете, лудо, и мъшко дете.

11 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев

7. Гледай ме, гледай, ой първо любе

若者は娘に言いました。なあ、おいお前、あのな、その、なあお前、俺をよく見とくんだ。今日はここにいて、明日はないからな。明日は定期市に出かけるんだ。何かお前に買ってくる物があったら言いな。娘は答えて言いました。ねえ、あたしに白いクリームを買ってきてね。あたしは黒くてブスだからクリームをたっぷり塗るのよ。あたし毒を飲むから、強い毒も買ってきて。そしたら、あんたは、あたしの友だちの女の子たちと一緒にいることになるのね。あたしの友だちで、一番の恋敵とね。

— Гледай ма, гледай, любе,
гледай ма, гледай,
гледай ма, гледай, ой първо любе,
та са нагледай,
5 гледай ма, гледай, ой първо любе,
та са нагледай !
Днеска съм тука, любе,
днеска съм тука,
днеска съм тука, ой първо любе,
10 утре ма нема,
днеска съм тука, ой първо любе,
утре ма нема.
Утре ше идам, любе,
утре ше идам,
15 утре ше идам, ой първо любе,
на панаиран,
утре ше идам, ой първо любе,
на панаиран.

Ръчай, поръчай, любе,
20 ръчай, поръчай,
ръчай, поръчай, ой първо любе,
що да ти купя,
ръчай, поръчай, ой първо любе,
що да ти купя !
25 — Купи ми, купи, любе,
купи ми, купи,
купи ми, купи, ой първо любе,
бела помада,
купи ми, купи, ой първо любе,
30 бела помада !
Да се намажа, любе,
да се намажа,
да се намажа, ой първо любе,
щото съм черна,
35 щото съм черна, ой първо любе,
черна и грозна.
Купи ми, купи, любе,
купи ми, купи,
купи ми, купи, ой първо любе,
40 силна отрова,
силна отрова, ой първо любе,
да се отровям !
Да се находиш, любе,
да се находиш,
45 да се находиш, ой първо любе,
с моине друшки,
да се находиш, ой първо любе,

с моине друшки.
С моине друшки, любе,
50 с моине друшки,
с моине друшки, ой първо любе,
първи душманки,
с моине друшки, ой първо любе,
първи душманки.

22 март 2002 г.
Фатме Дервишева
и Бистра Гаджева

V. 家族

A. 母と娘

1. Любе да си избира - I

娘は母親に言いました。ねえ母さん、お願いしたのに。まだ今年はあたしを婚約させないで、結婚させないでくださいね、この夏のパイラム祭の日だけは、あたしは未婚の娘で祭りに出かけ、似合いの彼を探してくるからって。

— Молих та, молих, майчинко,
да ма не женеш, ни главиш
оше лу сае годинка,
лу сое летен ден байрем
5 лефтера да си походем
и любе да си избирам,
каквоно мене екранан,
екранан и прилегана.

17 март 2002 г.
Фатме Дервишева
и Бистра Гаджева

2. Любе да си избира - II

娘は母親に言いました。ねえ母さん、あたしは母さんにお願いしたのに、願いは聞きとどけてはもらえなかったのね。あたしを婚約させないで、結婚させないでくださいね、この夏のバイラム祭の日だけは、あたしは未婚の娘で祭りに出かけ、似合いの彼を探してくるからってお願いしたのに。

— Молих та, молих, майчинко,
не можих да та измодем,
не можих да та измодем
да ма ни жениш, ни главиш,
5 да ма ни жениш, ни главиш
лу соје летан ден байрем,
лу соје летан ден байрем
лефтерка да си походем,
лефтерка да си походем
10 и любе да си избирам,
и либе да си избирам
дено ѝ мене ѝекрана,
дено ѝ мене ѝекрана,
каквоно мене прилега.

8 септември 2003 г.

Фатме Дервишева

3. Как да те не женя, когато е хубаво копеле

娘は母親に言いました。母さん、あたしは母さんをお願いしたけれど、願いは聞きとどけてもらえなかったのね。せめて今年だけでもあたしを婚約させないで、結婚させないでくださいってお願いしたのに。母親は答えて言いました。結婚しないなんてだめですよ、婚約しないなんてだめですよ。[お前に選んであげた]若者はとつても素敵な人だから、[若者には]待ってる時間なんてありませんよ。すると娘は母親に答えて言いました。母さん、彼に待つように言って。待つ気があるなら、待ってくれるはずよ。待たないのなら、好きにするがいいわ。あたしには、あんな人より二倍も美男で三倍も良い男たちがやってくるから。

— Молих та, майчо, молих та,
не можих да та измодем,
не можих да та измодем
да ма ни жениш, ни главиш,
5 да ма ни жениш, ни главиш
барем луй сае годинка,
барек луй сае годинка.
— Как да та, дъщеро, не жинем,
как да та, дъщеро, не жинем,
10 не жинем, дъщеро, не главем,
не жинем, дъщеро, не главем,
га ѝе хубаво копеле,
га ѝе хубаво копеле,
пък нима време да чека,
15 пък нима време да чека.
— Поди му, речи, майчинко,
поди му, речи, майчинко,
ако ма чека, да чека,

ако ма чека, да чека,
20 пък ку ма не ще, лу ка ще,
пък ку ма не ще, лу ка ще,
мен си ѝе дручки дохадат,
мен си ѝе дручки дохадат,
25 йот неџа дваш по-хубави,
йот неџа дваш по-хубави,
йот неџа триш по-каматни.

13 септември 2003 г.

Небие Дервишева

4. Да умреш, майко, дето ме роди хубава

私はこの広い野に散歩に出かけました。そこで、大理石に座っている一人の娘を見つけました。娘は金色の髪を梳きながら、自分の母親をひどく呪っていました。あたしを綺麗に生んだ母さんなんか、くたばっちゃえ、死んでしまえと。

Излезох да се расходя, леле,
излезох да са расходя, леле,
ис това поле широко, леле,
ис това поле широко.
5 Намерих едно момиче, леле,
намерих едно момиче, леле,
на мермер камък седеше, леле,
на мермер камък седеше.
Роса си коса решеше, леле,
10 роса си коса решеше, леле,
майка си люто кълнеше, леле,
майка си люто кълнеше:
— Да пукнеш, майко, да умреш, леле,
да пукнеш, майко, да умреш, леле,
15 дето ме роди хубава, леле,
дето ме роди хубава.

8 септември 2003 г.

Фатме Дервишева

5. Лягам невеста, ставам момиче - I

お嫁に行った娘は母親に口説きました。母さん、あたしを育て、大きくしてくれて、大きなレスコヴォ村の馬鹿者にお嫁に出してくれたわね。昼間あの子は[夫婦の間柄に]何も気づきもしないし、夜にチョッキをはだけて花嫁として床についても、朝には娘のままでまたチョッキ着る始末なの。

— Кути ма, майчо, кути ма,
та ма големка искути,
че си ма даде, майчинко,
ф Лесково, село големо,
5 на Лескофскана бодала.
Дено са нищо не сета,
вечеро легам невеста
със раскопченко елече,
вутерно станвам момиче
10 съз закопченко елече.

19 март 2002 г.
Фатме Дервишева

6. Лягам невеста, ставам момиче - II

お嫁に行った娘は母親に口説きました。母さん、あたしを育て、大きくしてくれて、レスコヴォ地区の馬鹿者にお嫁に出してくれたわね。昼間あの人は[夫婦の間柄に]何も気づきもしないし、夜に花嫁として床についても、朝には娘のままで起きるのよ。ねえ母さん、夜にチョッキをはだけて床についても、朝にはチョッキのボタンをしめて起きるし、かじってよと頬を出しても、あの人は引き下がってしまうのよ。

— Кути ма, майчо, кути ма,
та ма големка искути,
че си ма даде, майчинко,
фъф Лескофскана махала,
5 фъф Лескофскана махала
на лескофскана бодала.
Дено са нищо не сета,
вечеро легам невеста,
вечеро легам невеста,
10 вутерно станвам момиче.
Вечеро легам, майчинко,
със раскопченко елече,
вутерно станвам, майчинко,
съз закопченко елече,
15 буски му давам да ръба,
пък то са назад отсува.

11 септември 2002 г.

Рамадан Койнарчев

7. Конакът сърце не шени

母親は娘のファトメに言いました。ねえファトメ、お前の若い夫が小男だからって、悲しそうな顔をするんじゃないよ。お屋敷は高くてりっぱじゃないかい。娘は答えて言いました。母さん、お屋敷じゃ心は楽しくならないわ。心を楽しくしてくれるのは若い夫。でも、母さん、あたしの夫を連れ歩くなんてどうして出来ましょう。お友だちはあたしに会うと、[あたしの小男の夫をからかって]いつもこう言うの。ねえ、あたしのお友だち、そうやって連れ歩くなんて、あなたいつそんな子を産んだのってね。

— Фатме, майчина дъщеро,
хич немой бално да ти йе,
хич немой бално да ти йе,
оти йе малък юнакан,
5 оти йе малък юнакан,
ве ти йе висок конакан.
— Майчинко, мое майчинко,
конакан сърце не шени,
конакан сърце не шени,
10 ам си го шени юнакан,
ам си го шени юнакан.
Каг да го, майчо, заведам,
каг да го, майчо, заведам,
те ше ма видет друшкине,
15 те ше ма видет друшкине,
та ше ми рекат, майчинко,
та ше ми рекат, майчинко:
“Друшчице мое севгелна,
друшчице мое севгелна,

20 чем кога го си родила,
 чем кога го си родила,
 та го си ей тей завела.”

13 септември 2003 г.

Небие Дервишева

8. Вятър му духнал имане

Байрамの大祭から小祭の間に三組の結婚式がありました。二つはとても陽気だったけど、もう一つは悲しい沈んだものでした。それで母親が彼女[娘]に聞きました。ねえおまえ、なんで悲しいんだい。娘は答えて言いました。ねえ母さん、悲しくないなんてどうして言えましょう。連れ合いは、森では[頼りになる]道づれじゃないし、村では似合いの人じゃない。友だちは、[小男の夫を連れした]あたしをからかって言うのよ。お客に連れていくようなそんな子供をいつ生んだのってね。そこで母親は言いました。ねえあたしの娘、連れ合いなんかに目を向けなくて、財産を見るのよ。白い立派なお屋敷や金貨の詰まった長持を見てればいいのよ。すると娘は母親に言いました。連れ合いが馬鹿者なので、金貨は錆びてしまうし、財産も風に飛ばされてしまったわ。

Од голем байрем до малък
че три са свадби станали,
двене са еце шенливи,
аннана кимна, кахърна,
5 аннана кимна, кахърна,
пък ѝе майка хи питаше:
— Оти си, мари, кахърна ?
— Майчинко, стара майчинко,
каг да не ми съм кахърна,
10 приз гора не ѝе дружина,
приз гора не ѝе дружина,
прис сило не ѝе прилега,
прис село не ѝе прилега,
га ми са смейет друшкине,
15 га ми са смейет друшкине:
“Друшчице мила, сребърна,
друшчице мила, сребърна,

чи кога го си родила,
чи кога го си родила,
20 та и на госте завела.”
— Дъщеро мое, майчина,
немой ми гледай либено,
немой ми гледай либено,
ам си му гледай имане,
25 ам си му гледай имане,
имане, бели конаци,
имане, бели конаци,
пълни сандъци алтъне.
— Майчинко, мое майчинко,
30 ръжда му йели алтъне,
ръжда му йеле алтъне,
ветер му духнал имане,
ветер му духнал имане,
га ми ѝе любе будала.

19 март 2002 г.

Фатме Дервишева

9. Ръжда му яла парите

義母は嫁に尋ねました。ねえ嫁さんや、眠いのかい。嫁は答えて言いました。いいえ、お義母さん、眠くはないけど、あたしは瞳が黒くて潤み目なんです。昨日の晩、あたしがメジェをしたらみんな来たけれど、あたしの主人が一番最後にやってきて、それも一番醜男でした。義母は嫁に答えて言いました。ねえ若くて未熟なお嫁さん、あの人の醜いとこなんか見るんじゃないよ、財産を見るんだよ。一杯詰まった長持ちに金貨、麦で一杯の蔵、蜂蜜の巣箱で一杯の菜園をね。嫁は答えて言いました。母さん[ママ]、財産なんていらないわ。あたしの主人が醜男なので、お金は錆びてしまったし、巣箱もつむじ風が巻き上げてしまったわ。

— Сънлива, снахо, дремлива ?

— Не съм, анайко, сънлива,

не съм, анайко, сънлива,
ам съм чернока, мренока,

5 ам съм чернока, мренока.

Снощи съм меже имала,

снощи съм меже имала,

врит беха, мари, дошлили,

врит беха, мари, дошлили,

10 мойно бе либе най-накрай,

мойно бе любе най-накрай,

мойно бе любе най-грозно.

— Невесто млада, зелина,

немой му гледа грозноно,

15 ам си му гледай имане,

пълни сандъци и жълтици,

пълни сандъци и жълтици,

пълни хамбаре със жито,
пълни хамбаре със жито,
20 пълна градина с кошове.
— Майчинко, мое майчинко,
не ща му, майчо, имане,
не ща му, майчо, имане,
ръжда му йело парине,
25 ръжда му йела парине,
юда вдигнала кошове,
юда вдигнала кошове,
га ми ѝе грозно либено.

8 септември 2003 г.

Фатме Дервишева

10. Ти пукна, та ме заглави

ねえ母さん、あたしを急いでお嫁にやったけど、あたしを不幸にさせて容色も衰えさせ、いとしい人も冷たくなったわ。[母さんは、以前は貧乏で]お腹を空かせていたけれど、[あたしをお金持ちにお嫁にやって]たっぷり食べたかしら、疲れていたけど、休んで元気になったかしら、裸同然だったけど、[ちゃんとした]服を着たかしら。そんな娘の言葉に答えて母親は言いました。ねえ娘や、あたしの子、あたしの心をはちきれさせないで。あたしはね、晩ご飯のときに[食事もせずに]床につき、朝ご飯のときに[食事もせずに]起きていたんだよ。

— Майчинко, мое майчинко,
ти пукна, та ма заглави,
ти пукна, та ма заглави,
та ма черничка почерни,
5 та ма черничка почерни,
та ми либено юдели,
та ми либено юдели.
Гланна бе, наиде ли са,
гланна бе, наиде ли са,
10 морна бе, йотмори ли са,
морна бе, йотмори ли са,
гола бе, йоблека ли са ?
— Дъщеро мое, майчина,
немой ми пукай сърцено,
15 немой ми пукай сърцено,
приз вечерка съм легнала,
приз вечерка съм легнала,
прис прогюмка съм станала.

13 септември 2003 г.

Небие Дервишева

В. 父と娘

1. Погледни твоята малка дъщеря

Мфмет, 出てきて見てみろ。お前の小さな娘が、オスマンの膝に乗かって、小さな贈物[の乾し果物]を[彼の]綺麗な模様の帯から自分で取出して食べているぞ。

— Излези, Мехмет, погледни
твояна малка дъщере,
твояна малка дъщере
как седи на skut Осман му,
5 как седи на skut Осман му,
как яде дребан армаган,
как яде дребан армаган.
Самичка си гу извада,
самичка си гу извада
10 от киченкуну пойесче.

14 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев

С. 母と息子

1. Вземи се, сине, ожени

母親は息子に言いました。ねえ息子、町や村を歩き回るのはいいかげんにしなさいよ。娘やうら若い花嫁を騙すのもいいかげんにしなさいよ。ねえ息子、身を固めな、結婚しなさいよ。十八か十九になったばかりの娘を一人見つけるんだよ。息子は答えて言いました。母さん、分かっているよ。でも、今のところは一人身で歩き回るから、身を固めることはないだろうな。

— Стига си ходил, сино льо,
стига си ходил, сино льо,
по села и по градове,
стига си лъгал момине,
5 стига си лъгал момине,
стига си лъгал момине
и младичкине невести,
и младичкине невести.
Земи са, сине, ожени,
10 земи са, сине, ожени,
найди си енно момиче
на осемнайсет години,
на осемнайсе години,
на осемнайсет години,
15 деветнадесе почнало,
деветнадесе почнало.
— Да знаем, майчо, да знаем,

20 да знаем, майчо, да знаем,
 се ща бекерен да ходем,*
 пък нее нема да земам.

5 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

* 歌い手の Бистра Гаджева さんは、この一行を **никога нема да земам** と歌ったが、そばで聴いていた **Фатме Дервишева** さんに歌詞の誤りを指摘されて上記のように歌い直す。

2. Искат ме заврян зет да ида

息子が母親に言いました。母さん、あの人たちは俺たちをお望みなんだ、俺に入り婿に来ないかってお願いしてるんだ。なあ母さん、雌鶏つきの鶏小屋に二羽の雄鶏も一緒にな、娘には瘤をつけてな。

— Искат не, мачо, молет ма
заврен зет, майчо, да ида,
заврен зет, майчо, да ида,
дават ми, майчо, дават ми,
5 дават ми, майчо, дават ми
курникан със кукушкине,
курникан със кукушкине,
барабар з двана петела,
барабар з двана петела,
10 момана, майчо, з детено.

14 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев

3. Учи ма, майчо, как да измамя момата

母さん、あの娘をどうやって誘ったらいいのか教えてくれよ。ねえ息子、教えたじゃない、教えても、教え込むことが出来なかったじゃない。上手と下手の集落[の娘たちを集めて]お前の姉さんがメジェを開くから、あの娘もやって来るよ。そしたら、ねえ息子、お前は、姉さんの晴れ着を着て、あの娘のそばに座るんだよ。そして知恵を働かせてあの娘に聞くんだよ。君は誰の向いに座っていたんだい、君は誰の悪口を言っていたんだい、受取ったのに後から返したのは誰の結納だったんだいとね。

— Учи ма, майчо, научи
как да измамам момана.

— Учих та, синко, учих та,
не можих да та научем.

5 Абла ти меже ше има,
долна и горна махала
и те ще, синко, да дойде.
Тога са, синко, премени
с аблиноно ти гиздило
10 и сенни блиско до нее,
та си ѝе хитро попитай
кому ѝе карши седела,
кому ѝе карши седела,
седела напук гълчела,
15 кому ѝе лишин държела,
държела, назад връщала.

2 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

4. Глава ли те боли, сине мой - I

母親は息子に尋ねました。ねえ息子、頭が痛いのかい、それとも腰が痛いのかい。息子は答えて言いました。母さん、頭も腰も痛くないけれど、昨日の晩を、昨日の晩の恋人を思い出すと心が痛むんだ。あの娘を俺にしてくれないか、俺のお嫁になってくれないか、なあ母さん、行って頼んでみてくれ。母親は戻ってくると息子に言いました。行ってきたよ。二人の嫁があの子の髪を結ってね、あの子は花嫁になって出かけるところだったよ。

— Глава ли та боли, сине мой,
глава ли та боли,
глава ли та боли, сине мой,
или половина ?

5 — Не ма глава боли, мамо ма,
не ма глава боли,
не ма глава боли, мамо ма,
нито половина.
Сърцесо ма боли, мамо ма,
10 сърцесо ма боли,
за сношнана вечер, мамо ма,
за сношноно любе.
Иди ми я искай, мамо ма,
иди ми я искай,
15 дано ми е дадат, мамо ма,
булка да ми стане.
— Ходих, сине, ходих, сине мой,
ходих, сине, ходих,
две е булки плетат, сине мой,

20 невеста търнова,
 две е булки плетат, сине мой,
 невеста търнова.

9 септември 2003 г.

Бистра Гаджева

5. Глава ли те боли, сине мой - II

母親は息子に尋ねました。ねえ息子、頭が痛いのかい。息子は答えて言いました。母さん、頭は痛くないけれど、昨日の晩を、昨日の晩のメジェを思うと心が燃えるようなんだ。母さん、行って、あの娘をくれないか、頼んでみてくれ。あの娘をお嫁にくれなかったなら、俺は緑の森で蜂起の仲間になるからな。

— Глава ли та боли, сине мой,
глава ли та боли ?

— Ни ма глава боли, мамо мар,
сърцето ма пари.

5 Сърцесо ма пари, мамо мар,
сърцесо ма пари
за сношниян вечер, мамо мар,
за сношнана меже,
за сношнана меже, мамо мар,
10 за сношнана меже,
за сношноно любе.

Иди ми ѝе искай, мамо мар,
иди ми ѝе искай,
иди ми ѝе искай, мамо мар,
15 дано ми ѝе дадат.
Пък ко мй е не дадат, мамо мар,
пък ко мй е не дадат,
ко ми ѝе не дадат, мамо мар,
комита ше станам.

20 Комита ше станам, мамо мар,

комита ше станам,
комита ше станам, мамо мар,
фъв гора зелена.

8 септември 2003 г.

Фатме Дервишева

6. Глава ли те боли, сине мой - III

母親は息子に尋ねました。ねえ息子、頭が痛いのかい、それとも腰が痛いのかい。息子は答えて言いました。母さん、頭も腰も痛くないけれど、昨日の晩を、昨晚の娘たちを、昨晚の歌を思い出すと心が痛むんだ。

— Глава ли та боли, сине мой,
глава ли та боли,
глава ли та боли или половина ?
— Не ма глава боли, мамо ма,
5 не ма глава боли, нито половина.
Сърцето ма боли, мамо ма,
сърцето ма боли за сношнана вечер,
за сношнана вечер, мамо ма,
за сношнана вечер, за сношнине моми
10 за сношнине моми, мамо ма,
за сношнине песни.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

7. Кажи ми, майчо, коя от трите да взема

息子は母親に言いました。なあ母さん、俺は三人の綺麗な娘を好きになったんだ。一人は俺に財産をくれるから、もう一人は俺に店をくれるから、三人目の娘は俺に美貌をくれるから、俺に結婚してくれって言ってるんだ。なあ母さん、三人の娘の誰を選んだらいいんだろう。母親は息子に答えて言いました。ねえ息子、三人目の一番綺麗な娘をお嫁にするんだよ。

— Майчинко, мое майчинко,
загалих, майчо, три моми,
загалих, майчо, три моми,
три моми, три хубавици.
5 Първа ма моли с имане,
фтора ма моли з дюкяне,
фтора ма моли з дюкяне,
трета ма моли със хубост.
Кажи ми, майчо, кажи ми
10 коя от трине да земам.
— Земи си, синко, земи си
третана, най-хубавана.

8 септември 2003 г.

Фатме Дервишева

8. Изсъхнах, извехнах за двете моми

息子は母親に言いました。母さん、俺は村の娘二人に焦がれて、やつれちゃったよ。娘たちを[二人とも]欲しいけど、嫁にはくれないんで、[一人の]娘は盗んでやると言ってやるさ。母親は答えて言いました。ねえ息子、牢屋に九年、罰金一万だって言うよ。それで息子は言いました。分かってるさ、母さん、牢屋に二〇年、罰金三万払っても、一人は嫁にするからな。

— Иссъхнах, майчо, извейнах
за двене моми ф селоно,
за двене моми ф селоно,
ищам ги, не дават ми ги,
5 да рекам да ѝе окрадам.
— Казват ми джеза голема,
казват ми джеза голема,
девет години да лежем,
девет години да лежем,
10 десет хиляди да броя.
— Да знаем, майчо, да знаем
двайсет години да лежем,
двайсет години да лежем,
трийси хиляди да давам,
15 трийси хиляди да давам,
пък ща еднана да земам.

17 март 2002 г.

Фатме Дервишева

и Бистра Гаджева

9. Как да те рачи, девойко

若者は娘に言いました。ねえ、晴れ着に着替えて花の飾りをつけなよ。母さんが、君を嫁として、僕の若妻として気に入ってくれるようにね。娘は答えて言いました。騙すのはいいかげんにしてよ。花をたくさん摘んで、バジルの花をみんな抜いて集めたのに、あんたのお母さんは、あたしを欲しがっても気に入ってもくれなかったわ。それで若者は娘に言いました。ねえ、昨日の晩、上と下の集落の[若者を集めて]僕らはメジェをしたら、みんなは三つも四つも紡いだのに、君は一つ半だけ。それも、三度も母さんがつむを回して君は三百も結びを作っているようじゃ、母さんはどうして君が欲しくなるだろうかな。

- Кичи са, згадай, девойко,
зам майка да та бендиса,
зам майка да та бендиса
за снаха и за невеста !
- 5 — Стига ма лъжи, юначе,
врици киткине укъцах,
врици киткине укъцах,
босилекан си юмъкнах,
пък ма майка ти не рачи,
10 не рачи, не бендисува.
— Каг да та рачи, девойко ?
Снощи сме меже имали,
снощи сме меже имали
горна и долна махала,
15 врид беха, мари, напрели
по три по четри вретена,
пък ти си, мари, напрела
едно полвинка вретено,

триш го ѝе майка мотнала,
20 триста ѝе възли вързала.

28 август 2002 г.

Бистра Гаджева

10. Галем я и ще я вземам

息子は母親に言いました。母さん、ライコヴォ集落のスモリャン娘を好きになったんだ。好きで、好きで、好きだから、嫁にするぞ。ロージェンの丘を通過してスモリャンに行くときは、二丁の鉄砲をばんばん鳴らそう、俺たちが迎えに来たとぞ、嫁にもらいに来たぞとスモリャン娘に聞えるようにな。

— Загалих, майчо, залюбих
една ми мома смоленка,
една ми мома смоленка
от Райкофскана махала.
5 Галем йе, майчо, галем йе,
галем йе и ше йе зема.
Ага за Смолен търнеме
приз роженскана барчина,
приз роженскана барчина
10 чиф щеме пушки да пукнем,
чиф щеме пушки да пукнем
да чуе мома смоленка,
да чуе мома смоленка,
чи сме за нее търнали,
15 чи сме за нее търнали,
търнали и ше йе зедем.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

11. Любето ми се ожени

ハッサンは、木陰で悲しげな音色で縦笛のカヴァルを吹いていると、母さんが彼に尋ねました。ねえ息子、どうしてカヴァルを吹いてるんだい。春よ来いと吹いているのかい、それとも冬よ来いと吹いているのかい。若者は、答えて言いました。母さん、そのどちらもだけど、おれは恋人をもっともつと思って吹いているのさ。あの娘は嫁にいったんだ。

Хасан ми свирѝ ф усойе

с негови желни кавале.

Пък го майка му питаше:

— Защо ми свирѝш, сино льо,
5 защо ми свирѝш, сино льо,
 дали за лето-пролето,
 дали за лето-пролето
 или за зима-подзима ?

— За сичко има, майчинко,
10 по-млогоно ѝе за любе,
 по-млогоно ѝе за любе,
 любено ми се ожени.

17 март 2002 г.

Фатме Дервишева

и Бистра Гаджева

12. Сино льо, утре ще те главим

息子は母親に言いました。深い緑の森で郭公が鳴いているぞ。心が締めつけられて、身も心もなえてしまうよ。俺は、病気で床につくんだろうか、それとも病人の世話をすることになるんだろうか。母親は息子に答えて言いました。ねえあたしの息子、お前は、病気になったり、病人の世話をすることなんかないよ。あたしたちは、明日、お前を婚約させてやろうね。肌が白くて黒い瞳のエクフェとね、背が高くすらりとしたエクフェとね。

— Кукувичкана кукува
ф честана гора зелена,
мен на сърцено препада,
препада и премалева.
5 Дали ща болан да лежем,
или ща болни да гледам ?
— Сино льо, мои майчини,
ни щеш ни болан да лежиш,
ни щеш ни болни да гледаш,
10 ам ше та утре главиме,
ам ше та утре главиме
на Екфе бела чернока,
на Екфе бела чернока,
на Екфе тенка височка.

13 март 2003 г.

Бистра Гаджева

D. 母と息子と娘

1. Дойдоха Елени далечни момари

母親には息子のコスタディンと娘のエレーナがいました。遠くからエレーナに仲人たちがやって来ました。コスタディンは彼女を嫁に出そうとしましたが、母親は出そうとせませんでした。それで息子は母親に言いました。母さん、妹を嫁にやろうよ。俺たちは遠くにお客に行けるじゃないか、黒毛の馬にたっぷり乗れるじゃないか。

Имала е майка сина Костадина,
сина Костандина, дъщеря Елена.
Дойдаха Елени далечни момаре,
Костадин е дава, майка я не дава.
5 Костадин ѝ вика: — Дай е, маре, дай е,
да се находиме на далеч на гости,
да са находиме на далеч на гости,
да се наяздиме на враннине коне.

9 септември 2003 г.

Бистра Гаджева

Е. 夫婦

1. Едно не си ни донела

新婚の夫は妻に言いました。ねえ、若嫁さん、母さんや兄さんが何て言ってるか聞いたかい。お前を俺と別れさせるって言うんだよ。新妻は答えて言いました。何であたしを別れさせるの。嫁入支度を少ししか持って来なかったというの。敷物と上掛けは騾馬九頭分よ、上着は三十着、騾馬には下僕たちをつけ、羊には羊飼いをつけてきたのよ。夫は答えて言いました。ねえ、若嫁さん、お前は何でも持って来てくれたけど、たった一つ持ってこなかったものがあるんだよ。お前は、娘では来なかったんだから。

— Невесто млада, зелина,
ти чула ли си, невесто,
ти чула ли си, невесто,
майка и бацьо що думат,
5 майка и бацьо що думат ?
Те думат да та паресат.

— Че защо да ма паресат,
малко ли съм и донела,
малко ли съм и донела ?

10 Донела и докарала
девет товара халища,
отузик руба червена,
отузик руба червена,
мулетана с ратайене,
15 мулетана с ратайене,

офцине със офчерене.

— Невесто млада, зелина,

ти ни си сичко донела,

ти ни си сичко донела,

20 анно не си ни донела,

анно не си ни донела,

момиче не си дошлала.

8 септември 2003 г.

Фатме Дервишева

2. Майка не те рачи, оти алтъни не носиш

新妻は夫に尋ねました。黒い瞳の素敵なあなた、あたしを拒むなんて、あたしに何か到らないところがあったからなの。あたしは色白じゃないかしら、黒い瞳じゃないかしら、すらりと細身で背が高くないかしら。嫁入り道具を持ってこなかったかしら。夫は答えて言いました。君は嫁入り道具を持ってきたさ。でも、母さんが君を望まないんだ。君は金貨や白いお金を持って来なかったし、それに他の隣の男の子と出歩いていたからね。

— Юначе вакъл, каматан,
каква ми найде махана,
каква ми найде махана,
та са од мене отказа ?
5 Бела ли не съм, чернока,
тънка ли не съм, висока,
руба ли не съм дунела?
— Дунела и докарала,
ти ми си рубя донела,
10 донела и докарала,
ала та майка не рачи,
оти алтъне не носиш,
оти алтъне не носиш,
алтъне, бели грошове,
15 ами си, мари, ходила
съз друго момче комшиче.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

3. Малко е чорбата, дълга е зимата

母親は娘に聞きました。ねえあたしの娘、おまえの旦那はどこにいるの。娘は答えて言いました。ほら、あそこの隅で腹を立てているのよ。あたしが緑のいらくさのスープを作って出したってね。それで言ってやったのよ。この大飯くらいの大食漢、スプーンを満たして掬うのは、もっとゆっくりしなさいよ、スープは少ないのに冬は長い、冬は長いのに子供は多いんだよってね。

— Дъщеро майчна, мари,
де ти ѝе любено ?

— Ей го там ф кюшана, мари,
рассърдило са е,
5 отъ му съм сварила, мари,
зелена коприва
и му съм реклала, мари,
“Придотин придоцки,
полека загрибвай, мари,
10 попълни лъжици,
малко ѝе чорбана, мари,
длега ѝе зимана,
длега ѝе зимана, мари,
много са децана.”

5 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

4. Ой кукувичке, ти лятно пиленце - I

若い妻は郭公に尋ねました。ねえ、夏の小鳥の郭公さん、あなたは高く飛び広くを見てるわね。あたしの愛しい人を見なかったかしら。郭公は答えて言いました。若いお嫁さん、見ましたよ。コモティニの町の居酒屋で、テーブルについてコーヒーを飲んでいるのを見ましたよ。膝の上に愛人を乗せ、二人で甘い言葉をささやいて目を見つめ合い、結婚しようと話しているわ。彼女は郭公に頼みました。ねえ、夏の小鳥の郭公さん、憎らしい居酒屋に低く舞い降りて、悲しい知らせをあの人に伝えてよ。居酒屋は火で焼けてしまうだろう、あたしはあの人にありとあらゆる災いをもたらしてやるからと。

— Ой, кукувичке, ти летно пиленце,
височко фъркаш, широчко видиш.

Ой, не виде ли моено любеле ?

— Видех го, видех, млада невесто,

5 фъв Гюмюржуне фъв касабана,
фъв Гюмюржуне фъв механана,
на стол седедше, кафе пиеше,
друго му любе на skut седеше,
слатки си думи думаха,

10 право са ф очи гледаха
и викат да са йоженет.

— Ой, кукувичке, ти летно пиленце,
спусни са ниско над механа,
механа, черна пущина.

15 Балан му хабер да кажеш
механа на огън да изгори,
харам му правим сичконо.

6 септември 2002 г.

Салих Делисалихов

5. Ой кукувичке, ти лятно пиленце - II

若い妻は郭公に尋ねました。ねえ、夏の小鳥の郭公さん、あなたは高く飛び広くを見てるわね。あたしの愛しい人を見なかったかしら。郭公は答えて言いました。若いお嫁さん、見ましたよ。カヴァアラやドラマの町[の居酒屋]でテーブルについてワインを飲みながら、別の恋人と約束をしていましたよ。

— Ой кукувиче, пиле летно,
височко фъркаш, широко гледаш.

Ой, не виде ли моято любе ?

— Видех го, видех, млада невесто,
5 ф Кавала, Драма на стол седеше,
на стол седеше вину пиеше,
на стол седеше вину пиеше,
съз друго любе каул правеше.

14 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев

VI. 社会

A. 世態

1. Равни дворове е размела

白いお屋敷で何があったか聞きましたか。ハシエが、朝早く起き水を汲んできて、バジルの箒で庭を掃いたんだ。一つ所を箒で掃けば、スカートで二箇所も掃いて、シャルヴアリで三箇所も掃く始末だよ。

Вий чули ли сте, не ли сте,
кина йе ново станало,
кина йе ново станало
на беличконо коначе ?
5 Хасъе йе рано станала,
ранко е вода дунела,
ранко е вода донела,
равни йе дворе размела
съз босилкова метлица.
10 Колкофно мете метлана,
колкофно мете метлана,
два дела мете рискана,
два дела мете рискана,
три дела метат шелваре.

11 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев

2. Кому какво е липсало - I

義弟の上着をつくる糸を紡ぐため、義弟の屋敷に[娘たちが]集まりました。紡いで、紡いで、[疲れて]横になり、うとうと眠り込みました。眠りから覚めると、一人の娘が叫びました。起きてよ、みんな、誰か何かなくなってる。あたしはもんぺを盗まれたわ。男の小指が戦利品に取ったのかしら。

Събрали са са, събрали
на мижувине дворове,
на мижувине дворове,
мижумо кепе да предат.
5 Прели са, колко прели са,
че та са и полегнали,
че та са и полегнали,
че та са и позаспали.
Ага са от сън станали
10 една са мома разрука:
— Станите, друшки, да видим
кому кина ѝе липсало,
кому кина ѝе липсало.
— Мен са шалваре украли,
15 мен са шалваре украли.
Кутро ли ги мъско пличкоса ?

5 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

3. Кому какво е липсало - II

上手と下手の集落[の娘たち]が、真中の集落にメジェに集まりました。腰を下ろして紡いで、紡いで、二番鶏が鳴きました。二番鶏が鳴くと、ひどく眠気に襲われました。皆は横になってうとうと眠り込むと、一人の娘が叫びました。起きてよ、みんな、誰に何が起こったか[調べてみてよ]。あたしは首飾りを盗まれたのよ。

Търнали ми са, търнали
долна и горна махала,
долна и горна махала
на средничкана на меже.
5 На средничкана на меже
седели, колко прели са,
седели, колко прели са,
фтори са петли попели.
Фтори са петли пупели,
10 тъошка и дремка налегна.
Легнали, та са заспали,
еднаса мома изрука:
— Станите, друшки, станите,
кому кина ѝе станало,
15 кому кина ѝе станало ?
Мен са герданче украли.

14 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев

4. Вие чули ли сте, не ли сте

聞いたかい、大きなスタルニツァ村で何があったかさ。娘のザイデが、産後の若い雌牛をゲヴァズの木工場の上手のパブラトヴィツァの牧場で放牧しようと朝早く起きたのさ。オルロヴォの黒い瞳の羊飼いたちが娘を捕まえたんだ。[彼女が戻ってくると]母親は彼女に聞いたよ。ザイデ、ねえ母さんの娘、夜になったのに何処にいたんだい。娘は答えて言ったんだ。母さん、チェムラジーヤの丘の脱穀場の高い麦束の上で夜を過したのってな。

- Ве чули ли сте, не ли сте, ох леле,
кина ѝе ново станало,
кина ѝе ново станало, ох леле,
ф Стърница село голямо ?
- 5 Зайде ѝе ранко станала, ох леле,
 младочни крави да пасе,
 младочни крави да пасе, ох леле,
 въс папративи ливади,
 въз папративи ливади, ох леле,
10 въз гевазвана бичкие.
 Че си ѝе Зайде фатиха, ох леле,
 орлофски въкли офчере,
 орлофски въкли офчере, ох леле,
 пък ѝе майка ѝ питаше:
- 15 — Зайдьо, майчина дъщеро, ох леле,
 чем де ти са бе мъркнало ?
 — Мен са бе, майчо, мъркнало, ох леле,
 на чемладжийски хармане,

на чемладжийски хармане, ох леле,
20 на високине кошове.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

5. Лоши сънища е сънила

Марікаのお友だちが来て言いました。さあ、Маріка、ロージェンのお山に行きましょうよ。あそこでお祭りがあるから、あなたの結婚式をしてあげるわ。Марікаの母さんは答えて言いました。ねえ、お友だちの皆さん、行ってちょうだい。Марікаは行かないから。土曜日から日曜日の真夜中に、あの子は悪い夢を見たの。濁った川がМарікаのお屋敷の下を流れて、あの子の恋人をさらった[と言う]のよ。

— Хайде, Марийке, да идем, мари,
на Рожен на планинана.
Тамо ще събор да има, мари,
и тебе свадба ше сторим.
5 Марийки майка думаше, мари,
— Вървите, друшки, вървите !
Марийка нема да дойде, мари,
лоши ѝе съне сънила
събота срещу неделя, мари,
10 мътна ѝе река текнала,
мътна е река текнала, мари
низ Марийкини дворове,
низ Марийкини дворове, мари,
Марийки любе носеше.

13 март 2003 г.

Бистра Гаджева

6. Сурко е пиле стъпило - I

灰色の小鳥が林檎の赤い若枝に下りてきて、屋敷のなかの嫁たちに[不吉な]知らせを伝えました。嫁たちよ、色白の嫁たちよ、お前たちにはこれまで不幸が無かったが、不幸が起こるぞ。木曜日の早朝にお前たちの漆喰塗りの白いお屋敷が燃え、愛する夫が焼け死ぬぞ。

Сурко ѝе пиле стъпило, мари,
на червен калем ѝебълка,
на червен калем ѝебълка, мари,
нахвътре хабер провада,
5 навътре хабер провада, мари,
навътре на кадънине:
— Кадъни, бели кадъни, мари,
вам бално не е ставало
и вам ще бално да стане, мари.
10 Ф четвартък ранко вутерна
конакан ше ви изгори, мари,
конакан керечлиена,
конакан керечлиена, мари,
любено севдалиена.

22 март 2002 г.
Фатме Дервишева
и Бистра Гаджева

7. Сурко е пиле стъпило - II

灰色の小鳥が林檎の赤い若枝に下りてきて、小鳥は歌い話して、屋敷のなかに[不吉な]知らせを伝えました。嫁たちよ、色白の嫁たちよ、お前たちは不幸には会わずにきたが、木曜日の早朝にお前たちに不幸が起こるぞ。木曜日の早朝にお前たちのお屋敷が、ご主人一家もろともに燃えてしまうぞ。

Сурко е пиле стъпило, мари,
на червен калем йебълка,
на червен калем йебълка, мари,
пиленце пейе, говори,
5 пиленце пейе, говори, мари,
нахвътре хабер провада,
нахвътре хабер провада, мари.
— Кадъни, бели кадъни,
кадъни, бели кадъни, мари,
10 ве бално не сте видвали,
ве бално не сте видвали, мари,
и вам ще бално да стане,
и вам ще бално да стане, мари,
четвъртък ранко утерна.
15 Четвъртък ранко утерна, мари,
конакан ше ви изгори,
конакан ше ви изгори, мари,
конакан със агайено.

11 март 2003 г.
Рамадан Койнарчев,
и Фильо Кънчев

В. 事件

1. Как ми кайдиса братчето - I

母親は娘を案じて聞きました。ねえ娘、どうしてお前はやつれちゃったの。旦那とうまくゆかないの、それとも子供が聞き分けないのかい。娘は答えて言いました。母さん、ねえあたしの母さん、子供が聞き分けがないんじゃないの。夫とうまくいってないのよ。あの人は、毎晩、血だらけのシャツを洗え、鋭いナイフを拭えって持ってくるの。昨日の晩も血だらけのシャツを洗えって持ってきて、シャツを振ったら右手が落ちてきたわ。右手には指輪がついていて、その指輪であたしの兄さんだって分かったの。それで、あああんな、なんで兄さんを殺めたのって聞くと、あの人は暗くて、[誤って]やっちゃったんだって言うの。

— Дъщеро моя, майчина,
оти си суха станала,
оти си суха станала,
дел ти ѝе ливо любено,
5 дел ти ѝе лево либено,
ил ти ѝе евро детено ?
— Майчинко, мое майчинко,
не ми ѝе евро детено,
не ми ѝе евро детено,
10 ам ми ѝе ливо любено,
ам ми ѝе лево любено.
Сека ми вечер донасе,
сека ми вечер донасе
кървави ризи да перам,
15 кървави ризи да перам,

остри ножове да мием,
остри ножове да мием.
Сноща ми, майчо, донесе,
сноща ми, майчо, донесе
20 кървави ризи да перам,
кървави ризи да перам.
Ага истръсих рискана,
ага истръсих рискана,
истръсих десна ръчинка,
25 истръсих десна ръчинка,
на ръчинкана пръстенче,
на ръчинкана пръстенче,
на пръстенче го познавам,
на пръстенче го познавам,
30 чи ми ѝе моето братчеле.
“Ох леле, любе, ох леле,
как ми кайдиса братчето,
как ми кайдиса братчено ?”
“Тявно бе, мари, мрачно бе,
35 тявно бе, мари, мрачно бе,
та ти кайдисах братчето.”

19 март 2002 г.

Фатме Дервишева

2. Как ми кайдиса братчето - II

森よ、干からびて枯れ木になってしまえ。そしたら母さんも薪取りと一緒にやってきて、あたしのことを察して尋ねてくれるから。ねえあたしの娘、なんでそんなに枯枝みたいになってしまったの、旦那とうまくゆかないの、それとも子供が聞き分けないのかいって。あたしは母さんに答えて言うわ。ねえ母さん、子供は聞き分けがないけれど、聞き分けなくても子供は育てられるわ。でも、夫とはだめ、うまくいってないの。毎晩、血だらけのシャツ洗え、切り取った首を隠せ、鋭いナイフを拭えって持ってくるのよ。昨日の晩も血まみれのシャツを洗えって持ってきて、シャツを振ったら右手が落ちてきたわ。右手には指輪がついていて、その指輪であたしの兄さんだって分かったの。それで、あああ、なんで兄さんを殺めたのって聞くと、あの人は、暗くて、お前の兄さんだって分からなかったって言うの。

Иссъхни, горо, извехни,
та стани сухи сухаре,
та стани сухи сухаре,
зам да ми дойдат дърваре,
5 зам да ми дойдат дърваре
и майка със тех да дойде,
хитричко да ма попита:
— Дъщеро мое, майчина,
оти си саква станала,
10 каквано суха вейчица,
дал ти е лево любено,
ил ти е евро детено ?
— Майчинко, мое майчинко,
то да е евро детено,
15 то да е евро детено,
кути ща, искути го ща,

кути ща, искути го ща,
ам ми е лево любено.
Ката ми вечер дониса,
20 кървави ризи да перам,
кървави ризи да перам,
секане глави да скривам,
секане глави да скривам,
остри ножове да мием.
25 Сноща ми, майчо, донесе
кървава риза да перам.
Ага си тръснах рискана,
истръсих десна ръчинка,
на ръчинкана пръстенче,
30 на пръстенен го познавам,
на пръстенен го познавам,
че беше мойно братчеле.
“Ох леле, любе, ох леле,
как ми кайдиса братчено ?”
35 “Тевно бе, любе, мрачно бе,
та ти не познах братчено.”

30 август 2002 г.
ФатмеДервишева
и Бистра Гаджева

3. Как ми кайдиса братчето - III

森よ、干からびて枯れ木になってしまえ。そしたら母さんも薪取りと一緒にやってきて、あたしのことを察して尋ねてくれるから。ねえ、あたしの娘、なんでそんなになってしまったの、子供が聞き分けがないの、それとも旦那とうまくゆかないのかいって。そしたら、あたしは母さんに答えて言うわ。ねえ、母さん、子供は聞き分けがないけれど、子供は育つもの。でも、夫とはうまく行かないの。血だらけシャツを洗い、切られた首を隠しながら、もううんざりだわって思うのよ。

Иссъхни, горо, извейни,
та стани сухи сухаре,
та стани сухи сухаре,
зам да ми дойдат дърваре,
5 зам да ми дойдат дърваре
и майка със тех да дойде,
и майка със тех да дойде,
хитричко да ма попита:
— Дъщеро мое, майчна,
10 оти си таква станала,
дел ти е йевро детено,
ил ти е лево любено ?
— Майчинко, мое майчинко,
то й да е йевро детено,
15 то й да е йевро детено,
кути ща, искути го ща,
ам ми е лево любено.
Насити ми са, майчинко,

20 **кървави ризи перащик,
секани главе скриващик.**

**11 март 2003 г.
Рамадан Койнарчев**

4. Любето ти сме ударили

起きろよАриЕ、開けろよАриЕ、お前たちの家の鮮やかな門を開けろよ。俺たちは高い山から大事な知らせをお前に持ってきたんだ。なあАриЕ、俺たちはお前の亭主を撃ち殺しちゃったんだ。それで、お前を籤にかけ、俺に当たったんだ。なあレナ・レンチェ[ママ]、お前は俺と一緒に来るんだぞ。俺に仕えて、コーヒーをいれるんだぞ。

— Стани ми, Алиьо, отвори, Алиьо,
стани ми, Алиьо, отвори,
вашине порти шарени,
вашине порти шарени, Алиьо,
5 вашине порти шарени,
шарени, шар шарени.
Голем ти хабер носиме, Алиьо,
голем ти хабер носиме
од високана планина.
10 Любено ти сме удрили, Алиьо,
любено ти сме удрили,
теп та сме на чоп метнали,
теп та сме на чоп метнали, Алиьо,
теп та сме на чоп метнали.
15 Ти са си мене паднала,
ти ще със мене да дойдеш, Лено Ленче,
ти ще със мене да дойдеш,
ти ше ми правиш изметен,
ти ше ми правиш изметен, Лено Ленче,

20 ти ше ми правиш изметен,
 ти ше ми вариш кафена.

11 септември 2003 г

Рамадан Койнарчев

5. Ще минем през село, та ще ме види любето

森よ、葉を茂らせ、[枝を]垂らせ。そして黒い瞳のメフメトを隠しておくれ。メフメトは、金髪の娘を切り刻んで罪を犯したので、憲兵たちは彼を捕まえて後ろ手に縛りあげ、前へ進めと言いました。メフメトは彼らに懇願して言いました。道連れの憲兵さんたちよ、俺の手をほどいて、村を通って行ってくれないか。恋人が俺を見たら、胸が張り裂けそうになるだろうな。憲兵たちは答えて言いました。さあ行くんだ、メフメト。俺たちは川を渡って、着いたらお前を牢獄に放り込んでやるからな。九年そこにおいて、九千を払うんだぞ。

Лисни са, горо, спуши са,
та скриеш вакъл Мехмете,
та скриеш вакъл Мехмете.
Мехметъ е сторил кабахат,
5 Мехметъ е сторил кабахат,
руса девойка съсекал,
руса девойка съсекал,
та го жандари фатиха,
та го жандари фатиха,
10 назат му ръки вързаха,
назат му ръки вързаха,
напреш му пътен казваха,
напреш му пътен казваха.
Мехмет са желно молеше,
15 Мехмет са желно молеше:
— Жандаре, мои екташе,
жандаре, мои екташе,
попусните ми ръкине,
попусните ми ръкине,
20 чи щем прес село да минем,

чи щем прес село да минем,
та ше ма види либено,
та ше ма види либено,
та ше му пукне сърцено,
25 та ше му пукне сърцено.
— Хайде ми върви, Мехметьо,
хайде ми върви, Мехметьо,
не щем през речка да минем,
не щем през речка да минем,
30 дорде та метнем в зондана,
дорде та метнем в зондана,
девет години да лежиш,
девет години да лежиш,
десет хиляди да дадеш.

Небие Дервишева
13 септември 2003 г.

С. 戦争と兵役

1. Моето любе немой писувай

徴兵に来た役人に娘は言いました。[徴兵簿に]登録してよ、抹消してよ。ねえ王様の憲兵さん。あたしの愛する彼は登録しないでね。登録していたら、抹消してね。[兵隊に]出かけてしまったなら、あの人を戻してね。結婚したら、あなたに贈物を、細かな刺繍をした贈り物をさし上げますから。役人は娘に答えて言いました。ねえ、小さな娘さん、残念ですけど、私は贈物を集めに来たんではないんですよ。兵隊を集めに来たんですぞ、選抜しに来たんですぞ、肌が白くて瞳が黒くて細身で背の高い兵隊をね。

— Писвай, расписвай, царско сейменче,
моено любе немой писувай.

Ко го си писал, распиши ми го,
ко ѝе търнало, развърни ми го.

5 Ко ѝе търнало, развърни ми го,
зам га са женем, дар ше та дарем.
Зам га са женем, дар ше та дарем,
тенки дарове з бели кенаре.

— Хей гиди, гиди, малка девойко,
10 ѝе не съм търнал дарве да зберам.
Ње не съм търнал дарве да зберам,
ами съм търнал хаскер да зберам,
ами съм търнал хаскер да зберам,
хаскер да зберам, хем да одберам,

15 хаскер да зберам, хем да одберам
бели, черноки, тенки, високи.

17 март 2002 г.
Фатме Дервишева
и Бистра Гаджева

2. Петърчо, младо войниче

若い兵隊さんのペータルちゃん、あなたは旅支度をして出かけるのね。すらりとしたこの身体はしなびるままに、白い顔も黄ばんでしまうままにして、あなたはあたしを誰にあずけてゆく。あたしも一緒に行った方が良くないかしら。ねえ、疲れたらあんたの鉄砲を担いであげる。汗をかいたら、この色鮮やかな前掛でぬぐってあげるから。

— Петърчо, младо войниче,
ти ми са збираш, търноваш.
Ти ми са збираш, търноваш,
че мене кому оставеш
5 тянкаса снашка да вехне,
 белосо лице да жълте ?
 Не ли йе лесно, нагодно
 и е със тебе да дойда ?
 Ага са, любе, умориш,
10 пушкана ше ти поносем.
 Ага са, любе, зазноиш,
 знойчекан ше ти пребришем.
 Знойчекан ше ти пребришем
 със аленкосо мендилче.

28 август 2002 г.

Бистра Гаджева

3. За голям байрем да дойдеш

неемфмет, бели靴下をあなたに二足編んだわ。一足はあなたが履いて、もう一足は中隊長にあげてね。あなたがパイラム大祭に[村に戻って]来て小祭にはここにいられるように、中隊長に休暇を出してもらうためにね。白いお屋敷で一人でいるのは、とてもさびしくてもういやだから。

— Исплела съм ти, Мехметьо,
два чифта бели журапе:
еднине ти да наденеш,
дручкине, Мехмет, да дадеш,
5 дручкине, Мехмет, да дадеш
на твоен ротен командир,
зам да та пусне, Мехметьо,
за голем байрем да дойдеш,
за малък, Мехмет, тув да си,
10 че ми са мене дожило,
че ми са мене дожило,
дожило и наситило
сама самичка да седем
ф нашено бело коначе.

5 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

4. Денем телим да играя, нощем табия да копяя

こんなにひどい春夏はあつただろうか。それともこんなのは俺だけのことか。独り身で歩きまわって、娘らを可愛がっていると、お上のために軍務につけとやつらは俺を兵隊に引っ張って、昼は軍事教練、夜は塹壕掘り。俺たちは掘って掘って、俺が掘出したのは若嫁[の死体]。指には指輪が、指輪には文字が刻まれていたよ。ねえあんた、あたしを起こさないで。あたしは母さんの一人っ子、あたしは父さんの一人娘。父さん母さんは、あたしを朝早くたたき起こしたのだからね。早く家事をするんだよ、早く^は機に入って[嫁入りの]綺麗な贈り物を織るんだよってね。

Сакова лето-пролето
дели ѝе буннаш бивало,
дали ѝе буннаш бивало,
или ѝе лу мен сакова ?
5 Когано лефетер да ходем,
когано моми да галем,
пък те ма писват, привадат
дювлет му измет да правем
поденем телим да играм,
10 понъщам табье да копам.
Копяхме, колко копахме,
ископах млада невеста.
На ръчинкана пърстенче,
на пърстенен бе писано:
15 — Немой ма буди, юначе,
че съм въз майка анничка,
че съм въз майка анничка
и въз бубайко самичка,

20 та ма са рано вдигали,
рано изметен да сторем,
рано във станан да флезам,
тенки дарове да ткаем.

28 август 2002 г.

Бистра Гаджева

5. Карши слънце погледни - I

母さん、年老いた母さん、朝早く起きたなら、真向かいに太陽を見てくれ。もし太陽が血の色だったら、俺は戦場で倒れたということだ。もし太陽が陽気なら、おれは急いで戻るということだ。母さん、年老いた母さん、俺が戻ったら、二頭[の羊]を供犠にして、村じゅうの人を集めよう、若嫁や綺麗な娘をみんな集めよう。

— Майчинко стара, мале ле,
вутерно ранко станете,
вутерно ранко станете,
каршу слънцено погледни,
5 карши слънцено погльодни,
ку ѝе слънцено кърваво,
ку ѝе слънцено кърваво,
знай, чи съм паднал шахитин,
ку ѝе слънцено шенлифко,
10 знай, чи са назат развърнам.
Майчинко стара, мале ле,
ако са назат развърнам,
ако са назат развърнам,
чиф ще курбане да колям,
15 чиф ще курбане да колем,
цело ще село да зберам,
цело ще село да зберам,
врит младичкине невести,
врит младичкине невести
20 и хубавине девойки.

12 септември 2003 г.

Милко Стефанов

6. Карши слънце погледни - II

母さん、年老いた母さん、朝早く起きたなら、真向かいに太陽を見てくれ。もし太陽が悲しげだったら、俺は戦場で倒れたということだ。もし太陽が陽気なら、おれは急いで戻って村一番の娘と盛大に結婚式を挙げるということだ。

— Майчинко, стара майчинко,
вутерно ранко га станеш,
вутерно ранко га станеш,
карши слънцено поглевай.
5 Ко йе слънцено кахърно,
знай, чи съм паннал шейхитин,
ко йе слънцено шенлифко,
знай, ше са назат развърнам,
голема свадба ше вдигнам
10 със баш момана ф селоно.

9 септември 2003 г.

Бистра Гаджева

7. Войната да се прекрати

昨夜、深いエーゲ海から、あたしの最愛の恋人から手紙がありました。手紙にはこう書いてありました。ねえおまえ、綺麗な娘さん、昨日の晩、俺たち若者の兵隊が兵舎一杯に集められたんだ。明日、俺たちは戦^{いくさ}の山の戦いに出かけてゆくんだ。俺たちはみんな降参するだろうけど、俺だけは降参しないぞ。[こう言うと仲間の兵隊が俺に言ったんだ。] 降参しちゃえよ、なあ仲間。ここじゃ恋人なんぞ気にしてられないぞ。ここじゃ気がかりなのは戦争なんだ。戦争が終わってくれるようになってな。

Снощи ми писмо допанна
от Бело море дливоко,
от Бело море дливоко,
от мойно първо либеле,
5 от мойно първо либеле,
писмоно пише, говори,
писмоно пише, говори:
— Девойко, майри хубава,
девойко, мари хубава,
10 снощи на бега позбрали,
снощи на бега позбрали,
пълна казарма войници,
пълна казарма войници,
войници млади момчета,
15 войници млади момчета.
Ютре щем на бой да идем,
утре щем на бой да идем
на бой на бойска планина,
на бой на бойска планина.

20 Там ше са врит предаваме,
там ше са врит предаваме,
лу ѝе нема са предавам,
лу ѝе нема са предавам.
“Предай са, предай, аркадаш,
25 придай са, придай, аркадаш !
Тува са либе не гледа,
тува са либе не гледа,
тува са гледа войнана,
тува са гледа войнана,
30 войнана да са прекрати.”

Небие Дервишева

13 септември 2003 г.

VII. 勞 働

1. Ранко овците пуснала

郭公が、下手の部落のネツヴェの家の花の上で鳴いてます。ネツヴェは、朝はやく起き、目の回りの毛の黒い羊を放牧させるため、朝はやく羊を狭く長い道に出しました。

Кукувичкана кукова
фъв долничкана махала,
фъв долничкана махала
на Нецвинине кичици,
5 на Нецвинине кичици.
Нецве йе рано станала,
Нецве йе ранко станала,
ранко офцене пуснала,
ранко офцене пуснала
10 въклине офце да пасе,
въклине офце да пасе
прис тесни длеги сукаце.

14 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев

2. Там има води студени

息子は母親に尋ねました。母さん、俺は何ていう土地にいるんだろう。平らな野原で、水はないし、日陰だってないんだ。目の回りの黒い俺の羊の群れを、どうしたら良いんだろう。母親は息子に答えて言いました。ねえ息子、ストヤンや、お前の羊の群れはエニハンの森に連れて行きな。あそこには冷たい水場もあるし、濃い日陰だってあるからね。あそこなら目の回りの黒いお前の羊の群れにたっぷり水を飲ませてやれるよ。

— Ах, да знаеш, майчо, на какво съм место,
на какво съм место, на равна полена,
на какво съм место, на равна полена,
дено вода нема, нито сенка има.
5 Нито вода нема, нито сенка има,
какво ще да правем мойно вакло стадо,
какво ще да правем мойно вакло стадо ?
— А бре, сине Стоене, искарай си стадо,
а бре, сине Стоене, искарай си стадоно,
10 искарай си стадоно във Ениханска гора,
искарай си стадоно във Ениханска гора.
Там има води студени, там има сенки дебели,
там има води студени, там има сенки дебели,
там ще да си напоиш твойно вакло стадо.

11 март 2003 г.

Фольо Кънев

3. Овньо лъо, височко държи главата

雄羊よ、目の回りの黒い美しい雄羊よ。ここ、高い山から腰を上げる時が来たぞ。明日は俺たちの大きな村を通るぞ。お前は毛に飾り刈りを入れた羊たちを引っ張って行くから、細かな歩みでゆっくりと歩を進めるんだぞ。お前の鈴が鳴るように、頭を高く上げるんだぞ。

Овньо лъо, вакъл каматан,
дошло е време, овньо лъо,
дошло е време, овньо лъо,
от тува да са вдигаме,
5 от тува да са вдигаме,
од високана планина,
од високана планина,
утре щем, овньо, да минем,
утре щем, овньо, да минем,
10 приз нашно село големо,
приз нашно село големо,
ситанко стипай с ножинки,
ситанко стипай с ножинки,
зам да ми сурнеш альци,
15 зам да ми сурнеш альци,
височко държи главана,
височко държи главана,
зам да ти цънкат ченове.

14 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев

4. Пило ли е моето стадо вода

羊飼いは娘に言いました。ねえディミトリツァ、きれいな娘さん、お前にじかに聞くから答えてくれよ。俺の羊の群れは水を飲んだかい、通り過ぎて行ったかい。娘は答えて言いました。聞くんだったら、あなたにじかに答えてあげるわ。二百頭は飲んで、三百頭は通りすぎていったけど、五百頭は岸边にいたわ。それで羊飼いはまた娘に言いました。ねえディミトリツァ、きれいな娘さん、バジルの枝を取って俺の灰色の羊の群れを駆り、アルダ川の水を飲ませて緑の草を食ませてくれよ。

— Димитрице, гиздаво девойче,
ще та питам право да ми кажеш:
Пило ли йе мойно стадо вода,
пило ли йе, подминало ли е ?

5 — Като ма питааш, право ще ти кажа:
Двеста пиха, триста подминаха,
двеста пиха, триста подминаха,
а петсотин на брега стояха.

10 — Димитрице, гиздаво девойче,
земи пръчка, пръчка босилкова,
та прекарай мойно сиво стадо,
да си пйне арденска водица,
да си пйне арденска водица,
да си пасне зелена тревица.

5 септември 2002 г.

Бистра Гаджева

5. Агоска жетва да жена - I

娘は母親にお願いしました。母さん、あたしを高い山の上にある旦那の畑の刈取りにつれて行かないで。一緒に仕事をしている荒くれの若い畑番がギリシア語で話しかけても、あたしはギリシア語は分からないから、どう返事したらいいの。母親は娘を諭して言いました。旦那が広場にいれば畑番がギリシア語で話しかけることなどないから、行くんだよ。

— Немой ма, майчо, провада
нах високана планина,
нах високана планина
агоска жетва да женам,
5 агоска жетва да женам
с лудоно младо сейменче,
с лудоно младо сейменче.
То ше ми гарски продума,
то ше ми гарски продума,
10 пък ѝе са гърски не сетам,
пък ѝе са горски не сетам,
каг да му гарски отвърнам.
— Иди ми, ворви, дъщеро,
не ще ти гърски продума,
15 не ще ти гърски продума,
дур ѝе агана на мейдан.

14 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев

6. Агоска жетва да жена - II

娘は母親にお願いしました。母さん、あたしを旦那の畑の刈取りにつれて行かないで。一緒に仕事をしている荒くれの若い畑番がトルコ語で話しかけても、トルコ語は分からないから、どう返事したらいいの。母親は娘を諭して言いました。トルコ語で話しかけることなどないから、行くんだよ。でも刈取りに畑へ入ると、すぐに畑番はトルコ語で娘に話しかけました。ねえ、綺麗な娘さん、帯の隠しに千リラあるんだ。君が黒い瞳を[くれると]約束するなら、[この千リラは]残らず君ものだよ。

— Немой ма, майчо, привадай
агоска жетва да женам
с лудоно младо сейменче,
че ше ми турски продума,
5 пък йе са турски не съетам,
каг да му, майчо, отвърнам.
— Иде ми върви, дъщеро,
не ще ти турски придума.
Лу кайно флезе в жътвана,
10 лу кайно флезе в жътвана,
и той й турски придума:
— Девойко майери хубава,
девойко майери хубава,
бин лира имам ф кемирен
15 до анна халал да ти са,
до анна халал да ти са,
ако ми, майери, кайдисаш
твоине черни очинки.

19 март 2002 г.

Фатме Дервишева

7. Посниши се, Шар планина

暗い霧よ、晴れあがれ、シャル・プラニナの山並みよ、低くなれ。俺たちの村を見ることができるように、俺たちの村を、俺たちの家や綺麗な屋敷を見ることができるように。屋敷には、年老いた母親が腰を下ろして、手には双子の孤児^{みなしご}を抱いている。一人は尋ねる、かあちゃんはどこ。もう一人は尋ねる、とうちゃんはどこ。

Повдигни са, тъовна мъгла,
поснихчи са, Шир планина,
да си видям нашно село,
нашно село, нашна коща,
5 нашна коща, равни дворе.
На двор седи стара майка,
на двор седи стара майка,
на ръки доржи два близнака,
на ръки държи два близнака,
10 два близнака, два сирака.
Едноно пита: — Майка къде йе ?
Другоно пита: — Боба къде е ?

11 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев

8. Мен ме дали на камиляря - I

ねえ羊飼いさんたち、牛飼いさんたち、このアカシアやトネリコの森からあたしを連れ出して、あたしの村やあたしの家を見せてくれない。あたしの母さんと父さんは、九人の娘を産んで育て上げ、姉さんたちを全ての村にお嫁に出したのに、あたしには村がなくて駱駝飼いの家にお嫁に出したの。それで、彼らの駱駝を放牧しているのよ。あたしは、放牧しながら駱駝を呪っているわ。お前ら憎たらしいったら、ありゃしない。昼は横になり、夜は草を食んで、真夜中に水を飲むのだから。

— Брей офчаро, говедарьо,
искарай ма од горана,
от са гора люлекова,
люлекова, ясенова
5 да си видим нашо село,
нашно село, наше къща.
Мойта майка и бубайко,
те родили, те кутили
девет деца момичета,
10 та хи дали ф секо село,
за мен село не остана,
мен ма дали ф камилярна
да им пасам камилите,
хем ги пасам, хем ги кълнам,
15 хем ги пасам, хем ги кълнам,
дано пусти опустете,
денем лежат, нощем пасат,
посраде наш вода пиет.

9 септември 2003 г.

Бистра Гаджева

9. Мен ме дали на камиларя - II

あたしの母さんと父さんは、九人の娘を産んで育て上げ、全ての村に一人ずつお嫁に出したので、あたしには村がなくて駱駝飼いの家にお嫁に出しました。それで、彼らの駱駝を放牧しているんです。駱駝なんて憎たらしいったらありゃしない。昼は横になり、夜中に草を食んで、真夜中に水を飲むんだから。

Мойта майка, мойет баща,
те кутили, те хранили.
Те кутили, те хранили
девет деца момичета.
5 Девет деца момичета
ф сека село пъ анно дали.
Ф сека село пъ анно дали,
за мен село не йостана.
За менъ село не йостана,
10 ама даде ф камиляро,
ама даде ф камиляро
да ми пасам камилене,
да ми пасам камилене.
Камилене, пущинине,
15 камилене, пущинине,
дене лежат, ньци пасат,
дене лежет, ньци пасат,
посраде наш вода пиет.

13 септември 2003 г.

Небие Дервишева

10. Брадва му слънце грееше

まだ明けないのに、森では小鳥が鳴き出して歌を歌い出しました。エミンは小鳥の声に斧打つ音を合わせ、斧は日に輝いて、木っ端は遠く飛び散りました。エミンは、一日に七、八立方も伐採し、それで一番の褒賞を与えられました。

Още не са ѝе съвнало,
пиленце в гора запело,
пиленце в гора запело,
запело и засвирило.
5 Йемин му з брадва прегласе,
брадва му слънце грееше,
брадва му слънце грееше,
трески му далеч фъркаха.
На ден си Йемин насиче
10 по седем, осем кубика,
затова ѝе Йемин награден
с най-големана награда.

11 март 2003 г.

Бистра Гаджева

11. Разболя се какa Гана от ТКЗС-то

協同組合農場のガナお婆さんは病気になって、痛みを治療しに行きました。先生の前に立って、こんな風に言いました。ああ先生、ああ痛いんです、悪い病気に悩まされてます。頭から足まで、心臓の上のほうが。先生は良くなるようにとガナお婆さんに注射を打って、長期の休暇を取るように言いました。家にいて横になってなさい、仕事には出るんじゃないよ。そこで、ガナお婆さんは横になって、仕事には見向きもしなくなりました。夏が過ぎ、秋が過ぎ、冬が近づいて、労働賞与が支払われはじめました。ガナお婆さんは、待つこともなく時間も無駄にせず、一文も受取れないと分かって、先生に言いました。ああ先生、ああ痛い。あんたのせいだよ、あたしの病気が分からずに、それで、あたし夏じゅう横になっていたんだからね。

Разболе се какa Гана от ТКЗС-то

и отида какa Гана болки да лекува.

Пред доктора се исправе и му тѣй хортува:

— Ох, докторе, ох, боли, лоша болест ме мъчи
5 од главата ф краката и нагоре ф сърцето.

Инжекце ѝ той удари да се по-съвземе

и почишка той ѝ даде за по-дълго време:

— Стой си ф къщи и лежи, на работа не ходи !

И започна какa Гана да се излежава,

10 и за работата полска пет пари не дава.

Мина лято, мина есен, зимата настъпи,

и започнаха да плащат трудовните скъпи,

без да чака какa Гана, без да губи време,

но като разбра, че няма нищичко да вземе:

15 — Ох, докторе, ох, боли, ти виновен си бил ти,
болеста ми не позна, та лятото пролежах.

9 септември 2003 г.

Бистра Гаджева

VIII. 病と死

1. Млада невеста е умрела

ダヴデヴォ村の中央の集落でどんなことがあったのか、聞きましたか。白いお屋敷の若妻が、病の床につき、十日目に亡くなったんだ。誰もが死者に弔いの歌を歌い、村じゅうが涙を流しました。

Та чули ли сте, не ли сте
кина ѝе ново станало,
кина ѝе ново станало
в Давудево село големо,
5 в Давудево село големо
на средничкана махала ?
Млада невеста легнала,
девет ѝе дене лежела,
девет ѝе дене лежела,
10 на десетно ѝе, хьо-хо, умрела,
че фси ѝ селе рокаха,
цало ѝе село плачеа.

20 март 2002 г.

Салих Делисалихов

2. Дано ми либе разбудиш

母さん、歩き回って探し回ったけど、愛しい人はどこにもいなかったわ。愛しい人に似た人は誰もいなかったわ。ポプラのようにすらりと細身で、素敵なお洋服を着た仕立て屋さんは。葉が開き花が咲く春から夏に病の床についてたの。外で郭公が鳴いている。ねえ郭公さん、ここで鳴かないでおくれ。行って鳴いとくれ。綺麗なモスクの高いミナレットで。ねえ、郭公さん、二度ずつ繰り返して、愛しい人を起こしておくれ、覚めることない眠りについたあの人を。

Лу ходих, майчо, лу вардих,
нийде ми либе не видех,
нийде ми либе не видех,
никой ми либе не меса,
5 никой ми либе не меса
ф снашкана теньк селвие,
ф снашкана теньк селвие,
ф рубана ситан терзие,
ф рубана ситан терзие,
10 че легна болан да лежи,
че легна болан да лежи
на лету и на пролету,
на лету и на пролету,
на листе и на цветове,
15 на листе и на цветове
куквичка извън кукова,
куквичка извън кукова,
немой кукувай, куквичко,
немой кукувай, куквичку,
20 ям си ми иди, кукувай,

ам си ми иди, куковай
на шеренана джамие,
на шеренана джамие,
на високана минаре,
25 на високана минаре
по дваждарей, куковичку,
по дваждарей, куковичку,
дано ми либе разбудиш,
дано ми либе разбудиш,
30 чим ѝе либено заспало,
чим ѝе либено заспало
ф неразбуднине сънове.

13 септември 2003 г.

Небие Дервишева

3. Морна коса гнезда вие

娘はテラスの取付け椅子に腰かけて、鏡を右手に目の細かな櫛を左手に[持つて]、髪をくしけずりながら、[髪に]尋ねます。髪よ、髪よ、黒髪よ。誰があなたを楽しくしてくれるの。若者かしら、それとも鰥夫^{やもめ}。髪は答えます。若者でも鰥夫でもないらしいわ。[髪を]黒い土が汚して、黒髪は[蛇の]巢になり、すらりとした身体は土のなかで腐って行くのよ。

- Мома седи на йедрове,
на йедрове на кешкове,
в десна ръка огледало,
ф лева ръка ситан гребен.
- 5 Хем са чеше, хем ѝ пита:
— Косо, косо, морна косо,
косо, косо, морна косо,
кой ше тебе да шенова,
кой ше тебе да шенова,
- 10 дали юнак, или довец ?
— Не би юнак, не би довец,
ам привали черна земе,
ам привали черна земе,
морна коса гнезда вие,
- 15 морна коса гнезда вие,
тънка снашка в земе гние.

30 август 2002 г.

Фатме Дервишева

4. Да ме погребете на широки друми

ドーラは[死の床で]母親に尋ねました。母さん、ねえ優しい母さん、娘たちは死ぬの、許婚のいる娘たちも。母親はドーラに言いました。ドーラ、ねえあたしのドーラ、娘だって死ぬんだよ、許婚のいる娘たちだって。ドーラは母さんに言いました。母さん、ねえ優しい母さん、あたしが死んだら、広い通りに葬ってね。ディニュ・バクラルチェが、灰色の羊の群れを引き連れてそこを通るから。そしてあたしに言うでしょう。起きろよ、ドーラ、起きろよ。お土産を持ってきたぞ。クサンティの乾葡萄とエナメル靴を。[あたしは答えて言うでしょう。]起きることが出来ないわ。蛇があたしの黒い目を飲み、あたしの金色の髪の毛に[蛇が]巣を作っているの。

Дора майци вика:

— Майчо, мила майчо,

майчо, мила майчо,

моми умираат ли,

5 моми умираат ли,

моми главеници,

моми главеници ?

Майка Дори вика:

— Доро, Доро моя,

10 и моми си умираат,

и моми главеници.

— Майчо, мила майчо,

йе ага си умрам,

йе ага си умрам,

15 да ма пограбете,

да ма пограбете

на широки друме,

дено ще да мини
Диню Бакларчено,
20 Диню Бакларчено
сас сивоно стадо
и ще да ми ръче:
— Стани, Доро, стани,
стани, Доро, стани,
25 армаган ти носам,
армаган ти носам,
скечофски стафиди,
скечофски стафиди
и лустри кондори.
30 — Ни мога да си стана,
змийка ѝе испила,
змийка ѝе испила
мойне чарни очи,
гнездо ѝе извила
35 ф мойна руса коса.

14 септември 2003 г.

Костадин Каневски

5. Незифинка болна лежи - I

Незифинкаは病で床に横たわり、死を迎えて苦悶していました。父親は、娘の枕元で椅子に座り、『コーラン』を誦読し、娘に言いました。起きろよ、起きろ、ネジフィンカ。娘は答えて言いました。ねえ優しい父さん、どうして起き上がれましょう。土があたしを押しつけて、[亡くなった]母さんがあたしを呼んでいるのに。

Незифинка болна лежи,
болна лежи, душа бере,
болна лежи, душа бере.
Бубайко ѝ до главана,
5 бубайко ѝ до главана,
до главана диван седи.
Бубайко ѝ диван седи,
диван седи, Коран пее.
— Стани, стани, Незифинко.
10 — Каг да стана, мил бубайко,
каг да стана, мил бубайко,
га ма земе потискала,
га ма земе потискала,
га ма майка порукала ?

11 март 2003 г.

Фильо Кънчев

и Рамадан Койнарчев

6. Незифинка болна лежи - II

Незифинкаは病で床に横たわり、死を迎えて苦悶していました。父親は、娘の枕元で椅子に座り『コーラン』を誦読し娘に言いました。起きろよ、起きろ、ネジフィンカ。娘は答えて言いました。ねえ優しい父さん、どうして起き上がれましょう。土があたしを望み、[亡くなった]母さんがあたしを呼んでいるのに。叔父さんのうちのネジフィンカを呼んでください。あたしは[もうお嫁に行けないので]、嫁入り支度の品々を彼女にあげるから。

Незифинка болна лежи,
болна лежи, душа бере.
Бубайко хи до главана
диван седи, Коран пее,
5 диван седи, Коран пее.
— Стани, стани, Незифинко.
— Каг да стана, мил бубайко,
га ма земе поискала,
га ма земе поискала,
10 га ма майка порукала,
га ма майка порукала ?
Рукайте ми мижувана,
мижувана Незифинка,
да ги предам мойна руба.

17 март 2002 г.
Фатме Дервишева
и Бистра Гаджева

7. Оти ми плачеш, бубайко

娘は父親に言いました。ねえ父さん、どうして涙を流しているの。父親は娘に答えて言いました。なあ娘、何で泣かずにいられよう、何で涙を流さずにいられよう。春になり芽吹く時なのに、お前はまる九ヶ月、病の床についている。お前の恋人は結婚し、明日、式があるんだよ。娘は父親に言いました。父さん、もう言わないで、泣かないで。あたしも式があるわ、黒い冷たい土と結婚するの。

— Оти ми плачеш, бубайко,

оти ми сълзи преливаш ?

— Каг да не плачем, дъщерко,

каг да не сълзи преливат,

5 какво са пролет пукнало,

пък ти си болна легнала,

пък ти си болна легнала

целички девет месеца,

пък ти си болна легнала

10 целички девет месеца.

Любено ти са южени,

ютре ще свадба да има.

— Мълчи, не плачи, бубайко,

и йе ща свадба да имам,

15 и е ща свадба да имам

чернана земе студена.

11 март 2003 г.

Фильо Кънчев

8. Норие ще курбан да ида

母さんは、三人も四人も娘を育てましたが、三人は土に眠り、一人ノリエが残されました。そのノリエもひどい病気にかかって、母さんはノリエに言いました。ねえノリエ、母さんの娘、ノリエがなおったら、白い[羊の]供犠を捧げようね。ノリエは答えて言いました。母さん、分かってよ、[墓への]旅立ちの準備をしてよ。ノリエが供犠に行くのだから。

Кутила майка, гледала,
кутила майка, гледала
до три до четри дъщери,
до три до четри дъщери,
5 до три до четри дъщери,
до три до четри дъщери.
Трине са в земе легнали,
трине са в земе легнали,
трине са в земе легнали,
10 трине са в земе легнали,
анна Норйенка йостана,
янна Норйенка йостана,
янна Норйенка йостана,
янна Норйенка йостана
15 и те йе тешко болничка,
и те йе тешко болничка.
Пък й майка й викаше,
пък й майка й викаше:
— Норие, майчина дъщеро,
20 Норие, майчина дъщеро,

ако са Норие направиш,
ако са Норие направиш,
бел ше ти курбан заколем,
бел ше ти курбан заколем.

25 — Сетай са, майчо, збирай са,
сетай са, майчо, збирай са,
Норие ще курбан да идем,
Норие ще курбан да идем.

13 септември 2003 г.

Небие Дервишева

9. Дълбочко ще ме заровят

Мфметога, 沈んだ顔つきで綺麗なモスクから、高いミナレットから戻ってくると、母親は彼に尋ねました。ねえメフмет、母さんの息子、どうしてそんな悲しげで沈んでいるんだい。息子は答えて言いました。明日はピラム祭、明後日は本祭あまつてと言うことで、娘や若妻たちが、ブランコを作ろうとみんな集まっているけれど、俺には棺が作られて、俺は遠くに運ばれて深く埋められるのだね。

Мехмеци иде кахъран
от шеренана жемие,
от шеренана жемия,
од високана минаре,
5 од високана минаре,
пък го майка му питаше,
пък го майка му питаше:
— Мехметьо, майчин сино льо,
Мехметьо, майчин сино льо,
10 оти си киман, кахъран,
оти си киман, кахъран ?
— Каг да ми не съм кахъран,
каг да ми не съм кахъран ?
Утре са казва ден байрем,
15 утре са казва ден байрем,
пък заютрешник хас байрем,
пък заютрешник хас байрем,
врит че са зберат момине,
врит че са зберат момине,
20 момине и невестине,
момине и невестине,

прави щат люлки да правет,
прави щат люлки да правят,
пък мине летва ше сторет,
25 пък мине летва ше сторят,
далечко ше ма йунесат,
далечко ше ма йунесат,
длебочко ше ма заровет.

13 септември 2003 г.

Небие Дервишева

10. Рафинка болна легнала

ラフィンカは高い山で病気に横になりました。彼女のそばには誰もいず、ただ年老いた母さんがコップの水を運んでくれるだけでした。

Рафинка болна легнала
на височкана планина.
Немало никой до нейе,
сал една стара майчица
5 чешка ѝ вода носеше.

11 септември 2003 г.
Рамадан Койнарчев
и Милен Шаламанов

11. Митьо се болен разболял

Мичо̀は、高い山で枝振りのよい胡桃の木の下で病気になりました。乾草を刈っていた娘たちがミチョ̀に言いました。ねえミチョ̀、若いあなた、横になっていたら死んでしまうわよ。気分はどうなの、とつてもつらいの。ミチョ̀は答えて言いました。娘さんたちよ、俺はとつてもつらいんだ、憎たらしい春と夏だな、すべてが土から出てくるのに、俺は土に向かって旅立つなんて。

Митю̀ са болан разболел

на високана планина,

на високана планина

пот щълбатано орехче.

5 Девойки сено збираха

и си на Митьо̀ думаха:

— Митьо̀ льо, младо юначе,

кайно си лежиш, умираш,

какво ти е, Митьо̀, най-бално ?

10 — Най-бално ми е, девойки.

пустно лето-пролето,

сичко од земе излиза,

сичко од земе излиза,

пък ѝе нах земе търновам.

28 август 2002 г.

Бистра Гаджева

12. Паднал ми е ранен млад Стоян

傷ついた若いストヤンは、ハイドゥティンの緑の森で倒れました。あたりには水を運んで日陰を作ってくれて、傷をしばってくれる人は誰もいませんでした。彼の上で二羽の鷲が、二羽の灰色の隼が、輪を描いて回っていました。ストヤンは鷲たちに言いました。二羽の鷲よ、二羽の灰色の隼よ、俺の魂が抜けるまで、回っているよ。[俺の魂が抜けたなら、]そのとき低く下りてきて、白い肉をたっぷり食べて、赤い血をたっぷり飲んでくれ。でも、右腕は食べないで、口にくわえて高く持ち上げてくれ。広い屋敷のあるところ、ベランダでお袋が俺のシャツを縫っていたから、袖[の長さ]をはかるため、俺の腕をそこに落としてくれ。

Паднал ми е ранен млат Стоян
въф тае гора зелена,
зелена гора хайдушка.
Никой до нейе немаше,
5 никой до нее немаше
водица да му донесе,
сенчица да му направи
и люти рани привърже.
Над него виет два орла,
10 два орла, два сиви сокола.
Стоян на орли думаше:
— Вийте се, вийте, два орла,
вийте се, вийте, два орла,
два орла, два сиви сокола,
15 дорде ми душе излене,
тогас се ниско спуснете,
тогас се ниско спуснете,
белосо месо наяще

и черни кърве напийте,
20 десна ми ръка не яще,
десна ми ръка не яще,
най е ф уста земете,
та йе височко дигнете.
Де има двори широки,
25 де има двори широки,
и на двори чердаче,
на чердака ми майка ми,
майка ми риза шиеше,
майка ми риза шиеше,
30 там си ми ръка пуснете,
ръкава да ми премери.

11 септември 2003 г.

Рамадан Койнарчев

13. Кой ще ти води любето

母さんは息子に言いました。ねえ息子、ヤリフ、旅支度をして出かけるんだね。八十枚の大袋に四十頭の騾馬を引き連れて、スミリヤン村に秋刈りの羊毛を集めに行くんだね。ねえヤリフ、頼りになる道連れは見つけたかい。ヤリフは母さんに言いました。見つけたとも、母さん、黒い瞳と白い肌のエレンカさ。背が高くすらりとしたエレンカさ。二人はどンドン進み、聖者廟についたとき、二挺の銃がパンパンと鳴り、ヤリフに当りました。母さんは悲しんで泣いて言いました。ねえヤリフ、お前の馬は誰が引くんだい、お前の恋人は誰が連れて行くんだい。

— Ярифу, синко, Ярифо,
ти ми са збираш, търноваш
на Смилен ерна да збираш
със четридесет мулета,
5 със осемдесет харара.
Ярифо, синко, Ярифо,
найде ли верна дружина ?
— Найдох ми, майчо, найдох ми,
Йеленка бела, чернока,
10 Йеленка тенка, висока.
Вървели, колко вървели,
га са тюрбена стигнали,
чиф са са пушки пукнали,
та са Арифа удрили.
15 Майка му желно плачеше:
— Ярифу, синко, Ярифо,
кой ше ти води кончено,
кой ше ти води любено ?

14 март 2003 г.
Рамадан Койнарчев

14. На сърце ми китка посадите

なあヤグダム、なあヤグディツァ、緑の森で鉄砲がパンと鳴ったんだ。そいつが、一番立派な勇士に当たったんだ。その男はな、ああ心臓がなんては言わないで、ああ仲間たちよって言ったんだ。それで、なあヤグダム、なあヤグディツァ、その男は言ったんだ。倒れたところに俺を埋めてくれ、俺のナイフで墓を掘ってくれ、俺の頭の場所に水場を作ってくれ、そして、俺の心臓のところに花を植えてくれってな。

— Пушка пукна, Ягдъм,
пушка пукна, Ягдице,
пушка пукна във гора зелена,
пушка пукна фъф гора зелена.
5 Та удари, Ягдъм,
та удари, Ягдице,
та удари най-добрие юнак,
та удари най-добрие юнак.
Та не вели, Ягдъм,
10 та не вели, Ягдице,
та не вели, ох леле, сърчице,
ам си вели: “Ох леле, другари,
дето падна, — Ягдъм*,
дето падна, — Ягдице*,
15 дето падна, там ме заровете,
дето падна, там ме заровите.
С ножове ми, — Ягдъм,
с ножове ми, — Ягдице,
с ножове ми гроба ископайте,
20 с ножове ми гроба ископайте.

На глава ми, — Ягдъм,
на глава ми, — Ягдице,
на глава ми чешме оградите,
на глава ми чешме оградите.
25 На сърце ми, — Ягдъм,
на сърце ми, — Ягдице,
на сърце ми китки посадите,
на сърце ми китки посадите.”

14 март 2003 г.

Рамадан Койнарчев

* 以降、Ягдъм と Ягдице の語は、会話とは関わりがなく、囃子言葉的な機能を果たす呼びかけとして用いられているので、その意味を表すためにダージ（一）で会話部分と分離した。

15. Трима лекари дойдоха

商人の娘が病気になりました。病の床については元気にと、病気は一進一退でしたが、とうとう毎日、病の床につくようになりました。父親は、独身者をと注文つけて、三人の医者呼びました。一人は枕元で触診し、二人目は心臓を聴診し、三人目がギリシア語で言いました。この娘は快復しないだろうから、毒を盛ってしまおうと。娘は学があり、ギリシア語が分かり言いました。父さん、この人たちの腰を上げさせて追っ払ってよ。若くおぼこのままで死んでしまえと、あたしに毒を盛ろうとしてるのよ。

- Разболела са момата,
момата на търговеца.
Ден болна лежи, ден здрава,
а сега почна секи ден.
- 5 Баща ѝ ръче, поръче
трима лекари да дойдат,
тримата да са ергени.
Трима лекари дойдаха,
първе ѝе пипа на глава,
- 10 фторе ѝ слуше сърцено,
трете си гръцки продума:
— Хатге щем да ѝе отровим,
хатге щем да ѝе отровим,
за тая мома лек нема.
- 15 Момата била учена,
та са ѝе гръцки сетала.
— Стани ги, татко, испъди,
те искат да ма отровет,

те искат да ма отровет,
20 млада, зелена да умра.

11 март 2003 г.
Бистра Гаджева

イスラム文化研究第77集

—イスラム教徒・キリスト教徒共住村—
ダヴィドコヴォ村民衆歌謡集

(1) テクスト編

寺島憲治 編

2004 (平成 16) 年 11 月 25 日

発行 東京外国語大学
アジア・アフリカ言語文化研究所
〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1
Tel 042-330-5600

印刷 株式会社東京プレス
東京都板橋区桜川 2-27-12

